

右ハ前ニ辨明スル如クナルヲ以テ改正雇人盜家長財物律ニ依リ竊盜ヲ以テ論シ一等ヲ加  
〜賍金壹圓以上再犯ナルヲ以テ又一等ヲ加〜

懲役八十日

第三百四十四號

○判文(放火ノ件)明治十四年三月十四日上告  
明治十四年三月廿四日判決

東京府四谷區南伊賀町十八  
番地士族

早川貞之

明治十四年二月  
四十二年

明治十四年三月三日東京裁判所ニ於テ右貞之ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
其方儀火難ニ乗シ財物ヲ竊取セント圖リ佐久間辰五郎カ居室ニ放火スル科放火條ニ依リ  
未ダ燒燬ニ至ラサルヲ以テ除族ノ上懲役十年申付ル

右貞之ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年三月十四日本院ニ上告スル旨趣左ノ如シ

第一條

私性來魯鈍白痴加之兩目トモ近眼ナレハ既ニ一家ヲ維持スル能ハサルヨリ妻父太田正次  
ニ活計筋ハ勿論世間ノ交際等ニ至ルマテ悉皆依頼シ置キシカ客年來妻父正次ノ指揮ニ從  
ヒ新聞配達業ヲ授ケラレ右配達方スラ難クシテ人并ニ勞動スル能ハス難事ニ逢フハ精  
神錯亂ノ殆ト人事ヲ辨セス終ニ瘋癲病ヲ發シ自死セント欲シ止メラル、二三回ニ及フ此

等ノ情實ヲモ篤ト御推究アランヲチ

第二條

本年二月二十一日マテ東京四谷區南伊賀町十八番地ニ寓居候處同夜同區篁笥町三番地ヨ  
リ出火ニテ類燒仕親類麴町區麴町十丁目十七番地主族近藤重之方ハ家族一同立退候處同  
家手狹ニ付翌二十二日同區下六番町十七番地ニ明家有之右近藤重之周旋ヲ以テ借受妻父  
太田正次ト共同借入然ルニ同夜常職新聞配達終テ歸宅ノ際私入湯致シ歸路闇夜加之昨今  
親類ニ依頼シ轉住ノ所ニテ路地不明ニ付提灯相用度モ囊キニ類燒ノ際諸道具等燒失ニ因  
リ早附木並蠟燭相求ノ同番地長屋角ヨリ自分宅迄足場不宜ニ就キハダカ蠟燭ニ早附木ヲ  
以テ點火候際同所ノ往還通行人ニ放火爲サント企ツル者ト誤認セラレ遂ニ巡行巡查ニ引  
渡サレ直ニ赤阪區表町警察署ニ至リ夫々放火ノ手續キヲ白狀可致旨御糾問ニ相成候得共  
素ヨリ有意ニ非サルヲ以テ吐露不仕候處御糾問掛リ官吏被仰候ハ自分義放火不致旨何様  
包藏致居候共當署ニ於テハ最早夫々手配ノ上犯罪ノ證據等有之上ハ其申立難相立猶陳述  
不致ニ於テハ如斯爲スヘキ旨探索掛等ヨリ督責ノ上重キ拷訊ニ相成何共可堪道無之非命  
ノ死ヲ遂ルヨリ寧ロ一時冤罪ニ伏シ候ヨリ外ナシト思考シ全ク放火致シ候旨申立候得ハ  
即チ口供ニ摺印等仕候ニ因リ前記御處分ヲ蒙リタリ

第三條

告發書及ヒ早附木蠟燭並ニ薄線等ヲ以テ強テ證據物ニ供スト雖モ元來薄線ノ儀ハ何ヨリ  
取出シタルヤ私ニ於テ少モ存シ不申然ルニ之レ等ヲシテ證據ナリトシ敢テ辨解ヲ容レサ

ルト雖モ之レ少シク事實ヲ推考スルモハ無證據タル判然タリ

第四條

火難ニ乗シ財物ヲ竊取セント圖リ佐久間辰五郎居室ニ放火スル科云々ト御宣告ナルトモ  
佐久間辰五郎居室ハ<sup>駒河區下六番</sup>ニシテ該時自分借家モ<sup>本年二月廿一日夜四谷區南伊賀町十八番地ニ</sup>  
<sup>翌廿二日佐久間辰五郎住居ヲ竊ルト聞程</sup>有之右駒河區下六番丁十七番地<sup>轉住</sup>ハ假令自分貧困ニ余リ單ニ他人  
財物ヲ竊取スルコトアルモ近隣ナル辰五郎ノ居室ニ放火スル等ノ事アルハ自己ノ居室ハ  
勿論親類等へ延燒スルハ必然ナレハ放火スル理由ナキハ必然ナリ是レ此意ヲ深ク御洞察  
ノ上爰ニ東京裁判所ニ於テノ御裁判ヲ破毀シ御審明ノ御裁判アランコトヲ奉希望候

辨明

原裁判所ノ書類ヲ閱スルニ被告早川貞之カ現行犯罪ヲ發見シ捕獲シタル松澤吉正カ始末  
書ニ「凡六間程先ノ方ニマツチヲ燈ス者アリ怪キ者ト見認メ近付キ見ルニ庭ノ如キ物へ  
マツチニテ火ヲ付ケ居ルニ付何者ナルヤト聲ヲ掛ケ取押ヘントセシニ忽チ逃去ラント抗  
抵スルニ付尙ホ屈セス組付キシニ心得違ヒニ付差許サレヨト頻リニ申聞」云々又被害入  
佐久間辰五郎ノ書面ニ「現場相改メタル處同日子供ノ遊ヒ場へ用ヒタル壘表敷物ヲ表窓  
ノ下ニ立掛シ儘打忘レ置タル敷物ニ放火致シ既ニ少々燃拔ケ之アリトアリ而テ貞之カ  
麴町警察署於テ爲シタル口供ニ「貧乏ノ余リ惡念ヲ發シ此際近隣ニ火ヲ放チタレハ果ソ  
動搖可致其混雜ニ乗シ衣類物品ヲ盜取賣却可致心得ニテ麴町十丁目ニテ藁屑ヲ拾ヒ集メ  
兼テ用意罷在ルマツチヲ取出シ其節名前不知麴町區下六番町佐久間辰五郎方軒下ニ古ゴ

ザノ立掛アルヲ幸ヒ藁屑ヲマルメ既ニ火ヲ燈シ燃草ニ移シタル際背面ヨリ被差押」云々  
ト自白シ松澤吉正等カ始末書ニ着々相符合セリ其他前書筈及ヒマツチ藁屑ノ現存スルア  
リテ火ヲ放チタルノ證據判然タリ然ハ則貞之カ口供ハ眞實ノ自狀ニシテ其放火シタルモ  
ノニ非ストノ申立ハ相立サルモノトス故ニ原裁判所ニ於テ放火條ニ依リ未タ燒燬ニ至テ  
サルヲ以テ除族ノ上懲役十年ニ處斷シタルハ不法ノ裁判ニ非ス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年三月三日東京裁判所ニ於テ早川貞之ニ言渡シタル裁判ハ破  
毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スルモノ也

第三百四十五號

○判文(竊盜再犯ノ件) 明治十四年三月八日上告  
明治十四年三月廿四日判決

神奈川縣大住郡丸島村四十

七番地平民

田 中 幸 七

明治十四年二月  
三十七年

明治十四年二月二十八日横濱裁判所ニ於テ右幸七ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
其方儀竊盜ノ科ニ依リ數度處刑ヲ受ケ改心セス尙又二宮忠左衛門方ニ於テ竊取スル賍金  
四圓ノ科賊盜律竊盜條ニ擬シ懲役六十日犯數五度ニ及フト雖初犯ハ癡疾以前ニ在リ再犯  
ハ自首シテ免罪三犯ハ癡疾ヲ以テ収贖四犯ハ凡人初犯ノ例ヲ以テ論ス可キ者ト爲ス因テ

律例第四十八條及再犯加等罪例ニ照ラシ凡人再犯ヲ以テ論シ本罪ニ一等ヲ加ヘ懲役七十日申付ル

横濱裁判所詰檢事安居修藏ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年三月八日付司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀左ノ如シ

一横濱裁判所ハ本犯田中幸七ニ宣告ヲ爲シテ曰ク犯數五度ニ及フト雖モ初犯ハ癡疾以前ニ在リ再犯ハ自首シテ免罪三犯ハ癡疾ヲ以テ収贖四犯ハ凡人初犯ノ例ヲ以テ論ス可キ者ト爲ス因テ律例第四十八條及再犯加等罪例ニ照シ凡人再犯ヲ以テ論シ云々トアルニ據レハ癡疾以前ニ犯シタル盜罪ハ癡疾中ニ犯シタル盜罪ニ別異シテ之ヲ犯數ニ數エストノ意旨ナルカ如シト雖モ例第四十八條ニ於テハ其明文ナシ按スルニ該條中三犯以上ハ凡人再犯以上ノ例ニ照シテ加等スノ文字ハ是レ止タ癡疾中ノ竊盜罪ノミヲ想像シタルノミニシテ癡疾前ノ竊盜罪ノ如キハ無論再犯加等罪例ニ照シテ之ヲ犯數ニ數エヘキナリ畢竟該條律意ノ在ル處ヲ推考スルニ癡疾者ノ盜罪其収贖セラレタルモノハ之ヲ犯數ニ數ヘス其収贖セラレサルモノハ凡人盜罪ニ等シク之ヲ犯數ニ數フルノ意旨ニ外ナラサルヘシ既ニ癡疾者ノ盜罪ト雖モ其収贖セサル者ハ之ヲ犯數ニ數フ況ンヤ癡疾以前ノ盜罪ヲ以テ之ヲ犯數ニ數ヘサルノ理アラシヤ又之ヲ犯數ニ數ヘサルノ明文ナキニ於テチヤ若シ横濱裁判所ノ判決ノ如ク癡疾前ノ盜罪ヲ以テ例第四十八條ノ犯數ニ數ヘサルノ理由アラハ癡疾痊愈ノ後ニ犯シタル盜罪モ亦之ヲ犯數ニ數ヘスト云ハサルヲ得ス豈ニ如此ノ理アラシヤ

辨明

抑モ老小癡疾収贖條ハ名例律中故サラニ一例ヲ設ケ通常凡人ノ罪例ト殊異ナルヲ示シ而シテ其例第四十八條ハ老小癡疾ノ犯罪上加重減輕ノ方法ヲ記載シタル者ナリ之ニ係テ之ヲ視レハ右例第四十八條中ニ癡疾前ノ犯罪ハ犯數ニ數ヘ加等スルカ又ハ通常再犯加等罪例ニ據ルトノ明文ヲ掲ケサル以上ハ癡疾以前ノ犯罪ヲ舉テ癡疾中ノ犯罪ニ數ヘ加等スルヲ得サルモノトス被告事件ハ癡疾以前ニ竊盜ノ處斷ヲ受ケ又タ癡疾中重テ竊盜ヲ爲シ其癡疾中ノ犯數三犯ニ該ルヲ以テ原裁判所ニ於テ律例第四十八條及ヒ再犯加等罪例ニ照シ凡人再犯ヲ以テ論シ本罪ニ一等ヲ加ヘ懲役七十日ニ處斷シタルハ相當ナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ横濱裁判所ニ於テ明治十四年二月二十八日田中幸七ニ言渡シタル裁判ハ破毀スルノ理由ナシ

第二百四十六號

○判文(賭博自首ノ件)明治十四年二月廿二日上告  
明治十四年三月廿五日判決

愛知縣三河國碧海郡逢見村

平民彌吉弟

坂田仙吉

明治十四年二月二十六日七ヶ月

同縣同國同郡同村平民仙藏

長男

永野彦次郎  
明治十四年二月十七年七ヶ月

同縣同國同郡一ツ木村平民

二宮惣三郎  
明治十四年二月二十四年七ヶ月

同縣同國同郡知立村平民

石井善助  
明治十四年二月二十三年二ヶ月

明治十四年二月十二日名古屋裁判所岡崎支廳於テ右仙吉外三名ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方共儀明治十四年一月三十一日同郡一ツ木村西川清七宅ニ於テ數名集會金錢ヲ賭シ博戲ヲ爲ス科賭博律ニ依リ杖八十捕吏ノ逮捕ヲ受ルニ臨テ現場ヲ逃走スルモ后自首スルヲ以テ情狀ヲ酌量シ三等ヲ輕減シ各答五十申付候事

愛知縣九等警部佐藤森久於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年二月二十二日付ヲ以テ司法卿ヲ經由シ明治十四年三月十四日本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ  
抑該犯等ハ金ヲ賭ケ博戲シ其犯捕ニ就クノ際賭場ヲ逃走スルモ到底追捕ノ進レ難キヲ知リ自首シタル者ニシテ悔懼ノ心尤薄シト雖モ逮捕ノ勞ヲ減省スルノミナラズ賭博犯ニ限リ自首スルモ減免ヲ與ヘサルノ正條ナシ故ニ例第五十九條ニ依リ聞捕自首ヲ以論シ本罪ニ一等ヲ減スヘキヲ茲ニ出ス斷罪無正條々例增加律ニ照シ自首減輕ヲ與ヘタルハ不法ノ

裁判ナリト考量ス

辨明

被告仙吉外三名カ明治十四年一月三十一日西川清七宅ニ於テ金錢ヲ賭シ博戲シタルハ雜犯律賭博條ニ依リ懲役八十日ニ處スヘク處逮捕ノ際現場ヲ逃走シ自首スルヲ以例第五十九條ニ照シ聞捕自首ヲ以論シ本罪ニ一等ヲ減スヘキ者ト爲ス然ルヲ原裁判茲ニ出テス啗ニ情狀ヲ酌量シ三等ヲ輕減シ各答五十ト處斷シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年二月十二日名古屋裁判所岡崎支廳ニ於テ坂田仙吉外三名ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

- 坂田 仙吉
- 水野 彦次郎
- 二宮 惣三郎
- 石井 善助

右ハ前ニ辨明スル如キニ因リ雜犯律賭博條ニ依リ懲役八十日ノ處現場逃走ノ末自首スルニ付例第五十九條ニ照シ聞捕自首ヲ以論シ本罪ニ一等ヲ減シ

各懲役七十日

第三百四十七號

○判文〔賭博ノ件〕明治十四年三月五日上告  
明治十四年三月廿五日判決

兵庫縣播磨國飾東郡妻鹿村

百六拾壹番屋敷平民

太田竹次郎

明治十四年

二十七年

右竹次郎カ所爲ニ對シ明治十四年二月二十六日神戸裁判所姫路支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀明治十四年一月三十一日神東郡粟賀村中安治三郎宅ニ於テ福永忠七等數名ト金錢ヲ賭ケ博戯ヲ行フ場所ニ加ハリ手合ノ合力ヲナシ金拾五錢ノ代リニ附木十五枚貰受タル旨白狀ニ及ヒ爾後之ヲ反異シ拾五錢ノ代リニ附木ヲ貰ヒ受ケタルハ相違ナキモ敢テ合力ヲナシタルコトナシト辨護スルモ賭場ニ於テ故ナシ金錢ヲ貰ヒ受クヘキ謂ナシ且前供ヲ取消スヘキ反對ノ證左無之ヲ以テ其言ヲ徵スルニ由ナシ依テ右科雜犯律賭博條ニ照ラシ賭博ト同シク論シ懲役八十日ニ處スヘキ處情狀ヲ酌量シ二等ヲ減シ懲役六十日申付ル  
太田竹次郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法也トシ明治十四年三月五日本院ニ上告ノ要領左ノ如シ  
自分儀中安治三郎宅ニ於テ數名賭博ヲ爲ス際ニ出會其節數名ヨリ附木拾五枚ヲ渡シタルニ依リ其所以ヲ治三郎ニ問フニ後チ金員ト交換ナシ遣ス旨ヲ申聞ルモ自分素ヨリ貰ヒ受クヘキ理由ナキ故直ニ之ヲ返却シタレハ貰ヒ受ケタル事無之然ルニ警察署ニテ爲シタル口供ニ自分賭博ノ合力ヲ爲シ金員ノ代リニ附木拾五枚ヲ貰ヒ受ケタル旨ヲ申立シハ官吏ノ拷訊ニ堪ヘ難キヨリ出テ之レニ摺印シタリトノ事

辨明

被告太田竹次郎カ當初警察署ニ於テ爲シタル口供ヲ閱スルニ(明治十四年一月三十一日播磨國神東郡粟賀町村旅籠屋吉五郎方ニ居合午後八時頃當村ノ姓不知仙次郎同郡白濱村ノ姓不知房吉自分三人ニテ神東郡中村ノ溝口屋ニ參リ候處云々右房吉ヤ溝口屋ノ亭主ヤ姓名不知人三四人ニテ賭博相初メ候ニ付自分合力致シ金拾五錢ノ換リニ附木拾五枚勝タルモノヨリ貰ヒ受ケ候事)ト陳述シタルハ已ニ原裁判所カ斷定ノ如ク眞實ノ白狀ナリトス故ニ右科賭博者ト同シク論シ懲役八十日ノ處情狀ヲ酌量シ二等ヲ減シ懲役六十日ヲ言渡シタルハ相當ノ裁判ニシテ被告ノ上告ハ相立タサルモノトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年二月二十六日神戸裁判所姫路支廳ニ於テ太田竹次郎ニ言渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スルモノ也

第三百四十八號

○判文(親屬相盜ノ件)明治十四年月三日上告  
明治十四年月三廿五日判決

愛知縣尾張國海西郡劍浦村

二十番邸平民

芳鐘德次郎

明治十四年二月

十八年

右德次郎カ所爲ニ對シ明治十四年二月二十三日名古屋裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀明治十四年一月二日來祖父ナル海西郡綱浦村平民芳鐘清吉方ニ於テ金員物品ヲ竊取スル賍金三拾圓以上ノ科親屬相盜律ニ依リ懲役九十日ノ處ニ等親ナルヲ以テ四等ヲ遞減シ懲役五十日申付候事

愛知縣六等警部高島正載ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年三月四日附テ以テ司法卿ヲ經由シ明治十四年三月十五日本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

芳鐘德次郎

右ノ者ニ等親ノ財物ヲ竊取スルヲ以テ明治十四年二月九日名古屋裁判所へ及公訴タル處同年二月二十三日同衙ニ於テ別紙甲號刑名宣告書ノ通り賍金三拾圓以上ノ科親屬相盜律ニ依リ懲役九十日ノ處ニ等親ナルヲ以テ四等ヲ遞減シ懲役五十日ニ處斷セリ抑モ該犯タルヤ別紙乙丙號醫師診斷書ノ通り癱疾者ナルヲ以テ親屬相盜律ニ依リ凡人ニ四等ヲ遞減シ懲役五十日仍ホ老少癱疾收贖律ニ照シ收贖金壹圓貳拾五錢ニ處ス可キモノナリ然ルニ名古屋裁判所ニ於テ實斷ニ處シタルハ不當ノ裁判ト見込候ニ付一件書類相副此段及上告候也

辨明

被告芳鐘德次郎カ所犯ハ親屬相盜律ニ依リ處斷スヘキモ癱疾ニ罹ルヲ以テ本刑ヲ收贖スヘキモノナリトス其癱疾者タルハ名古屋監獄署詰二等獄醫村井淡水及名古屋裁判所御用掛リ醫夏目重敏カ診斷書ニ於テ明瞭ナリ然ルテ原裁判所ニ於テ之ヲ實斷シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年二月二十三日名古屋裁判所ニ於テ芳鐘德次郎ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

芳鐘德次郎

右ハ前ニ辨明スル如クナルヲ以テ本刑懲役五十日ノ處癱疾者タルニ依リ老少癱疾收贖律ニ照シ

收贖金壹圓貳拾五錢

第三百四十九號

○判文(賭房開張ノ件) 明治十四年三月四日上告  
明治十四年三月廿五日判決

愛知縣尾張國名古屋區裏筒

井町二十六番邸平民銀次郎

妻

田中千代

明治十四年二月

二十七年

右「チヨ」カ明治十四年二月二十五日名古屋裁判所ニ於テ審問ヲ受ケ爲シタル口供左ノ如シ

一是迄御處刑ヲ受ケタルヲ無之候事  
一自分儀明治十四年二月十八日永谷伊三郎へ座敷貸與へ同人外五人入賭博スルヲ默許致居候事

一右ノ處へ巡查衆御踏込ニ相成伊三郎御取押相成候事  
右ノ通相違不申上候以上

右ノ口供ニ依リ明治十四年二月二十五日名古屋裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ宣告セリ

其方儀明治十四年二月十八日榮町水谷伊三郎外五人ノ爲メ賭房ヲ開張セシムル科賭博律ニ依リ懲役八十日三等ヲ酌減シ懲役五十日婦女ナルニ依リ例ニ照シ収贖金壹圓貳拾五錢申付候事

愛知縣警部代理一等巡查神田道堅於テハ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ明治十四年三月四日附司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀旨趣左ノ如シ

田中 三ヨ

右ノ者人ノ自宅ニ於テ賭博スルヲ默許セシ廉ナ以テ明治十四年二月二十四日別紙甲號書類ノ通名古屋裁判所ニ及公訴候處同月廿五日同裁判所ニ於テハ賭博ヲ開張セシムル科賭博律ニ依リ懲役八十日三等ヲ酌減シ懲役五十日婦女ナルニ依リ例ニ照シ収贖金壹圓貳拾五錢申付ル旨宣告セリ抑モ本犯ノ犯罪タル賭房ヲ開張シ又ハ開張セシメタルモノニ非ラズ單ニ水谷伊三郎ノ依頼ニ應シ座敷ヲ貸與シ後右伊三郎等ニ於テ博戲ヲ開張シタルヲ知テ默許セシニ止マリシ者ナルヲ以テ違式輕ニ問ヒ収贖ヲ聽ス可キモノト思考ス然ルニ同衙ニ於テハ前陳ノ如ク賭博律ニ問ヒ酌減シテ科シタルハ失當ノ裁判ト見込ニ候ニ付罪按書悉皆相副此段及上告候也

辨明

田中「三ヨ」於テハ水谷伊三郎外五名ニ座敷ヲ貸シ與へ同人等カ博戲スルヲ默許シタルモノナレハ賭博條ニ依リ處斷スヘキモノトス故ニ原裁判所ニ於テ賭博條ニ依リ酌減シテ處斷シタルハ不當ノ裁判トナスヲ得ス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年二月二十五日名古屋裁判所ニ於テ田中「三ヨ」ニ宣告シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナシトス

第三百五十號

○判文(巡查ヲ罵詈セシ件)明治十四年二月廿八日上告  
明治十四年三月廿五日判決

千葉縣上總國長柄郡内長谷

村平民薰次郎弟

齋藤 庄三郎

明治十四年三月  
二十四年七月

右庄三郎カ所爲ニ對シ明治十四年二月二十三日水戸裁判所管内土浦區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀酒狂ノ末茨城縣ノ巡查片岡寅吉及ヒ細谷治平ヲ罵ル科罵詈律罵人條ニ依リ懲役十日申付ル

茨城縣九等警部立花精一郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年二月二十八日附テ以テ大審院ニ上告スル爲メ司法卿ヲ經由シテ大審院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ

如シ

一 巡查ヲ罵詈スルモ本屬ノ巡查ニ非ラサルヲ以テ凡人ヲ罵ルト均シク例第二百三十七條  
 本屬ノ戸長ヲ罵ル者云々ニ牽連シ邏卒ヲ罵ルモ又本屬ノ限アルト同一視セシ者ノ如シ抑  
 巡查ノ職務タルヤ保護上人民ノ直接對遇ニ至リテハ何ソ其所屬内外ノ人別如何ヲ問ハ  
 ヤ將又外見上ニ於ケルモ一定ノ制服東京府警棒ノ官裝アリ一目以テ其巡查タルハ明瞭ナ  
 ラン之レヲシテ其職掌範圍ノ狭少且無制裝ノ戸長ト同一視シテ本屬ヲ別ツキハ罵詈ノ律  
 意何ニアルカ豈ニ曖昧ト言ハサルヲ得ス之レ例第二百三十七條中特ニ戸長云々ノミ本屬  
 ナ冠ラシムルハ即チ該文意ヲ明示スル者ナリ況ンヤ敢テ引證スルニ非サレハ明治七年二  
 月御省日誌第四十九號水澤縣伺第四條ニ平民本屬ニ非ラサル等外吏區戸長邏卒番人ヲ罵  
 ル者云々ノ項ニ等外吏及邏卒番人ヲ罵ルハ本屬ニ非スト雖モ加等スヘキ旨趣ノ御指令相  
 見ヘタリ依テ巡查ハ本屬ノ如何ヲ問ハス凡人罵詈ニ二等ヲ加フル者ト見込候條該宣告ノ  
 破毀ヲ求メシ爲メ及上告候也

辨明

改定律例第二百三十七條ニ本屬トアルハ獨戸長ノミヲ指シ邏卒ニ牽及セシ者ニ非ス因テ  
 齊藤庄三郎カ巡查片岡寅吉ヲ罵詈シタルハ内外ノ如何ヲ問ハス同條ニ依テ論シ凡人罵詈  
 ニ二等ヲ加ヘ懲役三十日ニ處斷スヘキモノトス然ルチ原裁判所ニ於テ罵詈律罵人條ニ依  
 リ懲役十日ノ裁判言渡シテ爲シタルハ不適當ノ裁判ナリト爲ス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年二月二十三日水戸裁判所管内土浦區裁判所ニ於テ齊藤庄三  
 郎ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スルヲ左ノ如シ

齊藤庄三郎

改定律例第二百三十七條ニ依リ凡人罵詈ニ二等ヲ加ヘ

懲役三十日

第三百五十一號

○判文(賭博ノ件)明治十四年三月八日上告  
明治十四年三月廿五日判決

愛知縣三河國碧海郡大濱村

平民角谷春吉次男

角谷 佐七

明治十三年三月  
廿五年七月

右同村平民板倉彦三郎甥

板倉 勝三郎

明治十三年五月  
十九年三月

明治十四年三月三日名古屋裁判所岡崎支廳ニ於テ右佐七勝三郎兩人ニ左ノ裁判ヲ言渡シタ

其方共儀明治十四年二月十二日岡本信藏宅ニ於テ金錢ヲ賭ケ博戯ヲ爲シタル科賭博律ニ  
 依リ杖八十現場ニ於テ捕吏ニ認メタル、モ未タ全ク拿捕ニ就カスシテ逃走シ后チ首出ス



ルヲ以テ情狀ヲ酌量シ一等ヲ輕減シテ各杖七十申付候事  
愛知縣十等警部清水雄藏ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年三月八日附テ以テ司  
法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ趣旨左ノ如シ

抑モ賭博ノ罪タル止テ現在發覺ノ人ヲ坐ス其非現行犯ニ及ハサル者ハ轉テ相援引スレハ  
遂ニ誣指濫及ニ陥リ其停止スル所ヲ知ル可カラサルニ至ル弊害ノ恐レアル故ナリ現在發  
覺ノ人トハ現場就捕ノ人ノミナリ云フニ非ラス捕押ノ際現場ヲ逃シ追テ自首スルモノト雖  
モ捕吏ノ撞見ニ係ルヲ以テ現在發覺ノ人タルヲ免レヌ只捕獲原狀ノ相異ナリ而シテ其現場  
ヲ逃シ追捕ノ嚴ナルヲ偵知シ追テ自首スル者之ヲ現獲ト云フ可カラス則チ聞捕自首ヲ以  
テ論ス可キ者トス被告事件ノ如キ現在發覺ノ人ナルヲ以テ其罪ヲ問フト雖モ現場ノ捕ヲ  
免レ而シテ到底押捕ノ免レ難キヲ知り自首スルヲ以テ例第五十九條ニ照ラシ本罪ニ一等  
ヲ減ス可キモノトス之レ法律ノ明文ニ依テ當然得ヘキ輕減ニシテ何ソ法官ノ酌減ヲ俟ツ  
可キ者ニアランヤ若シ法官酌減セント欲セハ先ツ法律ニ依テ當然輕減スヘキ者ヲ輕減シ  
以テ法官ノ隨意タル酌量輕減シテ可ナリ然ルニ法官ハ當然法律ニ依テ輕減スヘキモノヲ  
輕減セス本罪一等ヲ酌量輕減セシハ不當ノ裁判ト考量ス而シテ法官ノ主旨ヲ要ズルニ賭博  
ノ罪タル現獲ヲ坐スルニ止マル者ナルカ故ニ聞捕自首ヲ以テ論ス可キ者アランヤト云フ  
ニ過キス夫レ法官ハ現在發覺ト現獲トノ主旨ヲ混同視スルナランカ元來賭博ノ罪タル前  
ニ陳ルカ如ク止テ現獲ヲ坐スルニ限ラヌ現在發覺ノ人ニ係レハ現獲捕スル者ヲ云探偵捕  
獲現場ヲ逃走セシニ依リ自首現場ヲ逃走シ追テ等捕獲原狀ノ名實如何ニ拘ハラヌ其罪ヲ  
探偵追捕セシ者ヲ云フ自首自首スル者ヲ云フ

問フ可キ者ナルヲ信ス如何ントナレハ捕獲原狀ノ如何ニ因テ現在發覺ノ消滅スヘキ者ニ  
非ラス且ツ非現行犯ヲ問ハサルノ法官ニ悖ルモノナケレハナリ

辨明

被告角谷佐七板倉勝三郎兩人カ金錢ヲ賭シ博戯ヲ爲シタル罪ハ雜犯律賭博條ニ依リ懲役  
八十日ニ該ルモ其現場ニ於テ捕吏ノ逮捕ヲ免レ追テ自出首スルニ因リ聞捕自首ヲ以テ論  
シ改定律例第五十九條ニ照シ本刑ヨリ一等ヲ輕減シ懲役七十日ニ處スヘキ者トス然ルニ  
原裁判所ノ裁判玆ニ出サルハ其當テ得サルモノナリ

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年三月三日名古屋裁判所岡崎支廳ニ於テ角谷佐七板倉勝三郎  
兩人ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スル事左ノ如シ

角 谷 佐 七

板 倉 勝 三 郎

雜犯律賭博條ニ依リ懲役八十日ノ處聞捕自首條ニ係ルヲ以テ改定律例第五十九條ニ照シ  
本刑ニ一等ヲ減シ

各懲役七十日

第三百五十二號

○判文(賭博ノ件)明治十四年三月四日上告  
明治十四年三月廿五日判決

愛知縣三河國碧海郡鷺塚村

平民

山田 妻 藏

明治十四年二月  
六十六年二月

愛知縣三河國碧海郡鷺塚村

平民文三郎二男

山田 權 吉

明治十四年二月  
二十六年十月

愛知縣三河國碧海郡鷺塚村

平民喜平長男

伊 藤 平 吉

明治十四年二月  
二十年十一月

愛知縣三河國碧海郡鷺塚村

平民

杉浦 重五郎

明治十四年二月  
三十二年五月

愛知縣三河國碧海郡鷺塚村

平民松次郎長男

山田 庄 松

明治十四年二月  
二十七年七月

愛知縣三河國碧海郡刈谷村

平民八三郎長男

長谷 川金太郎

明治十四年二月  
三十年十一月

愛知縣三河國碧海郡鷺塚村

寄留平民

柳 原 治 平

明治十四年二月  
二十七年十一月

愛知縣三河國碧海郡鷺塚村

平民小四郎長男

伊 藤 市 作

明治十四年二月  
二十六年二月

右山田妻藏外七名カ所爲ニ對シ明治十四年三月一日名古屋裁判所岡崎支廳ニ於テ左ノ裁判  
ヲ言渡シタリ

山田 妻 藏

其方儀明治十四年二月十八日同村山田權吉ノ依頼ニ應シ炭油等ノ代料ヲ申受ル約定ニテ  
賭博ノ爲メ自己ノ舍宅ヲ貸與ヘタル科賭博律ニ依リ賭房ヲ開張スルモノニ論擬シ杖八十

ノ處捕吏カ逮捕ヲ受ルニ臨ミ現場ヲ逃走スルモ后自首スルノ情ヲ量リ一等ヲ輕減シ杖七十申付候事

- 山田 權吉
- 伊藤 平吉
- 杉浦 重五郎
- 山田 庄松
- 長谷川 金太郎
- 榑原 治平
- 伊藤 市作

其方共儀明治十四年二月十八日同村山田妻藏宅ニ於テ金錢ヲ賭シ博戯ヲ爲ス科賭博律ニ依リ杖八十捕吏カ逮捕ヲ受ルニ臨ミ現場ヲ逃走スルモ后自首スルノ情ヲ量リ一等ヲ輕減シ各杖七十申付候事

愛知縣九等警部佐藤森久ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年三月八日附司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

抑被告山田妻藏ハ明治十四年二月十八日前記山田權吉ノ依頼ニ應ジ炭油等ノ代トシテ席料ヲ受クル約定ヲ以テ房屋ヲ貸與ヘ賭博勝負爲致傍觀シ居タルモノニテ則賭一房ヲ開張スルモノニ異ナラス且山田權吉以下六名ハ外數人ト共ニ金ヲ賭ケ博戯勝負シタル等ノ罪ヲ犯シタルモノナリ依テ賭博律ニヨリ各杖八十ノ處其博戯勝負中巡查出張供犯捕ニ就ク

ノ際現場ヲ逃走シ官ノ追捕ニ係リ到底其犯罪ノ遁レ難キヲ知リ自ラ官ニ首出ノ幾分犯罪ノ輕減ヲ得ントト自首シタルハ明ナリ然ラハ仍ホ犯罪自首條例中第五十九條ニ照シ聞捕自首ヲ以テ論シ本罪ニ一等ヲ減シ處斷スヘキモノナルニ法官ニ於テハ却テ聞捕自首ヲ以テ減免ヲ與フルノ限リニ非ラストシ斷罪無正條例增加律ニ照シ自首スルノ情ヲ量リ輕減シタルハ不當トス何トナレハ名例律犯罪自首條例中第五十九條ノ凡罪ヲ犯シ云々官ノ捕獲セント欲スルヲ聞テ自首スルモノハ本罪ニ一等ヲ減スト同第六十九條ニ其之ヲ解釋シテ云々聞捕自首ト稱スルハ官司人ヲ差シ已ニ捕獲セント欲スルヲ偵知シテ自首スル者ヲ謂フ事機緊急已ムヲ得サルニ出テ悔懼ノ心尤モ薄シ故ニ本罪ニ一等ヲ減ス云々ト明文アレハナリ故ニ被告ノ如キ事已ニ官ノ發覺ニ係リ捕吏カ賭場ニ臨ミ現ニ該犯ヲ視認ノ其捕ヲ行フニ際シ僅ニ逃レテ脱シタルハトテ后自ラ官ニ其罪ヲ首出シタルモノナレハ假令悔懼ノ心薄シト雖モ豫メ期シ難キ罪犯ヲ獲隨テ僅ニ官司搜查ノ勞ヲ省キ況シヤ聞捕自首スルモノニ輕減ヲ與フヘキ法律中確然タル明文アル上ハ故ニ斷罪無正條例增加律ニ照シ自首スルノ情ヲ量リ輕減ヲ與ヘタルハ不法ノ裁判ト考量ス

辨明

山田權吉外六名カ山田妻藏方ニ於テ金錢ヲ賭ケ博戯ヲナシ妻藏ハ爲ニ賭房ヲ開張シタルニ付各賭條博ニ依リ懲役八十日ノ處逮捕ノ際現場ヲ逃走シ追テ自首スルヲ以テ改定律例第五十九條ニ官ノ捕獲セント欲スルヲ聞テ自首スル者本罪ニ一等ヲ減ストアルニ照シ本罪ニ一等ヲ減スヘキ者トス然ルヲ原裁判所於テ此例ニ依ラス一等ヲ酌減シタルハ不當

ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年三月一日名古屋裁判所岡崎支廳ニ於テ山田妻藏外七名ニ言渡タル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

山田 妻藏

山田 權吉

伊藤 平吉

杉浦 重五郎

山田 庄松

長谷川 金太郎

柳原 治平

伊藤 市作

右ハ前ニ辨明スル如クナルヲ以テ雜犯律賭博條ニ依リ仍ホ改定律例第五十九條(云々)ニ照シ本罪ニ一等ヲ減シ

各懲役七十日

第三百五十二號

○判文(賭博自首ノ件)明治十四年三月八日上告  
明治十四年三月廿五日判決

愛知縣三河國碧海郡根崎村

平民

山田 吉藏

明治十四年三月  
三十六年十一月

明治十四年三月二日名古屋裁判所岡崎支廳ニ於テ右吉藏ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
其方儀明治十四年二月十八日山田妻藏宅ニ於テ金錢ヲ賭シ博戯ヲ爲ス科賭博律ニ依リ杖八十現場ニ於テ捕吏ニ認メラル、モ未ダ全ク拿捕ニ就スシテ逃走シ后首出シタルヲ以テ  
情法ヲ酌量シテ一等ヲ減輕シ杖七十申付候事

愛知縣十等警部清水雄藏ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年三月八日付ヲ以テ司  
法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ要領左ノ如シ  
抑賭博ノ罪タル止テ現在發覺ノ人ヲ坐ス其非現行犯ニ及ハサル者ハ轉々相援引スレハ遂  
ニ誣指濫及ニ陥リ其停止タル所ヲ知ル可カラサルニ至ル弊害ノ恐レアル故ナリ現在發覺  
ノ人トハ現場就捕ノ人ノミナラフニ非ラス捕押ノ際現場ヲ逃走シ追テ自首スル者ト雖モ  
捕吏ノ撞見ニ係ルヲ以テ現在發覺ノ人タルヲ免レス只捕獲原狀ノ相異ナリ而シテ其現場ヲ  
逃走シ追捕ノ嚴ナルヲ偵知シ追テ自首スル者之ヲ現獲ト云可カラズ則チ聞捕自首ヲ以テ  
論ス可キ者トス聞捕自首ト名稱セハ非現行犯ノ如シト雖モ現場ノ捕ヲ免レタル迄ニテ現  
在發覺ノ人タルヲ以テ非現行犯ニ非ラス依テ其罪ヲ問ハサルヲ得可カラズト雖モ現獲ニ  
非ラス聞捕自首セシ者ナルヲ以テ其罪ヲ問フヤ現獲ノ者ト同一ノ刑ニ坐ス可カラズシテ  
例第五十九條ノ明文ニ依リ本罪ニ一等ヲ減ス可キ者トス被告事件ノ如キ現在發覺ノ人ナ

ルヲ以テ其罪ヲ問フト雖モ現場ノ捕ヲ免レ而シテ到底押捕ノ免レ難キヲ知リ自首スルヲ以テ例第五十九條ニ照シ本罪ニ一等ヲ減ス可キ者トス是レ法律ノ明文ニ依テ當然得可キ輕減ニシテ何ソ法官ノ酌減ヲ欲セシテ法官酌減セント欲セハ先ツ法律ニ依テ當然輕減ス可キ者ヲ輕減シ以テ法官ノ隨意タル酌量輕減シテ可ナリ然ルニ法官ハ當然法律ニ依テ輕減ス可キモノヲ輕減セズ本罪ニ一等ヲ酌量輕減セシハ不當ノ裁判ト考量ス而シテ法官ノ宥恕ス可キヲモテ酌量輕減スル主旨ヲ要スルニ賭博ノ罪タル現獲ヲ坐スルニ止ル者ナルカ故ニ聞捕自首ヲ以テ論ス可キ者アランヤト云フニ過キス夫レ法官ハ現在發覺ト現獲トノ主旨ヲ混同視スルナランカ元來賭博ノ罪タル前ニ隙ルカ如ク止テ現獲ヲ坐スルニ限ラス現在發覺ノ人ニ係レハ現場ニ於テ就捕探偵捕獲現場ヲ逃走セシニ者ヲ自首現場ヲ逃走シテ追テ等捕獲原狀ノ名實如何ニ拘ハラス其罪ヲ問フ可キ者ナルヲ信ス如何トナレハ捕獲原狀ノ如何ニ因テ現在發覺ノ消滅ス可キ者ニ非ラス且ツ非現行犯ヲ問ハサルノ法旨ニ悖ルモノナケレハナリ

辨明

被告山田吉藏カ金錢ヲ賭シ博戯ヲ爲シタル罪ハ雜犯律賭博條ニ依リ懲役八十日ニ該ルモ其現場ニ於テ捕吏ノ逮捕ヲ免レ追テ自ラ出首スルニ因リ聞捕自首ヲ以テ論シ改定律例第五十九條ニ照シ本刑ヨリ一等ヲ輕減シ懲役七十日ニ處スヘキモノトス故ニ名古屋裁判所岡崎支廳ノ裁判ハ其當ヲ得サルモノトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年三月二日名古屋裁判所岡崎支廳ニ於テ山田吉藏ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スルコト左ノ如シ

山田吉藏

雜犯律賭博條ニ照シ懲役八十日其現場ニ於テ捕吏ノ逮捕ヲ免レ追テ自ラ出首スルハ聞捕自首ニ依テ論シ改定律例第五十九條ニ照シ本刑ニ一等ヲ輕減シ

懲役七十日

第二百五十四號

○判文(無届遲參ノ件)明治十四年三月廿一日上告  
明治十四年三月廿五日判決

茨城縣常陸國東茨城郡水戸

上市泉町平民

關

孝夫

明治十四年三月  
四十年九月

明治十四年三月十一日水戸裁判所於テ右孝夫ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀明治十四年三月十一日當廳へ出頭ノ例刻無届遲參スルニヨリ明治十年第五號公布

ニ照ラシ罰金五拾錢申付ル

孝夫ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年三月廿一日本院ニ上告スル要領左ノ如シ

明治十四年三月十一日上告人ハ茨城縣下總國岡田郡鎌庭村人見誠一郎ナル者ノ代人トナ

リ水戸裁判所へ出頭セリ承行官ハ谷口判事補ナリトス然ルニ該件ニ對シ名刺ヲ出スニ先

タチ曾テ上告人ノ朋友高倉政教ナル者カ犯罪アリテ禁獄三十日ノ處斷ヲ受ケ現時上告拘置中ナリシカ彼レカ保釋ヲ請願セント其願狀ヲ水戸裁判所へ捧呈シ許否如何相待チ居リシニ願狀ノ程式ニ適ハサルヲ以テ更ニ書式ニ比準シ指出ス可シトテ還付セラレタリ夫レ此ノ如キ事故アルヲ以テ谷口判事補へ名刺ヲ出タセシハ時已ニ十時十分ニ至レリ然ルニ該官ハ遲參ノ始末書ヲ呈スヘキ旨命セラレタレハ上告人ハ素ヨリ甘心セサル所ナルモ前陳保釋云々ノ爲メ例刻ヲ經過セシ理由ヲ書載シテ捧呈セシニ上文ノ如ク罰金ヲ宣告セラレタリ

嗚呼水戸裁判所ノ處置何ンソ斯ノ如ク苛刻ナル又何ンソ斯ノ如ク不法ナル夫レ上告人カ時間ヲ經過セシハ決シテ水戸裁判所へ遲參セシニ非ルハ衙門ヲ通過セシト保釋願狀ヲ出セシトノ二項ニ於テ明晰タリ只谷口判事補へ名刺ヲ出スノ保釋願狀ヲ出スニ後レタルノミナリ若シ之レヲ遲參ナリトシテ罰金ヲ科スルハ假令ハ一個人カ甲乙ノ二件ヲ同廳ニ出訴シ其承行官ハ同人ナリトス然ルニ甲件ハ例刻ニ在リテ出頭ノ帳簿ニ記載シ名刺ヲ出セリ而シテ乙件ノ名刺ヲ出スニ至リテ時器已ニ例刻ヲ經過スルキハ其乙件ニ向ツテ遲參ノ罪ヲ責ムルカ否責メサルヘシ抑遲參不參ノ參ノ字ハ何ヲ指示セルノ字義ナルヤ必ス官衙へ到着スルノ謂ヒニシテ名刺ヲ出スノ謂ヒニ非サルヘシ若シ其名刺ヲ出ス遲刻スル者ニ適用スルモノトセハ參ノ字ヲ用フル妥當ナラサルノミナラス又將サニ別ニ法律ノアルアルヘシ夫レ然リ然ルカ故ニ上告人ノ如キハ現ニ例刻ニ在リテ水戸裁判所ノ衙門ヲ通過シ水戸裁判所へ出頭ナセシカ單

リ名刺ヲ出スノ遲速アルヲ以テ斯ノ如ク罰金ヲ宣告セラレシハ不法ノ處分ナリトス

辨明

關孝夫カ水戸裁判所へ差出シタル遲參始末書ヲ閱スルニ左ノ如シ  
原告東京深川區海邊新田松原融ヨリ被告人見誠一郎へ對スル訴訟事件ニ付今十一日午前第九時出頭可仕ノ處當御裁判所刑事課へ朋友高倉政教ナル者ノ保釋願ノ爲出頭罷在  
遂ニ午前十時後ニ至リ出頭仕候折柄右始末御尋ヲ蒙リ奉恐入候  
右ニ據テ見レハ孝夫カ出頭スヘキ時限ニ出頭届チ爲サ、ルコトハ相違ナク若シ止チ得サル事故アツテ遲參スルニ於テハ出頭時限前其理由ヲ届出ヘキヲ其手續ヲナサ、ル上ハ縱令他ノ事件ニテ其時限出頭シ居タルモ之レヲ以テ遲參ニ非スト爲スヲ得ス故ニ原裁判所於テ明治十年第五號公布ニ照シ罰金五拾錢ニ處斷シタルハ不法ノ裁判ニ非ラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年三月十一日水戸裁判所ニ於テ關孝夫ニ言渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者也

第二百五十五號

○判文(盜賊竊主ノ件) 明治十四年三月九日上告  
明治十四年三月廿六日判決

大坂府南區九郎右衛門町平

民

村上利助

明治十四年二月二十八日大坂裁判所ニ於テ右利助ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
四一四  
明治十四年二月  
三十七年二月

其方儀明治十三年九月以來白川彦兵衛ヨリ盜贓タルヲ知テ衣類買取タル旨ノ申供ヲ齎異  
シ盜贓タルノ情ハ知ラサル旨申立ルト雖モ其反證無キヲ以テ曩ニ警察署ニ於テノ供述ハ  
眞實ノ白狀ト認定シ右故買スル贓金百八拾八圓六拾六錢ノ科盜賊窩主律ニ依リ坐贓ヲ以  
テ論シ杖二百仍ホ府廳ノ布達スルニ商取締規則ニ違反シ無調印ニテ衣類買取ル科明治十  
年第十三號公布ニ依リ罰金壹圓申付ル

但贓金爲賠償資力限取上ル

利助ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年三月九日付ヲ以テ大審院ニ差出シタル上  
告狀ノ要領ハ左ノ如シ

上告人ニ於テハ盜贓タルノ情ヲ知リ故買シタルヲナシ大坂府會根崎警察署ニ差出シタル  
前後ニ通ノ手續書ハ全ク拷訊ニ成立シ事實ニ相違スルヲ以テ大坂裁判所檢事局ニ差出シ  
タル自首書ニ因リ更ニ裁判アランヲ請求ス

辨明

右ノ如ク上告スルト雖モ總テ其手續書ノ拷訊ニ成立シタル證據ナクシテ盜贓故買ノ罪ヲ  
犯シタルコトハ明白ナルヲ以テ大坂裁判所ノ裁判ハ不適當ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年二月二十八日大坂裁判所ニ於テ村上利助ニ言渡シタル裁判

ハ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スルモノナリ

第三百五十六號

○判文(縣ノ布達ニ違犯セシ件)明治十四年三月四日上告  
明治十四年三月廿六日判決

愛知縣三河國幡豆郡西尾會

生町百五番邸平民

三輪 筆藏

明治十四年二月  
三十六年八月月

右筆藏ニ明治十四年二月廿六日名古屋裁判所岡崎支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
其方儀明治十三年愛知縣甲第百十二號ノ布達ニ違背シ明治十四年二月廿六日人身ノ健康  
等ニ害アル磨砂ヲ玄米ニ混合シテ搗精後チ自首スト雖モ右精米及ヒ糠ハ己ニ商店ニ於テ  
販賣シ其傷害賠償ス可ラサルヲ以テ首免ヲ與ヘス右科明治十年第十三號公布ニ依リ罰金  
壹圓五拾錢申付候事

愛知縣九等警部佐藤森久ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年三月四日附テ以テ司  
法卿ニ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ

抑被告三輪筆藏ノ犯罪ハ本縣明治十三年甲第百十一號布達ニ違背シ磨砂ヲ混合シテ玄  
米ヲ搗精シタル者ナリ故ニ明治十年第十三號公布ニ照シ罰金ニ處ス可キハ勿論ト雖モ后  
チ其非ヲ悔ヒ自首スルヲ以テ名例律犯罪自首條ニ依リ免罪ス可キ者ト考量ス然ルニ法官  
ハ其搗精シタル白米并ニ糠糲トモ己ニ販賣シタルヲ以テ其傷害賠償ス可カラサル者トナ

シ首免ヲ與ヘスト云フト雖モ未タ被告カ搗精シタル白米并ニ糠糝ヲ喫食シテ現ニ損傷ヲ受ケタル人畜アルヲ聞カサルハ其法官カ賠償ス可カラサル者トナス傷害ノ證據ハ其何ニアルカ如此無證據ノ裁判ハ豈ニ不當ト云ハサル可ケンヤ而テ本縣布達ノ主旨ハ彼ノ白米并ニ糠糝ノ間斷ナク喫食スルハ自然ニ健康上ノ傷害アルヲ豫防スルノ法令ニシテ一度其白米并ニ糠糝ヲ喫食セハ直ニ人畜ノ身體ヲ傷害スト斷定シタル者ニ非サルナリ然レモ假ニ該布達ヲ以テ人畜身體ノ傷害斷定書ト見做スルハ法官ハ必ス其傷害ヲ受ケタル人畜ノ審問ヲ盡サスノ裁判ヲ爲スハ豈ニ亦不當ト云ハサル可ケンヤ而テ又現ニ傷害ヲ受ケタル人畜アルニ非スンハ只該布達ニ違背シテ搗精シタル白米并ニ糠糝ヲ販賣シタルトテ之ヲ償フ可カラサル犯罪ト云フ可カラズ况シヤ犯罪自首條ニ定メタル首免ヲ與ヘサル罪ハ人ヲ損傷シ及ヒ賠償ス可カラサル物ヲ毀棄シ若シハ姦スル罪ノミニシテ其他特別ニ定メ此限ニ本件ノ如キ人ヲモ損傷セズ物ヲモ毀棄セサル犯罪等ニ及ハサルニ於テチヤ

辨明

犯罪自首律ニ曰凡罪ヲ犯シ事未タ發覺セズシテ自ラ首出スル者ハ其罪ヲ免ス賍アルモノハ仍ホ追徵シテ云々其人ヲ損傷シ及ヒ賠償スヘカラサル物ヲ毀棄シ若シハ姦スル者ハ并ニ自首ノ律ニ在ラス云々トアリ左スレハ本犯自首ノ如キハ若シ其人ヲシテ損傷セシメタル顯跡アラハ首免ヲ與フヘカラサル勿論ナリトス然ルニ其磨砂ハ自然人身ノ健康ヲ害スルノ質分アルモ未タ現ニ人ヲ損傷シタリト認定ス可キ證據アラサルニ原裁判所ノ裁判ハ其傷害賠償スヘカラスト判シ首免ヲ與ヘサリシハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルニ依リ明治十四年二月廿六日名古屋裁判所岡崎支廳ニ於テ三輪筆藏ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

三輪 筆藏

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ依リ明治十三年愛知縣甲第百一十一號布達ニ違背シタルヲ以テ明治十年第十三號布告ニ依リ罰金壹圓五拾錢ヲ科ス可キ處自首スルヲ以テ犯罪自首條ニ照シ

免罪

第三百五十七號

○判文〔竊盜ノ件〕明治十四年三月十日上告  
明治十四年三月廿六日判決

大坂府南區瓦屋町三番地平民

本田 安太郎

明治十四年二月  
三十七年八月

明治十四年二月二十八日大坂裁判所ニ於テ右安太郎ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
其方儀明治十三年四月十二日以來門川藤五郎申谷大坂府西成郡小松村西尾孫兵衛方其他所々人家へ忍入衣類物品竊取セシ旨ノ口供ヲ離異シ竊盜ヲ爲シタルコト無ク且警察署ニ於テハ口供讀聞相成タルモ如何ナルコト記載アルヤ承知セサル旨申供スルト雖モ其事柄ヲ知ラスシテ摺印ヲ爲スノ理ナキノミナラス共犯藤五郎カ警察署及ヒ檢事局ニ於テノ口供



ヲ参照スルニ曩ニ警察署ニ於テ爲シタル口供ハ眞實ノ自狀ト認定スルヲ以テ右贓金五百九拾四圓拾錢ノ科竊盜律ニ依リ懲役終身ノ處一等ヲ酌減シ懲役十年申付ル

但所持スル贓品及ヒ資方限取上ル

安太郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年三月十日付テ以テ大審院ニ差出シタル上告狀ノ要領ハ左ノ如シ

上告人ニ於テハ竊盜罪ヲ犯シタルコトナシ大坂府會根崎警察署ニ於テノ口供ハ全ク拷訊ニ成立シ事實ニ相違スルヲ以テ原裁判ノ破毀ヲ求ム

辨明

右ノ如ク上告スルト雖モ其口供ノ拷問ニ成立シタル一ノ證據ナキニ依リ總テ相立サルノ上告ナリトス故ニ原裁判所カ該口供ヲ眞正ノ自狀ナリト認定シ竊盜條ニ依リ酌減シ懲役十年ニ處斷シタルハ不適當ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年二月二十八日大坂裁判所ニ於テ本田安太郎ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スルモノナリ

第三百五十八號

○判文(竊盜ノ件)明治十四年三月十日上告  
明治十四年三月廿六日判決

大坂府島上郡大塚村平民

元次郎弟

門川 藤五郎

明治十四年二月  
三十四年三月

明治十四年二月二十八日大坂裁判所ニ於テ右藤五郎ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
其方儀明治十三年四月十二日以來本田安太郎申合大坂府西成郡小松村西尾孫兵衛方其他所々人家へ忍入衣類物品盜取ル贓金五百九拾四圓拾錢ノ科竊盜律ニ依リ懲役終身ノ處一  
等ヲ酌減シ懲役十年申付ル

但警察署ニ拘置中逃走スル罪ハ律例第三百九十三條ニ依リ二等ヲ加フヘキノ處自首スルヲ以テ逃罪ハ免ヌ尤贓金賠償ノ爲メ資方限取上ル

藤五郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年三月十日付テ以テ大審院ニ差出シタル上告狀ノ要領ハ左ノ如シ

上告人ニ於テハ自ラ竊盜罪ヲ犯サス井上德兵衛外一名ノ依頼ニ依リ盜贓タルヲ知リ賣買ノ周旋ヲ爲シタルマテニテ大坂府會根崎警察ニ於テノ口供ハ全ク拷訊ニ成立シ事實ニ相違スルヲ以テ原裁判ノ破毀ヲ求ム

辨明

右ノ如ク上告スルト雖モ其口供ノ拷問ニ成立シタル一ノ證據ナキニ依リ總テ相立サルノ上告ナリトス故ニ原裁判所カ該口供ヲ眞正ノ自狀ナリト認定シ竊盜條ニ依リ酌減シ懲役十年ニ處斷シタルハ不適當ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年二月二十八日大坂裁判所ニ於テ門川藤五郎ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スルモノナリ

第三百五十九號

○判文(竊盜ノ件) 明治十四年三月十日上告  
明治十四年三月廿六日判決

兵庫縣神戸區本町通三丁目

池田招雲同居平民

福西市太郎

明治十四年二月  
三十六年六月

明治十四年二月二十八日大坂裁判所ニ於テ右市太郎ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
其方儀明治十三年十月一日行方不知植木惣八外一人ノ發意ニ從ヒ高橋音吉申合京都府上京區藤本町佐和貞次方へ忍入衣類竊盜セシ旨ノ口供ヲ翻異シ竊盜ヲ爲シタルヲ無キ旨申供スルト雖モ其反證アラサルヲ以テ曩ニ警察署ニ於テ爲シタル口供ヲ眞實ノ白狀ト認定スルヲ以テ右賍金百四拾三圓貳拾八錢ノ科竊盜律ニ依リ懲役十年從タルヲ以テ一等ヲ減シ懲役七年申付ル

但賍金爲賠償資力限取上ル

市太郎ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年三月十日付ヲ以テ大審院ニ差出シタル上告狀ノ要領ハ左ノ如シ  
上告人ニ於テハ竊盜罪ヲ犯シタルヲナシ大坂府會根崎警察署ニ於テノ口供ハ全ク拷訊ニ

成立シ事實ニ相違スルヲ以テ原裁判ノ破毀ヲ求ム

辨明

右ノ如ク上告スルト雖モ其口供ノ拷問ニ成立シタル一ノ證據ナキニ依リ總テ相立サルノ上告ナリトス故ニ原裁判所カ該口供ヲ眞實ノ白狀ナリト認定シ竊盜條ニ依リ從タルヲ以テ一等ヲ減シ懲役七年ニ處斷シタルハ不適當ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年二月二十八日大坂裁判所ニ於テ福西市太郎ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スルモノナリ

第三百六十號

○判文(竊盜ノ件) 明治十四年三月十日上告  
明治十四年三月廿六日判決

大坂府東區谷町一丁目高

砂爲七同居平民

高橋音吉

明治十四年二月  
二十二年一ヶ月

明治十四年二月二十八日大坂裁判所ニ於テ右音吉ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
其方儀明治十三年十月一日行方不知植木惣八外一人ノ發意ニ從ヒ福西市太郎申合京都府上京區藤本町佐和貞次方へ忍入衣類竊盜セシ旨ノ口供ヲ翻異シ竊盜ヲ爲シタルヲ無キ旨申供スルト雖モ其反證アラサルヲ以テ曩ニ警察署ニ於テ爲シタル口供ヲ眞實ノ白狀ト認

定スルヲ以テ右贓金百四拾三圓貳拾八錢ノ科竊盜律ニ依リ懲役十年從タルヲ以テ一等ヲ減シ懲役七年申付ル

但贓金爲賠償資力限取上ル

音吉ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年三月十日付テ以テ大審院ニ差出シタル上告狀ノ要領ハ左ノ如シ

上告人ニ於テハ自ラ竊盜罪ヲ犯サス植木惣八ノ依頼ニ因リ盜贓賣買ノ周旋ヲ爲シタルマテニテ大坂府會根崎警察署ニ於テノ口供ハ全ク拷訊ニ成立シ事實ニ相違スルヲ以テ原裁判所ノ破毀ヲ求ム

辨明

右ノ如ク上告スルト雖モ其口供ノ拷訊ニ成立シタル一ノ證據ナキニ因リ總テ相立サルノ上告ナリトス故ニ原裁判所力該口供ヲ真正ノ自狀ナリト認定シ竊盜條ニ依リ從タルヲ以テ二等ヲ減シ懲役七年ニ處斷シタルハ不適當ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年二月二十八日大坂裁判所ニ於テ高橋音吉ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スルモノナリ

第三百六十一號

○判文〔詐欺取財ノ件〕明治十四年一月十五日上告  
明治十四年三月廿八日判決

東京深川區萬年町二丁目拾

三番地大西兼吉方同居平民

平野裕多賀

明治十三年七月  
二十九年一月

右裕多賀カ犯罪ニ對シ明治十三年十二月廿八日東京裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀明治十三年一月廿日貴田川儀八ヘノ貸金證書ハ儀八カ義ニ關口昭房ヨリ借用セル

金貳百七拾圓余請求ノ出訴ニ及ハレタル末昭房代官人南一介ヘ金貳百貳拾五圓ヲ以テ濟

方致ヘクト終ニ示談ヲ遂ケ該金相渡ス際儀八ニ於テ全額ノ金圓整サル故明治十二年十月

三十日金百七拾圓ヲ貸與ヘ借用證書請取タル後書替タルモノニテ又貴田川儀八記名ノ明

治十二年十月廿八日ノ金圓借用證書ニ貼付セル證券印紙ニ消印アル印影ハ己カ當時ノ實

印ニ相違ナキモ消印シタル覺無之黒川正兵衛ヨリ明治十三年四月十八日金五拾錢領収シ

タルハ借用金ナル旨申供スト雖モ貴田川儀八ニ於テハ一介ヘ返辨ノ金圓ハ床井哲ヘ調金

依頼ノ末金貳百五拾圓借受ケ其不足金ヲ併セ金貳百七拾五圓ハ己チシテ一介ヘ相渡シ己

ハ承諾上該金借用ノ保證人トナリタルモノナリ又金百七拾圓ノ借用證書ハ三浦省三所有

ノ共立銀行株券ヲ以テ調金セント同人ノ委任狀ヲ得之ヲ以テ己ヘ調金セシメシ際己カ請

ニ依テ借用證トナルヘキ宛名等記載ナキ書面ニ記名調印相渡タルニ該金整サル故株券ハ

領収シタルモ該書領収スルヲ忘却シタル次第ニテ該金借用シタル者ニ非サル旨申供ス黒

川正兵衛ニ於テハ金五拾錢己ヘ渡シタルハ己カ儀八カ總理代人解任ノコトハ承知セス借用

金ノ内ニ返辨シタル次第ニテ貸金ニ非サル旨申供ス床井哲ニ於テハ儀八カ依頼ヲ受ケ三

浦千尋ノ紹介ヲ以テ横井元峰ヨリ借用スヘキ金額ノ内金貳百五拾圓請取儀八ハ貸渡シタルニ同人ハ直ニ己ヘ渡シタルヲ目撃シタリト證言ス三浦千尋ニ於テハ哲カ依頼ニ依テ元峰ヘ紹介ナシタル旨陳述シ横井元峰ニ於テハ追テ哲ヘ貸與ヘキ金貳百五拾圓相渡シタル旨陳述シ南一介ニ於テハ儀八ヨリ返辦金貳百貳拾五圓ハ己ヨリ領収シタリト陳述シ堀直好ニ於テハ儀八ハ共立銀行ノ株主ニ非サル旨陳述ス因テ其實情ヲ推測スルニ貴田川儀八カ總理代人タリシ時南一介ヘ返辦スヘキ金圓床井哲カ周旋ニテ調金ノ際保證人トナリ押印シタル者ナリ如何トナレハ己カ實印ヲ儀八カ盜押シタリト傳聞シ徒ニ之ヲ等閑ニ付スル謂レアテシヤ左スレハ儀八ヨリ金貳百七拾五圓ヲ領収シ一介ヘハ金貳百貳拾五圓ヲ以テ陰ニ濟方ノ示談ヲ遂ケ金五拾圓ヲ冒認シタル者トス又百七拾圓ノ貸金證書ハ總理代人タリシ時設立セシ共立銀行ノ株券ナレハ儀八カ所有セサルハ明知スヘキ筈ナリ例ヘ貸金ノアルニモセヨ株券抵當トナシタル證書ヲ受領スル筈ナシトス然ルニ株券抵當云々トアル證書ハ全ク三浦省ニカ株券ヲ以テ儀八カ調金セシメシ際同人記名ノ書類アルヲ幸トシ己カ貸金證書ノ体ニ加筆シ金圓欺取ントシタル者ナリ又黒川正兵衛ヨリ金五拾錢請取タルハ儀八カ總理代人解任ノ後尙從前ノ總理代人ト詐リ該金欺取タル者ト認定ス因テ該金併セテ五拾圓五拾錢右科詐欺取財條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ懲役一年申付ル

但該證書ハ沒收シ右賍金資力限リ追徴ス

裕多賀ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年一月十五日大審院ニ上告ノ旨趣左ノ如

第一條

自分儀明治十一年五月中貴田川儀八ノ頼ニ應シ該家雇人トナリ時々出張諸事取扱タル内翌十一年二月頃ニ至リ追々事務多忙ニ至リタルヲ以テ該家ヘ止宿中同年五月儀八ハ犯罪ノ廉有之警視第三課ヘ自首スルノ際自分ヘ申聞タルニハ右犯罪ノ廉御調中御拘留ニモ可相成左候片ハ公私ノ接遇ニ差向候ニ付總理代人ノ委任狀ヲ與ヘ置ヘシ右委任狀ヲ以テ不都合無之様諸人ヘ引合吳候様依頼ニ付是又其頼ニ應シ該委任狀領収シ置タルモ其當時儀八ハ御拘留ニモ相成ラサルニ付總理ノ委任狀可差戻旨申入タル處該時儀八ハ種々事件ニ困シ居リ先ツ暫ク總理ノ心得ヲ以テ諸人ニ接遇シ吳ヘク様談示ニ付其意ニ相應シ候折柄其前明治九年中神奈川縣下生麥村關口昭房ナル者ヨリ貳百五拾圓余ノ負債アルモ此負債同縣下横濱梅ヶ町外二ヶ返濟ノ義務相果サ、ルヨリ右昭房代言人南一介ヨリ該金請求所ノ地券抵當ニシアリ

返濟ノ義務相果サ、ルヨリ右昭房代言人南一介ヨリ該金請求所ノ地券抵當ニシアリ

同年十月中控訴シタリ而シ右覆審中(則十月下旬)原告ヘ示談申向多分ノ勘辨ヲ得既ニ示談相調ノ際儀八調金相成ラサルヲ悲歎シ自分ヘ金圓融通致吳候様依頼ニ付(儀八ハ自分ヲ略覺知シ)其情實ヲ憫察シ神田區旭町二十五番地ニ建テ之レアル自分所有ノ家屋ヲ賣却シ右金員ト會テ貯金ト併セテ百七拾圓ヲ貸與ヘ儀八手元ヨリ六拾圓ニ勞力料トテ儀八ヨリ黃七)合セテ貳百貳拾五圓ヲ以テ十月卅日午前第八時頃南一介方ニ至リ示談相遂ケ受タリ

古證文并ニ抵當ノ地券共請取歸宅ノ上右貸金ノ百七拾圓ノ證書領収シ而シテ儀八ト自分ノ間ニ相用タル明細帳ヘ右示談濟云々及ヒ金員出納ノ件ヲ明記檢印シ然シテ請取タル地

券證儀八へ相渡シタル共自分ノ監守スル者ノ如ク成リ居タル處同年十二月三十一日ノ夜ニ至リ歳末ニ付儀八ハ諸仕拂方ノ金圓ニ差間有地券ヲ抵當ト爲シ淺草區新平右衛門町山内豊年ヨリ金六拾圓余ヲ調シタリ然シテ明治十三年一月自分解任ニ付前顯貸金返戻致吳候様申入タル共昨今金策ノ手段無之二月下旬ニハ必ス入金ノ目當有之旨ヲ以テ暫時猶豫致吳ヘク段中聞候ニ付不得止證書々換記名自書爲致收領シ其後數度催促スルモ返金致サ、ルコ由リ同年三月下旬勸解ヲ經由シテ東京裁判所へ出訴ニ及ヒ審理ノ末自分直者ニ歸シタル言渡シテ受ケ候事

然ルニ儀八ハ該證書ハ自分ノ偽造ニ罹ル旨ヲ主張シ進藤宇平等ト相謀リ擅ニ文詞ヲ巧ミ五月三日ヲ以テ警視第三課へ自分ヲ被告トナシ吟味出願シタリ實ニ驚クヘキ所爲ナリトス其訴ノ趣意タルヤ證券界紙へ自己ノ實印ヲ捺シ該品ハ一月中自分ノ所持セシ雜書内ヨリ發顯セシ者ノ如ク之レヲ證據ニ仕爲シ如斯所爲アルヲ以テ該證書ハ同様白紙へ印形ヲ盜印シタル者杯ト跡方モナキ誣告ヲ主張スルノミナラス該證書ノ記名ハ儀八ノ自書ナルモ儀八ニ於テハ借用金ハ素ヨリ證書等與ヘタルコト及ヒ記名自書シタル覺毫モ無之ト遁辭ヲ主張シ係リ官ヨリ記名セシメタル、時ハ故造シテ字跡ヲ變シ擅ニ抗辨シ居タルモ自分ハ決シテ否ラサル旨ヲ徹言シ七月十六日三課ハ口證摺印ニ相成タリ尋テ八月十七日東京裁判所糾問掛矢野殿ヨリ御呼出シニテ更ニ本件御糾問相受ケ候得共尙前陳ノ如ク奉答仕其後原被對審ノ際記名ノ義儀八へ御尋問有タルニ前々ノ如ク自分カ似セタル旨申供シ其際係リ官儀八へ記名セシメラレタルニ同人ハ故造スト雖モ自然筆勢ノ彰レタルヲ以テ嚴

重ノ御訊問相成タリ其際儀八ハ汗顔面語塞リ〔先ニハ三課ニテ儀八ヲ保護シタルニ由リ擅ニ遁辭ヲ構ヘタリ糾問掛リハ別段ニ愛憎ナキヲ以テ儀八ハ大ニ困苦セリ〕辛クシテ法庭ヲ退キタリ翌日又々自分御呼出シノ上自分へ御命令ニハ本日俄ニ三課ヨリ糾問依頼不致段ヲ以テ返シ吳候様申來ルニ付其旨存知スヘシト自分愕然シタルモ外ニ據ルヘキ手段無テ以テ歸監仕其後三課ヨリ御召喚相成ヘシト存居タルモ一度モ呼出シ無之十一月ニ至リ東京裁判所藤崎殿ヨリ呼出シニテ兩度御尋問ノ末口供摺印相成十二月廿八日ニ至リ前顯言渡シノ如ク御處分相成其判文ヲ閱スルニ判文中ハ之ヲ以テ己へ調金セシメシ際己カ請ニ依テ借用證トナルヘキ宛名等記載ナキ書面ニ記名調印相渡タルニ該金整ナル故株券ハ領收シタルモ該書領スルヲ忘却シタル次第云々トアリ如何シテ如斯文詞ヲ掲ラレタルカ殆ト之ヲ了解スルニ苦シム如何トナレハ前陳ノ如ク儀八ハ偽造ノ證書ナルヲ訴ヘ記名自書ニ無之段數十回ノ御尋問ニ喋々シ加フルニ係リ官へ感覺ヲ起サシムル爲メ白紙へ自己カ實印ヲ捺捺シ之ヲ證據ノ端緒ニ供シ該證覺無之ヲ確言シタリ而今回上告ニ付原被ノ口供騰寫ノ際儀八カ十月廿九日第三課へ奉呈シタル書面ヲ檢閱シ始メテ相分り實ニ驚クヘキ詭術ナリト云フヘシ抑儀八カ先ニ五月三日三課へ吟味願書中第四條明文〔抑該證ハ自分毫モ覺無之加フルニ云々〕亦同條中「白紙へ印影ヲ取置日ヲ追テ右白紙ヲ以テ證書ヲ偽造セシニ相違無之ト思考仕奈何トナレハ該證書ハ殘ラス裕多賀ノ自筆ニシテ且ツ自分名下並ニ文中壹ヶ所押印有之該證ヲ熟視スルニ明文中確實也トアル文字ノ際ニ調印アル印影ハ則印影ヲ先ニシ其印影ノ上ニ文字ヲ記載セシモノト認定シ就中姓名ハ自分カ筆跡ナリト裕多賀陳述スルモ該證ハ總テ自分ノ記セシ

モノニ無之果シテ裕多賀カ偽造セシヲ確明致居候トアリ由之觀之モ儀八カ該證ヲ檢閱シタルトハ明々瞭々火ヲ見ルヨリモ明カナリ况ヤ五月上旬ヨリ八月廿一日糺問掛リノ訊問ヲ受クル迄數十回ノ尋問ニ該證ハ毫モ覺無之段確言シ居ナカラ十月廿九日ニ至リ前々ノ確言ヲ變シタルハ抑何故ナルソ是レ八月廿一日糺問掛リニ於テ御尋問ヲ受ケタル際偽造ノ証言掩フニ由ナキカ故三課ニ倚テ前口供ヲ變シタル識者ヲ待タズシテ知ルニ足ルヘシ加之金員月日宛名等后チ書入タル者杯ト申立タレ共其言ヤ尤詐言ナリトテ該證ハ全体ノ文字ハ自分執筆シタル上ニテ直チニ儀八チシテ記名自書セシメタレハ證書全牒一墨ナルハ鑑定ヲ要サズシテ明白ナリ然ルチ第三課ハ儀八カ糺問掛リニ於テ誣フルニ由ナキチ以テ故ラニ變シタル書面ヲ以テ實際ノ如ク故信サレ之レヲ論告書ニ作り公判ヲ求メテレタルハ頗ル愛憎ノ甚シキモノニシテ實ニ自分ノ甘味セサル處ナリ抑本訴ノ起リタル原因ハ前陳ノ如ク證書偽造ノ者ヲ論辨シタルハ吟味願書中ノ文詞及ヒ同人ノ捧呈シタル種々ノ書ニ由テモ亦明カナリトス果シテハ同人カ口實ヲ變シタルハ更ニ加筆ノ尋問アルルヘキハ當然ナルチ儀八カ十月廿九日ニ至リ自己カ前願意ニ反對シタル書面ヲ以テ單ニ公訴セラレタル之レ愛憎ト言スシテ何ソヤ右加筆ノコトハ自分ニ於テ毫モ覺無之ノミナラズ加筆シタルモノニ非サルコトハ前陳ノ如ク該證書ヲ檢閱スルルハ判然タリ然ルチ東京裁判所ハ警視第三課ヨリ愛憎ヲ以テ公訴セラレタル論告書ニ依テ言渡書中「儀八カ調金セシメシ際同人記名ノ書類アルチ幸トシ己カ貸金證書ノ牒ニ加筆シ金圓欺取ントシタル者ナリ」トノ文詞ヲ掲ケ片言以テ罪ヲ定メラル、時ハ内國人民手足ヲ置ク處ナク之

レ失當ノ裁判ニテ自分ノ服セサル第一ナリ

第二條

一南一介へ返辨シタル金員ノ一端ハ前第一條ノ如ク十二年十月三十日ヲ以テ自分ノ貸與ヘタル金圓ト儀八カ出金シタルト併セテ一介方へ持參ナシ該家ニ於テ同人並ニ原告本人關口昭房服部新助三人立會ノ上本金相渡シ右證書並ニ地券證共同人ヨリ請取歸宅シタル然ルチ儀八ニ於テハ同月廿七日百五拾圓ヲ自分へ相渡シ同三十一日百貳拾五圓ヲ又々自分へ相渡シタル旨上伸スルモ決テ然ラス如何トナレハ同月三十日ヲ以テ示談ヲ遂ケタルハ南一介ノ捧呈シタル書面ニ由テ見ルヘキナリ然ラハ則チ儀八カ同月三十一日ヲ以テ自分へ百貳拾五圓ノ金圓ヲ渡シタルトノ言ハ詐偽ナルチ知ルヘシ畢竟如斯詭術ヲ構ヘタル根元ハ床井哲及進藤字平等ト謀リタル誣言ニシテ右金額ヲ自分へ渡シタルチ彼等カ目撃シタルトノ上伸ハ儀八ノ誣告ニ彼レ等カ左袒シタル者ナルチ信ス殊ニ其頃自分ハ床井ナル者未聞不見ノ者ニシテ進藤字平ハ坂府へ旅行中ノコトナリ然ルニ宇平カ十三年九月六日付チ以テ三課へ奉呈シタル書面ノ文詞「傍觀致シ居候處儀八ヨリ裕多賀へ金圓相渡シ候ナリ則裕多賀ハ百貳拾五圓ノ金子持參シテ原告關口昭房ノ代八南一介方へ出向キ候云々」チ上伸シタルハ實ニ憎ムヘキノ甚キト云フヘシ既ニ宇平カ坂府へ出立シタルハ十月中旬ニテ歸京シタルハ十一月ノ上旬ナリ右ハ該區役所旅行届ケ及ヒ歸宅届ヲ見テ知ルヘシ未タ一見セサル床井ト坂府旅行ノ進藤カ右返金チ目撃シタルト云フハ實ニ抱腹ニ堪ヘサルナリ是ハ全ク儀八カ九月四日三課へ捧呈シタル書面中「右情實ハ進藤字平へ御尋被

下云々」トアレハ會テ彼レ等ト相謀リ同六日進藤宇平並ニ床井哲等ヨリ右目撃ノ書面捧呈セシメタルト毫モ相違無之ナリ果シテ然ラハ彼レヲノ所爲ハ紛言以テ法官ヲ誑カシ而シテ自分ヲ罪ニ陷レントノ企ナリ如斯不正ノ所爲ナルヲ檢官之ヲ故信サレ之レヲ論告書中ニ書載シ無罪ノ良民ヲ公判ニ付シ尋テ東京裁判所ハ判文中「己レ渡シタルヲ目撃シタリト證言ス」ノ文詞ヲ揚ケ處分セラレタルハ實ニ法律規則ヲ徒法視セラレタル言渡ニテ自分ノ服セサル第二ナリ

第三條

黒川正兵衛ヨリ領收金ノ義ハ自分決シテ儀八カ總理代人ト詐リタル覺毫モ無之右金請取證ニ由テモ亦明カナルヲ前顯言渡シ書寫ノ如ク認定セラレタルハ不當ノ裁判ナリトスル第三ナリ

大審院ニ於テ辨明スル左ノ如シ

上告人裕多賀ニ於テハ貴田川儀八ハ貸金百七拾圓ノ證書ハ儀八カ債主關口昭房代言人南一介ハ借用金減額ノ示談ヲ遂ケ金員併セテ貳百貳拾五圓返償ノ際即チ明治十二年十月三十日右金百七拾圓ヲ貸與シ借用證書受領セシ後明治十三年一月廿日ニ至リ書換ヘタルモノナリシヲ儀八ニ於テハ該證書ハ裕多賀ノ偽造ニ係ル旨訴ヘ出テ進藤宇平等ト通謀シ巧ミニ裕多賀ヲ誣告スルモノナリト加之儀八ノ總理代人ト詐リ黒川正兵衛ヨリ金圓ヲ受領シタル覺エ之レ無キ旨前記上告狀及ヒ明治十四年一月二十八日以降二次ニ差出シタル上告明細補正書ヲ以テ反復縷々辨護スト雖モ一ノ反證ト爲スヘキモノナク被告儀八カ其筋

ハ差出シタル吟味願及ヒ黒川正兵衛三浦千尋等ノ陳述書並ニ進藤宇平床井哲ノ證言其他ノ徴憑ニ明瞭セリ依テ原裁判所ニ於テ詐欺取財ヲ以テ斷定セシハ敢テ不當ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十三年十二月二十八日東京裁判所ニ於テ平野裕多賀ニ言渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由無キヲ以テ上告狀却下スル者也

第二百六十二號

○判文(限月賣買ニ類似ノ取引ヲ爲セシ件)明治十四年三月九日上告  
明治十四年三月二十八日判決

大坂府北區天満橋筋三丁目  
十八番地平氏

笹倉利兵衛

明治十四年二月  
二十三年四月

明治十四年二月二十八日大坂裁判所ニ於テ右利兵衛ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
其方儀大坂内外用達會社ニ加入シ糶賣掛トナリ明治十三年九月以來現米備ヘアル体ニ仕儀シ十五日又ハ三十日ト期限ヲ定メ官許ヲ得タル米商會所ノ米穀限月賣買ニ類似ノ取引ヲ爲ス科明治十三年四月第二十一號公布ニ依照シ罰金三拾圓申付ル  
笹倉利兵衛於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年三月九日本院ニ上告スル左ノ如シ  
一自分儀明治十四年二月二十八日大坂裁判所ニ於テ罰金三拾圓ノ宣告ヲ受ケタル處不當

ニ付趣意明細左ニ申上候

一明治十三年九月以來大坂府平民西成郡九條村島津藤助ナル者ノ發意ニテ内外用達會社ト稱ヘ官許ヲ得タル諸物品糶賣ノ會社ヲ設立シ之ニ加入スル者凡六拾余名ニシテ其株金ハ一株ニ付金拾圓宛ニシテ自分ニ於テモ之ニ一株加入シ罷在候然ルニ去ル明治十三年十月二十三日地方警察署ヨリ御取調ニ相成タル處全ク明治十三年四月第二十一號ノ御公布ニ觸レタル趣キヲ以去ル二月二十八日大坂裁判所ニ於テ宣告寫ノ通罰金三拾圓宛被申付又加入シテ賣買爲サ、ル者十八名別紙宣告寫之通罰金拾圓宛被申付タリ然ルニ自分ニ於テハ加入シ株金ハ差入候得共賣買取引等ハ一切ナシタルヲ無之然ルニ取引ナシタル者ト爲シ罰金三拾圓被申付タリト雖モ既ニ警察署ニ於テ該件取調ニ相成タル際ニ於テ賣買取引ナサ、ルヲ明瞭ナシタルモノナリ然ルニ今般取引ナシタルモノト爲シ裁判宣告ニ相成タルハ之ヲ不當ト言サルヲ不得何トナラハ前陳述ノ如ク賣買爲シタル者ハ罰金三拾圓賣買爲サ、ル者ハ罰金拾圓ニテ數十名ノ犯則者ヲ二類ニ區別相成タリ然ルニ然ルモハ賣買取引ヲ爲サ、ル自分ニ罰金三拾圓申付ラレタルハ何等ノ謂レナルヤ賣買取引ナサ、ル者ナラハ取引セサル十八名ノ者ト同一ノ御裁判相成ヘキハ當然ノ理由ナリ然ルニ取引ナシタル者ト同一ノ裁判相成タルハ不當ニ付公明ノ御裁判奉仰度此段奉告候以上

辨明

被告笹倉利兵衛カ明治十四年二月十七日近藤貞造連名ニテナシタル供狀ヲ閱スルニ左ノ如シ

一明治十三年九月付規則並糶賣規則表ハ九月以前ヨリ會所ニ張リ出有之其趣意貞造ハ島津藤助ヨリ承リ利兵衛其張出シヲ認メ何レモ差支ナキ事ト心得賣買致シ來候處十月上旬ト覺ヘ右規則摺物ニテ被相渡候十月十四日迄ハ右規則通取扱致シ十五日ヨリ相場相止メ候事

由是觀レハ其賣買取引ナシタルハ明確ナル者ニテ今更賣買セストノ上告ハ相立サルモノトス故ニ原裁判所カ明治十三年第二十一號公布ニ依照シ處斷シタルハ不法ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年二月二十八日大坂裁判所ニ於テ笹倉利兵衛ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スルモノナリ

第三百六十二號

○判文(賭博ノ件)明治十四年三月三日上告  
明治十四年三月二十八日判決

愛知縣三河國幡豆郡針曾村  
十二番地平民  
永谷平十  
明治十四年三月  
四十八年一ヶ月  
同縣同國同郡同村七番地平民  
民源藏長男



永谷 萬吉 明治十四年三月

同縣同國同郡同村九番地 平 二十七年七月

同縣同國同郡同村九番地 平

民角左衛門長男

永谷 仁三郎

明治十四年三月

二十三年一ヶ月

同縣同國同郡同村十四番地

平民龜次二男

永谷 萬吉

明治十四年三月

二十五年四月

同縣同國同郡同村十五番地

平民武兵衛長男

永島 菊松

明治十四年三月

二十年

同縣同國同郡同村三十二番

地平民

早川 照吉

明治十四年三月

二十八年九月

同縣同國同郡同村四十八番  
地平民

石川 兼吉

明治十四年三月

二十三年五月

右永谷平十外六名ノ所爲ニ對シ明治十四年二月二十一日名古屋裁判所岡崎支廳ニ於テ左ノ  
裁判ヲ言渡シタリ

其方共儀明治十四年二月十日永谷平十宅ニ於テ永谷吉三郎等ト金錢ヲ賭シ博戯ヲ爲ス科  
賭博律ニ依リ杖八十ノ處情ヲ量リ三等ヲ輕減シ各答五十申付候事

愛知縣警部代理一等巡查山本如水ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年三月三日附  
ヲ以テ大審院ニ上告スル爲メ司法卿ヲ經由シ本院詰檢事ヨリ送付シタル上告狀ノ旨趣左ノ  
如シ

第一條

抑々犯罪ニ自首輕減ヲ與フル所以專ラ犯者ノ悔懼ヲ促スニアリト雖モ又官司搜查ノ勞ヲ  
省キ速ニ犯人ヲ得ルノ目的ナシトスヘカラス蓋シ犯罪自首條例中第五十九條及第六十九  
條ノ旨趣大概茲ニ出ルモノトス故ニ若シ被告ニシテ現在發覺ノ人ニアラス他人其名ヲ指  
シ官ニ告ケンコトヲ恐レ自首スルモノナリトセハ非現行犯ノ陳告而首タルヲ以テ無論釋放  
スヘシ若シ又一端捕ニ就キタルヲ逃走シ后チ自首スルモノナリトセハ之ヲ擬スルニ越獄  
而首ヲ以テスヘシト雖モ被告ノ如キハ之レト異ナリ現在發覺ノ人ニシテ未タ以テ捕ニ就

カス一時現場ヲ逃走スルヲ以テ爾后官司人ヲ遣シ専ラ捜査中到底逮捕ノ免レ難キヲ覺リ自ラ官ニ首出スルモノナレハ事機緊急止ムヲ得サルニ出テ悔懼ノ心最モ薄シト雖モ被告ニシテ已ニ首出スレハ豫メ期シ難キ罪犯ヲ獲隨テ僅カニ官司捜査ノ勞ヲ省キタリ故ニ其首出ニ依テ減刑ヲ與ヘサル可カラス而シテ之レニ減刑ヲ與フレハ即律例第五十九條聞捕而首ニ論擬セサル可カラサルヤ明ナリ

第二條

法官カ被告ノ罪ヲ裁判スルニ當リ其聞捕而首ニ擬シ減等セサル理由ヲ掲ケタリ其要旨ハ捕吏カ賭場ニ臨ミ現ニ該犯ヲ認視シ其捕ヲ行フニ際シ僅カニ逃カレテ脱シタルモノナレハ其捕ニ就クト就カサルトノ間毛髮ヲ容レサルニアリテ聞捕而首ヲ以テ論スヘキモノニ非ラスト謂フニ過キスト雖モ被告ノ如キハ其捕ニ就クト就カサルトノ間假令ヒ毛髮ノ容ルヘキ隙ナキニモセヨ其區域ノ判然タルヤ法官モ亦タ能ク之レヲ了知スルモノ、如シ然ラハ假令被告ノ現場ヲ逃走シタルハ捕ニ就キタルト就カサルトノ間狹隘ニシテ毛髮ノ容ルヘキ隙ナキニモセヨ未タ全ク捕ニ就カサル以前逃走シ后自ラ官ニ首出シタルモノナレハ宜シク之レニ減刑ヲ與フヘキヲ至當トス然ルニ法官ノ意見ノ如ク之レニ減刑ヲ與ヘサルハ聊カ苛酷ニ當ルノ恐レナキ而已ナラス犯罪自首條中尙ホ陳告而首聞捕而首等ノ區別輕重アル旨趣ニ悖ルナランカ

辨明

上告ニヨリ原裁判所ノ簿記ヲ涉獵スルニ永谷平十外六名等カ賭博ヲ爲シ巡査ニ見認ラレ

現場捕縛セラレントスル際逃走シ然ル後到底遁ルヘカラサルヲ悔悟シ首出セシヲ以テ雜犯律賭博條ニ依リ懲役八十日後自首スルヲ以テ改定律例第五十九條ニ照シ聞捕自首ヲ以テ論シ本罪ニ一等ヲ減シ懲役七十日ト明示セサルヘカラス而シテ尙ホ且情狀ヲ酌量スヘキアラハ其何等ヲ減シ懲役幾十日ト法律上ノ減等ト裁判官ノ酌減ノ區別分明ニ處斷スヘキニ原裁判所ノ裁判コ、ニ出テス漫然於テ賭博律ニ依リ懲役八十日ノ處情ヲ量リ三等ヲ輕減シ各懲役五十日ニ處斷爲シタルハ不法ノ裁判ナリト爲ス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年二月二十一日名古屋裁判所岡崎支廳ニ於テ永谷平十外六名ニ言渡シタル裁判ヲ平翻ズルコト左ノ如シ

- 永谷 平 十
- 永谷 萬 吉
- 永谷 仁三郎
- 永谷 萬 吉
- 永谷 菊 松
- 早川 照 吉
- 石川 兼 吉

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ雜犯律賭博條懲役八十日改定律例第五十九條ニ照シ聞捕自首ヲ以テ論シ本罪ニ一等ヲ減シ尙情狀ヲ酌量シ二等ヲ減シ

各懲役五十日

第三百六十四號

○判文(賭博自首ノ件)明治十四年三月四日上告  
明治十四年三月廿八日判決

愛知縣三河國西加茂郡鍛冶

屋敷平民

山内源十郎

明治十四年二月  
二十八年一ヶ月

明治十四年二月廿三日名古屋裁判所岡崎支廳於テ右源十郎ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
其方儀明治十四年二月十五日同郡大草村平民加藤源八宅ニ於テ金錢ヲ賭ケ博戯ヲ爲ス科  
賭博律ニ依リ杖八十現獲ヲ逃ル、モ后自首スルヲ以テ一等ヲ酌減シ杖七十申付候事  
愛知縣十等警部清水雄藏ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年三月四日付ヲ以司法  
卿ヲ經由シ明治十四年三月二十三日本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ

被告本縣三河國西加茂郡鍛冶屋敷村六番邸平民農山内源十郎ハ金錢ヲ賭シ博戯ヲ爲シタ  
ル犯罪ナルヲ以テ雜犯律賭博條ニ依リ杖八十聞捕自首スルヲ以テ例第五十九條ニ照シ本  
罪ニ一等ヲ減シ杖七十ノ見込ニテ明治十四年二月二十一日名古屋裁判所岡崎支廳へ公訴  
及處同衙ニ於テ同年同月二十二日別紙宣告書ノ通裁判ヲ爲シタリ其裁判不當ト考量スル  
ヲ以テ上告スル主旨如左  
抑賭博ノ罪タル止マ現在發覺ノ人ヲ坐ス其非現行犯ニ及ハサル者ハ轉ダ相援引スレハ遂

ニ誣指濫及ニ陥リ其底止スル所ヲ知ル可カラサルニ至ル弊害ノ恐レアル故ナリ現在發覺  
ノ人トハ現場就捕ノ人ノミチ云フニ非ラス捕押ノ際現場ヲ逃走シ追テ自首スル者ト雖モ  
捕吏ノ撞見ニ係ルヲ以テ現在發覺ノ人タルヲ免レヌ只捕獲原狀ノ相異ナリ而シテ現場ヲ  
逃走シ追捕ノ嚴ナルヲ偵知シ追テ自首スル者之ヲ現獲ト云可カラス則チ聞捕自首ヲ以テ  
論ス可キ者トス聞捕自首ト名稱セハ非現行犯ノ如シト雖モ現場ノ捕ヲ免レタル迄ニテ現  
在發覺ノ人タルヲ以テ非現行犯ニ非ラス依テ其罪ヲ問ハサルヲ得可カラスト雖モ現獲ニ  
非ラス聞捕自首セシ者ナルヲ以テ其罪ヲ問フヤ現獲ノ者ト同一ノ刑ニ坐ス可カラス例  
第五十九條ノ明文ニ依リ本罪ニ一等ヲ減ス可キ者トス被告事件ノ如キ現在發覺ノ人ナル  
ヲ以テ其罪ヲ問フト雖モ現場ノ捕ヲ免レ而シテ到底押捕ノ免レ難キヲ知リ自首スルヲ以テ  
例第五十九條ニ照シ本罪ニ一等ヲ減ス可キ者トス是レ法律ノ明文ニ依テ當然得可キ輕減  
ニ、何ソ法官ノ酌減ヲ竣ツ可キ者ニアランヤ若シ法官酌減セント欲セハ先ツ法律ニ依テ  
當然輕減ス可キ者ヲ輕減シ以テ法官ノ隨意タル酌量輕減シテ可ナリ然ルチ法官ハ當然法  
律ニ依テ輕減ス可キモノヲ輕減セヌ本罪ニ一等ヲ酌量輕減セシハ不當ノ裁判ト考量ス而シ  
法官ノ宥恕ス可キヲ直ニ酌量輕減スル主旨ヲ要スルニ賭博ノ罪タル現獲ヲ坐スルニ  
止ル者ナルカ故ニ聞捕自首ヲ以テ論ス可キ者アランヤト云フニ過キ夫レ法官ハ現在發  
覺ト現獲トノ主旨ヲ混同視スルナランカ元來賭博ノ罪タル前ニ陳ルカ如ク止マ現獲ヲ坐  
スルニ限ラス現在發覺ノ人ニ係レハ現獲ニ於テ就捕探偵捕獲現獲ヲ逃走セシニ依リ  
自首現獲ヲ逃走シ追テ等捕獲原狀ノ名實如何ニ拘ハラス其罪ヲ問フ可キ者ナルヲ信ス如

何トナレハ捕獲原狀ノ如何ニ因テ現在發覺ノ消滅ス可キ者ニ非ラス且ツ非現行犯ヲ問ハサルノ法旨ニ悖ルモノナケレハナリ

辨明

被告源十郎カ明治十四年二月十五日加藤源八宅ニ於テ金錢ヲ賭シ博戯シタルハ雜犯律賭博條ニ依リ懲役八十日ニ處スヘキ處逮捕ノ際現場ヲ逃走シ自首スルヲ以テ例第五十九條ニ照シ聞捕自首ヲ以テ論シ本罪ニ一等ヲ減スヘキ者ト爲ス然ルチ原裁判玆ニ出テサルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以明治十四年二月二十三日名古屋裁判所岡崎支廳ニ於テ山内源十郎ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

山内源十郎

右ハ前ニ辨明スル如キニ因リ雜犯律賭博條ニ依リ懲役八十日ノ處現場逃走ノ末自首スルニ付例第五十九條云々ニ照シ聞捕自首ヲ以テ論シ本罪ニ一等ヲ減シ

懲役七十日

第三百六十五號

○判文(竊盜ノ件)明治十四年二月廿一日上告  
明治十四年三月廿九日判決

福岡縣筑前國那珂郡春吉村

平民

毛屋應砥

明治十四年二月二十三年八月

右應砥カ明治十四年二月六日大坂裁判所ニ於テ審問ヲ受ケタル口供左ノ如シ

一自分儀岡真吉ナル者ハ會テ一面識モ無之者ニ御座候處明治十三年十月三日椿市次郎申聞ケニハ真吉ナル者或ル所ニ於テ金四五拾圓ヲ詐欺シテ所持致シ居ルニ付右金員ヲ取候テモ彼ヨリ訴ヘ出ツ可ラサル金員ニ付ケ様々ノ手段ヲ以テ取ルヘント示サレ夫ヨリ江戸ナル者ト俱々真吉ノ居ル場所ニ立越シ警察署探偵掛リト詐リ江戸ナル者真吉ヲ縛リ江戸ニ於テ真吉所持ノ金品ヲ取上ケ自分ハ真吉ヲ引立他所ヘ連レ參リ候處江戸ハ右金品ヲ持去リ候ヨリ自分ハ其金品ノ員數ハ更ニ承知致シ不申候事

警察署ニ於テ口供 明治十三年十一月廿八日

明治十三年十月日不覺大坂裁判所ニ於テ竊盜ノ科ニヨリ答四十ニ處セラレ

一自分儀貧窮ノ余リ盜心ヲ再發シ都合克キ働キヲ考居候折柄明治十三年十月廿二三日ト覺候處ニ自分ト俱々大坂裁判所ニ繫獄セラレシ自分ト同國ノ産當時府下阿波座下通壹丁目居住椿市次郎ニ出會候キ同人ノ斷スニ此頃自分知ル者五拾圓余ノ金ヲ所有スル故此者ヲ西坂町席貸方ヘ連行酒宴ノ場所報知スレハ汝ヲ探索掛リト詐リ同人ヲ捕ヘ所持金品ヲ取上ケ逃去レトノ謀リニ候得共連モ自分一人ニハ成就六ヶ敷ト考市次郎ニ今一人連累ヲ求メ候處然ラハ謀リ置故明治十三年十月卅日自分宅ヘ立越セト申聞候ニ付則チ薄暮ヨリ立越候處東京ノ産トヤラニテ自分會テ知ラサル江戸ト呼フ者居合雜話ノ場合市次郎人力

車ニテ歸宅シ今目的ノ金主ト西坂町席貸業野口「ミヨ」方ニテ遊興致居候トテ彼ノ盜犯ノ手順ヲ取極置市次郎ハ野口方へ戻リ自分江戸ト夜十二時頃野口「ミヨ」方へ踏込自分等ハ西長堀警察署探偵掛リト詐リ江戸ナル者ハ其時名前不知眞吉ヲ縛シ所持ノ金品ヲ取上ケ江戸是ヲ携へ自分ハ眞吉ヲ引立該家立去リ難波新地學校ノ裏手マテ至リシ處江戸ハ自分へ何等モ云ハズ別レシヨリ定メテ市次郎ノ宅へ戻リシト考へ繩付ノ眞吉ヲ學校へ預ケントセシニ自分其時不知難波新地五番町中野宇平方へ預ケ吳候様ノ求メニ應シ該家ノ門口ヲ叩キ西長堀警察署探偵掛ト名乗り門口ヲ開カセ立入り眞吉ノ繩ヲ解キ嚴重看護致セト申聞ケ其家立出椿市次郎カ方へ戻リ江戸ヲ尋テシニ市次郎ノ妻ヨリ江戸ハ未ダ歸ラス趣承リ不審ノ折柄市次郎ノ歸チリ候ニ付事ノ結局相斷候得ハ大ニ憤リ自分ト江戸ト贓品ヲ分配シ江戸ヲ逃セシト相迫リ候モ自分ニ於テハ決テ左ニアラス其後江戸ニ面會セサルヨリ考見レハ全ク贓金品ヲ拐帶セラレン事ハ今更悔悟罷在候處明治十三年十一月十九日西成郡難波村ニ於テ被召捕候事

問 汝ヲ探偵掛リト詐リ眞吉ヲ捕へ取上ケタル所持金品ノ數ハ記臆致居候哉

答 自分ハ手ニ取ラサレハ何程ナル哉知ルニ由ナシ

右ノ口供ニ依リ明治十四年二月十二日大坂裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
其方儀明治十三年十月三十日椿市次郎ノ勸メニ從ヒ通稱江戸ナル者ト西長堀警察署探偵係ト詐稱シ岡眞吉ナル者ヲ捕へ金品ヲ取ル科詐稱官律ニ依リ懲役二年半ノ處從タルヲ以テ一等ヲ減シ懲役二年ノ處情法ヲ酌量シ二等ヲ減シ杖一百申付ル

但得ル所ノ贓金品ハ詐稱官律第三項ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ其金品ハ共犯江戸ナル者持去リ且被害者ノ告訴ナキヨリ其金額ヲ知ルニ由ナキヲ以テ假リニ壹圓以下ト認メ答五十輕シ論セス

大坂裁判所檢事補河井淡ニ於テハ右ノ處斷ヲ不當ナリトシ明治十四年二月廿一日附テ以テ上告一件司法卿ヲ經由シ明治十四年三月五日本院檢事ヨリ送致シタル右ノ上告ノ旨趣左ノ如シ

本職ニ於テ該裁判ヲ以テ其當ヲ得サル者トナシ上告手續第廿九條ニ規定セラレタル時限内ニ被告人へ告知ノ手續ヲ履行シタル後上告ヲ爲ス趣旨左ノ如シ

本案事件ヲ以テ強盜犯ナリト思料シ公訴シタル證據及事實ノ要點ハ左ノ如シ

一 被告カ明治十三年十一月二十八日警察署ニ於テ爲シタル自由任意ノ供狀中椿市次郎カ岡眞吉ヲ捕へ金品ヲ取上ケヨトノ勸メニ同意シタル事

二 糾問判事ニ於テ甘結シタル被告人自由陳述書

三 右ノ強惡ヲ違フセンカ爲メ更ニ協力者ヲ乞ヒ遂ニ明治十三年十月三十日野口「ミヨ」方へ踏込シ西長堀警察署探偵掛ナリト詐稱シ威力ヲ以テ眞吉ヲ縛シ其金品ヲ掠奪シタル其現狀ヲ見受ケタル戸主「ミヨ」ノ陳述書

四 旅人宿營業宇野宇平ノ陳述書

以上列序スル所ノ事實ト證據トノアルニモ關セス之ヲ認メテ詐稱官律得財ノ所業ナリトスルハ抑モ何ノ理由ヲ詐稱官律第一項官司ノ差遣ト詐稱シテ人ヲ捕フトハ蓋シ財ヲ圖ル

ノ意ナクシテ單ニ官威ヲ假リテ此所爲ニ及フ者ノ云ヒナル可シ又々其第三項若シ財ヲ得ル者ハ云々トハ前段ノ所爲ヲ施シ而シテ財ヲ得ルニ強テ用ヒサルノ云ヒニシテ例セハ家人等其戸主ノ捕ニ就キタルヲ憂慮シ之ヲ宥ンカ爲メ金圓ヲ差出スヲ受ケタルカ如キ者ノ云ニテ夫ノ當初ヨリ財ヲ奪フノ目的ヲ以テ強奪ヲ逞フシ其手段ノ一部中ニ就テ官ヲ詐稱スルカ如キ行爲ヲ云フニ非ラサルナリ凡ソ罪ヲ定ムルハ其行爲ノ如何ニ因ルヘキ乎將其手段中ノ言語ニ依ルヘキ乎若シ本案ノ如ク其行爲ノ強奪ニ在ルヲ願ミズシテ探偵掛ト稱シタル言語ノ末ニ就テ罪ヲ定ムルモノトセハ罪ハ常ニ行爲ニ因テ定マラスシテ言語等枝葉ノ爲メニ輕重左右セラレ或ハ恐ル兇奸強奪ヲ爲スニ常ニ官ヲ稱シテ重ヲ避ケ輕キヲ擇ラヒ爲メニ刑法ノ權力地ニ墜チントス法律ノ精神決テ然ラサルヲ信ス

又々被害者ノ常人ニ非ラサルヲ以テ強奪ト認メサルノ趣意ナル乎モ計リ難シト雖トモ固ト罪ハ被害者ノ身分ニ依ツテ其質ヲ變更スヘキニ非ラス由シヤ變スヘキモノト假定スルモ被害者所持スル所ノ金圓ハ果シテ不正ナルカ否ヲ確認シ難キニ於テチヤ然ルチ其適律強盜條ニ依リ擬斷セズシテ詐稱官律ニ問ヒ杖一百ト宣告シタルハ裁判其當ヲ得サルモノトス

辨明

被告應砥カ椿市次郎ノ申勸メニ同意シ異名江戸ト唱ル者ト俱々明治十三年十月二十日夜十二時頃突然席貸業野口「ミヨ」方ニ踏「込」ミ探偵掛リト申威シ岡真吉ヲ捕縛シ同人ノ所持金品ヲ奪取セシハ該犯ノ口供及ヒ野口「ミヨ」並旅人宿屋宇野宇平等カ手續書ヲ以テ觀

レハ應砥カ椿市次郎外一名ト相謀リ入チ捕縛シ金品ヲ奪取セシ所爲ハ即チ不持兇器強盜ノ犯罪ナリトス而シテ應砥カ前科ヲ取調ルニ左ノ如シ

申渡

士族主水弟

毛屋 應砥

應砥義及自訴候節中尾柳平所ニテ盜致シタルヲ相包ム始末不束ニ付庶人下シ申付ル

壬申五月二日

福岡縣

毛屋應砥前科取調書(大坂裁判所)

明治十三年十月十三日大坂裁判所ニ於テ人家ニ忍ヒ入物品竊取スル者贓金三拾圓以上竊盜律ニ依リ士族タルヲ以テ律例改正第十三條ニ照シ除族

杖九十

右各通リ書面ニ據レハ應砥ハ竊盜再犯ノ罪ヲ犯シ前科ヲ包藏シ竊盜初犯ヲ以テ杖九十ノ處斷ヲ受ケ懲役十日ノ刑ヲ免カレタル者ノ如シ果シテ然ラハ初犯竊盜再犯竊盜又不持兇器強盜ノ罪ヲ犯シタル者ナルニ因リ再犯加等罪例ニ照シ處斷スヘキヲ相當ナリトス然ルチ原裁判所ニ於テハ包藏罪ヲモ審理セス詐稱官律ニ依リ處斷シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年二月十二日大坂裁判所ニ於テ毛屋應砥ニ言渡シタル裁判ヲ

破毀シ神戶裁判所ニ移スニ因リ檢事補河井淡ニ於テハ相當ノ處分ヲ爲スヘシ  
第三百六十六號

○判文(不應爲ノ件)明治十四年三月七日上告  
明治十四年三月廿九日判決

茨城縣常陸國新治郡大角豆

村平民喜平三男

淺川儀三郎

明治十四年二月

十九年三月

右儀三郎カ所爲ニ對シ明治十四年二月二十六日東京裁判所千葉支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡  
シタリ

其方儀山田久兵衛ヨリ父喜平ヘ宛タル明治十二年四月五日付借入金六百圓年賦約定證ハ  
其日久兵衛ノ手ヨリ直ニ受取記名捺印モ久兵衛ノ自筆實印ニシテ真正ノモノナリト供ス  
レモ山田久兵衛ニ於テハ右約定證ヲ入タルコトナシ其記名及ヒ名下ノ印ハ自筆實印ニ相違  
ナシト雖モ印紙ノ消印及ヒ文言中ノ捺印ハ實印ト相違ス右ハ明治十二年六月五日其方ヨ  
リ明治十年十一月十九日付ノ貸付金約定證ナ一時預リ其際渡シタル預リ證ノ記名捺印ヲ  
用ヒ該年賦約定證ヲ詐爲セシ者ト推測スト陳述ス而シテ印判師ヲシテ該年賦約定證書ノ  
印影ヲ鑑定セシムルニ久兵衛名下ノ印ト文言中ノ捺印ト字格跡樣ヲ異ニスト云フ且該證  
ヲ閱スルニ明治十二年四月五日ノ四ノ字ハ六ヲ四ニ書改メタルモノト認ム又眞ニ久兵衛  
ト喜平ト該年賦約定證ノ如ク締約ヲ爲シタルモノナラハ明治十二年七月十五日付喜平ヨ

リ久兵衛ヘ宛タル約定證ノ如キ締約ヲ爲スヘキ理ナシ喜平ニ於テハ右明治十二年七月  
十五日付證書ノ約定ヲ結ヒタル理由ハ久兵衛ニ於テ更ニ五百圓貸與フヘキ旨申ニ因リ則  
該約定證ヲ入レタリト陳述スレモ久兵衛ニ於テハ右ノ如ク申聞タルコトナシト云フ而シテ  
證書面ニ其事記載ナキノミナラス條理ニ於テアルマシキ事ナルヲ以テ喜平ノ陳述ハ信シ  
難シ此他上野文尉關本國之助山田鎌三郎山田清三郎等ノ陳述及ヒ關本國之助ヘ渡シタル  
明治十二年六月六日付ノ證書受取證ニ因リ事實ヲ推測スレハ貸附金約定證ヘ印紙貼用ヲ  
求ムル爲メ明治十二年六月五日山田久兵衛方ヘ相越シ一時該證ヲ預ク其預リ證ヲ取ル際  
詐術ヲ以テ久兵衛ニ白紙ヘ記名捺印セシメ以テ明治十二年四月五日付ノ借入金年賦約定  
證ヲ詐爲セシ者ト認定ス右科改定律例第二百四十六條ニ依リ不應爲ノ重キニ問ヒ懲役七  
十日申付ル

淺川儀三郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年三月七日日本院ニ上告ノ旨趣左ノ如  
シ

上告ノ要領

東京裁判所千葉支廳ハ山田久兵衛ニ於テ右約定書ヲ入タルコトナシ其記名及ヒ名下ノ印ハ  
自筆實印ニ相違ナシト雖モ印紙消印及ヒ文言中ノ捺印等ハ實印ト相違ス右ハ明治十二年  
六月五日其方ヨリ明治十年十一月十九日付ノ貸付金約定證ナ一時預リ其際渡シタル預リ證  
ノ記名捺印ヲ用ヒ該年賦約定證ヲ詐爲セシ者ト推測スト判決ヲ與ヘラレタルハ不服ナリ  
抑モ上告人ハ該約定證ヲシテ名下ノ印ト姓名等自筆實印ト確定セシ上ハ明治十年太政官

第五十號布告ニ依ルモ該證書ハ有効ニシテ然ルヲ無其儀シテ當ニ預リ證ノ記名捺印ヲ用  
ヒ該年賦約定書ヲ詐爲セシ者ト推測ストハ信理不盡ノ裁判ナリ因テ該證ノ記名捺印ヲ用  
ヒ詐爲セシト寄推スル證憑アルニアラサレハ是ヲ不當ノ推測ト言ハサルヲ得ス又曰明治  
十二年六月五日其方ヨリ明治十年十一月十九日附ノ貸付金約定證ヲ一時預リトコレアル  
モ但シ其方トハ儀三郎ニ於テ明治十年十一月十九日付ノ貸付金約定證ヲ一時預リタル義  
會テ無之ニヨリ了解セサルノ一點ナリ

第二條

一 印判師チシテ該年賦約定證書ノ印影ヲ鑑定セシムルニ久兵衛名下ノ印ト文言中ノ捺印  
ト字格跡様チ異ニスト云フ右印判師チシテ鑑定セシモ當名下ノ印ト文言中ノ捺印ト字格  
跡様チ異ニスト云フ迄ノ鑑定ニ止リ儀三郎ガ偽印セシトノ鑑定ニアラン因之視之モ名下  
ノ印影實印ナレハ從テ他ノ印影モ久兵衛カ他ノ替ヘ印ナルカ捺印セシト推測セサルハ不  
可ナランヤ然リ而シテ文言中ノ捺印字格跡様チ異ニセシモ名下ノ印影カ實印ナレハ何レ  
チ勝レルトセン將タ論チ不俟シテ何ソヤ

第三條

一 該證ヲ閱スルニ明治十二年四月五日ノ四ノ字ハ六チ四ニ書改メタル者ト認ムトアル  
モ文字ハ書損等モ敢テチキニシモアラストス又眞ニ久兵衛ト喜平ト該年賦約定證ノ如  
ク締約チ爲シタルモノナラハ明治十二年七月十五日付喜平ヨリ久兵衛ヘ宛タル約定證ノ  
如キ締約チナスヘキ理ナシトコレアルモ上告人ハ該約定證ノ如クハ草稿ニシテ未整ノ證

ニテ該約締證ノ如ク整ヒタルモノナレハ實父喜平方ニ取置ク所ノ明治十二年四月五日付  
約定カ存在スヘク謂レコレナク又明治十二年七月十五日付喜平ヨリ久兵衛宛タル約定證  
ヘ調印セシメ從テ先約ハ破約ノ上久兵衛方ヘ返戻スヘクハ至當ナリ然ルモ父喜平方ニ存  
在シアルヲ以テ視ルモ後ノ約整ハサルハ明ナリ然ルヲ無効ノ草稿書チシテ何ソ疑チ容ル  
ハ能ハスシテ又然リ喜平ニ於テハ明治十年十一月十七日借用證ノ抵當地ノ束縛チ解除セ  
ンカタメ明治十二年七月十五日付云々ノ草案チ實父喜平方ヨリ示セシモ不肯該草案ハ其儘  
久兵衛方ヘ捨テクモ前記ノ如ク無効ニ歸シタリ且自分ハ實父ノ指揮ニ從ヒ代理者トナリ  
右年賦約定證書チ久兵衛手ヨリ請取り實父喜平方ニ渡シタルモノナレハ該證書ハ父喜平方  
所有ニ歸シタリ又負債ノ責モ余ニアラサルナリ

第四條

一 上野文蔚關本國之助山田鎌三郎山田清三郎等ノ陳述及ヒ關本國之助ヘ渡シタル云々右  
上野文蔚タルヤ自分ハ民事訴訟ノ際差添ニ委託セシモ善良ナラサルニヨリ該件央ニシテ  
差添チ斥避シ該念慮アル文蔚カ陳述ハ信用スルヲ得ス又關本國之助於テハ久兵衛ノ代人  
ニシテ及山田鎌三郎山田清三郎右三名ハ何レモ久兵衛カ一等親ニテ右三名等カ陳述チ揚  
ケ詐爲偽造ノ證據ト推測セシハコレ不當ト言ハサルヲ得ス且明治十二年六月六日付喜平  
代義三郎ヨリ久兵衛代關本國之助ヘ受取書差入タル所以ノ義ハ義ニ明治十年十一月十九  
日付久兵衛ヨリ受取タル證書ヘ同人カ印紙貼用ノ爲メ該證ヲ一時同人ヘ貸與ヘシニ付金  
六百圓證書一通明治十二年六月五日付ニ山田久兵衛ヨリ受取置候處該證ノ印紙貼用ノタ



メ久兵衛へ貸與ヘタル證書受取タル日ハ但シ六日ナリ右金六百圓受取書ヲ相返スヘク處  
持參無之ニ付同月六日付ニテ一時假受取書遣シ候得共明治十二年六月五日國之助方へ相  
越シ久兵衛ヨリ取置タル證書ハ實父喜平於テ今ニ所持罷在候義ニ御座候然ルナ千葉支廳  
ニ於テ明治十二年六月五日山田久兵衛方へ相越シ一時該證ヲ預ケ其預リ證ヲ取ル際詐術  
ヲ以テ久兵衛ニ白紙へ記名捺印セシメ明治十二年四月五日付ノ借用金年賦約定證ヲ詐爲  
セシモノト認定宣告ヲ與ヘラレシハ不服ナリ何トナレハ明治十二年六月五日付證書タル  
ヤ久兵衛ヨリ貳葉ハ受取不申壹葉受取タルハ既ニ同年六月五日付證書實父喜平於テ所持  
罷在候義ニ御座候然リ而シテ同日久兵衛ヨリ白紙へ記名捺印セシメタルト認定セシハ何  
等ノ證跡ヲ揚ケタルヤ得テ不解該證跡アルニアラサレハ該六百圓年賦證書ハ正當ノ證書  
ト言ハサルヲ得ス况ンヤ自分ハ久兵衛ニ白紙へ記名捺印セシメタル義會テ無之候條右宣  
告ハ不法ト思量仕候條奉告候

第五條

前條々ノ理由ナルニヨリ東京裁判所千葉支廳ノ宣告ヲ破毀シ公明至當ノ御判決ヲ奉仰候  
謹言

辨明

淺川儀三郎ニ於テハ右ノ如ク上告スト雖モ山田久兵衛ヨリ實父淺川喜平ニ係ル民事詞訟  
事件ニ付其差添人タル上野文蔚カ口供ニ「明治十二年八月二十七日上市梅香蔭山某宅  
ノ借住シヘ儀三郎尋子來リ同道シテ裁判所ニ至ル途中黒羽根町ノ坂ノ上リ口ニテ儀三郎  
タル所

ニ向ヒ彼ノ六百圓ノ證即チ山田久兵衛ヨリ成立ヲ尋タルニ儀三郎曰ク彼ノ證ハ山田久兵  
衛ヨリ豫テ受取リタル證書ノ中ニ印紙ヲ貼ラサルモノアリ因テ印紙ヲ貼ラセル爲持行キ  
タル節久兵衛ハ酒ニ酔居ルニ際シ一時該證ヲ預リ證ヲ受取ル時久兵衛ニ  
名義ノミチ自書致サセ後ニ自分ニテ文意ヲ作りタル旨挨拶致シタルニ相違無之右ハ本日  
儀三郎ト對質ノ上御糺シノ處聊モ偽リ之ナク候事トアリ其他ノ衆證ヲ參照シ原裁判所  
ニ於テ儀三郎カ借用金年賦約定證ヲ詐爲セシ者ト認定シ改定律例第二百四十六條ニ依リ  
不應爲重キニ問ヒ懲役七十日ト處斷シタルハ不法ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年二月二十六日東京裁判所千葉支廳ニ於テ淺川儀三郎ニ言渡  
シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スルモノ也

第三百六十七號

○判文(縊殺ノ件) 明治十四年二月廿二日上告  
明治十四年三月廿九日判決

東京府日本橋區富澤町二十  
七番地平民

橋本重吉

明治十四年二月  
二十四年二ヶ月

明治十四年二月十六日東京裁判所於テ右重吉ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
其方儀安達仙藏妻トミ縊殺ノ件相糺ス處犯罪ノ證據充分ナラサルヲ以テ無罪

檢事補野崎啓造ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年二月二十二日付テ以テ司法卿  
 ナ經由シ明治十四年三月十五日日本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ  
 本案行兇人ノ橋本重吉 宿泊シ行兇ノ當夜モ例ニ依テ該家ニ留宿セリ 相違ナキヲ認定  
 ス可キ諸般ノ微憑ハ歷々明確ナル者アリテ重吉ハ此等ノ微憑ニ對シテ決シテ該犯罪者タル  
 チ免レ能ハサル者トス今先ツ其外賊ノ所爲ニ係ラサルノ衆憑ヲ左ニ記述シテ以テ絞殺罪  
 ノ重吉ノ身ニ歸着セサル可ラサルノ事由ヲ證明セシトス  
 一家宅ノ外圍ニ於テ毫モ人ノ踰越出入シタル痕跡ナキ而已ナラズ行兇ノ室中更ニ蹤痕ヲ  
 印スル等ノ微憑ヲ看ス凡ソ兇賊ノ人家ニ侵入シテ罪ヲ犯スヤ必ズ跡足又ハ穿履ノ儘室内  
 ニ出入スルヲ常狀トス豈優游入ルニ脱シテ出ルニ穿ツノ邊マシラシヤ然レハ本案事件ヲ  
 シテ若シ外賊ノ所爲ナラシメハ行兇ノ室内又ハ其他ノ場所ニ於テ必ズ跡痕ヲ印スル等ノ  
 微憑ヲ貽ス可キナリ而シテ毫モ其事ナシ是外賊ノ所爲ニ係ラサル第一ノ微憑ナリトス  
 二行兇ノ詰朝前夜例ニ依テ堅ク閉鎖シタル被殺者寢室ノ兩戸一尺五寸許ノ開キアルヲ看  
 ル而シテ更ニ破壊ノ痕跡ヲ呈セス元來被害者ノ家屋ハ其當時ノ新築ニ係リ戸締等ハ最モ  
 堅牢ニシテ容易ニ外面ヨリ開キ得ヘキニ非ラス然ルニ破壊ヲ用ヒスシテ輒ク之ヲ開キタ  
 ルハ是レ内ヨリセル者ニシテ決シテ外ヨリ強排シタル者ニ非ラズ是外賊ノ所爲ニ係ラサ  
 ル第二ノ微憑ナリトス  
 三絞殺ノ用ニ供シタル二條ノ手拭ハ兼テ被殺者寢房ノ戸棚ニ納置セル者ニシテ外人ノ其  
 所在ヲ知リ能ハサル所ナリトス且其手拭ニ被殺者ノ枕紙ヲ捲込シアリテ熟眠ニ乗シタル

ノ現證ヲ呈セリ是該手拭ノ所在ヲ豫知セル者絞殺ヲ謀リ室内ニ潜入第一着ニ之ヲ取出シ  
 熟眠ニ乗シテ兇殺ヲ逞フセル者ニシテ夫ノ盜犯財物ヲ搜索スルノ際家主ニ誰何セラレ臨  
 時故殺ヲ行フタル等ノ實況ニ非ラス又タ被殺者ハ平生温順貞良ニシテ其外人ニ接スル最  
 モ懇切ナリシト云ヘハ他ヨリ怨恨ヲ招クノ理由ナシトス既ニ盜犯ノ所爲ニ非ラス亦タ他  
 人ノ宿怨ヲ挾ム者ナシ而シテ此兇害ニ遇フ是外賊ノ所爲ニ係ラサル第三ノ微憑ナリトス  
 四被殺者カ當夜例ニ依テ臥褥ノ下ニ隱置キタル金嚢ノ取出シアルヲ看ル又行兇現場ニ燈  
 餘ノ蠟燭壹個ヲ遺留セリ是レ該家ニ於テ平素用ヒ來レル者ニシテ其所在ノ如キハ外人ノ  
 知り得サル所ナリトス斯ノ如ク家人ノ外知り能ハサル所ノ物品ヲ取出シ或ハ盜取シ或ハ  
 使用ス是ノ外賊ノ所爲ニ係ラサル第四ノ微憑ナリトス前數項ニ記述シタル衆憑ニ依レハ  
 其外賊ノ所爲ニ非ラサルヤ充分明確ナリトス既ニ外賊ノ所爲ニ非ラズト斷定セハ其犯人  
 ハ必ズ家人ノ中ニ就テ之ヲ索メサル可ラス而シテ行兇ノ當夜該家ニ留宿セル者ハ被殺者  
 ヲ除キ男女各四人ナリトス夫ノ絞殺ノ所爲タルヤ最モ兇暴ヲ極メ軟弱婦女ノ犯シ得ヘキ  
 ニ非ラサレハ其此等ノ者ノ所爲ニ出テサルヤ亦明白ナリトス既ニ婦女四名ヲ除去セハ男  
 子四人ノ内必ズ其一人ノ犯罪者ナカル可ラス然ルニ中ニ就キ小出松吉池田德藏與村竹次  
 郎ノ三名ニ付テハ毫モ疑ヲ容ル可キノ廉ナク其行犯ニ係ラサルヤ明知ス可キナリ然レハ  
 此三人亦之ヲ除去セサル可ラス以上男女八人ノ内既ニ其七人ヲ除去ス最後ニ殘リタル  
 他ノ一人ハ果シテ何人ニ係ル歟是レ即チ本案ノ被告人ナル橋本重吉ナリトス獨リ該人ニ  
 當テハ左ニ記述セル如ク微憑ノ顯然ナル者アリテ決シテ行兇人タルヲ免レ能ハサル者ト

一 被殺者ノ寢室ト重吉ノ臥房トハ僅ニ一室ヲ隔ルルニシテ行兇ノ翌朝中間ノ襖二尺五寸許開キアルヲ以テ光線ノ映射ニ因リ被殺者寢室ノ兩戸障子ノ開キアルハ別ニ注意ヲ要セスシテ一目認知ス可キナリ然ルニ之ヲ知ラザリシトテ虛偽ノ供述ヲ爲ス事

二 元來橋本重吉ハ盜火難ノ爲メ番人トシテ該家ニ宿泊セル者ニシテ戸締等ハ其最モ注意ス可キノ職分ナリトス然ルニ雇人奥村竹次郎等ノ談話ニ因リ庭前ニ衣櫃ノ放棄アリシヲ知リ又タ己レ自ラ開クニ非ラサレハ決シテ開キアル可キ道理ナキ兩戸ノ開キアルヲ見ナカラ毫モ疑訝セシ模様ナキ事

三 最モ先キニ兇事ヲ發見シタルハ橋本重吉ニシテ其際ノ舉動ヲ以テ之ヲ看レハ重吉カ其死者タルヲ豫知シ居タルノ微憑ハ昭々掩フ可ラサル者アリ又タ警察官及ヒ裁判官ノ尋問ニ對シ屢前後齟齬ノ供述ヲ爲ス事

四 絞殺ノ用ニ供シタル一條ノ手拭其兩端ヲ捻轉シテ兩側ノ結紮部ニ掛入シタルカ如キハ常人ノ能クシ得サル所ナリトス而シテ橋本重吉ハ驚職ニシテ其慣熟ノ手練ヲ施シタル者ト推定シ得ヘキ事

五 橋本重吉カ戸主仙藏ノ歸宅以前一旦他出セシハ池田德藏其他ノ者ノ陳述ニ依テ明白ナリトス而シテ其母橋本「キン」ノ供述ニ依レハ重吉カ其私宅ニ歸リタルハ德藏ト同伴ナリシト云フ是レ仙藏歸宅ノ後警察署ニ届出ヲ吩咐セラレタルニ因ル者トス然レハ其仙藏歸宅以前單身外出シタルハ私宅ニ歸リタルニ非ラズ果シテ何レノ所ニ到リタル歟重吉ハ固

ク其他出ノコトヲ包藏シ其行キタル所ヲ證明シ能ハサルニ依テ之ヲ看レハ是全ク該夜盜取シタル衣類金圓ヲ隱没センカ爲メ外出セシ者ト推定シ得ヘキ事

以上枚舉セルカ如ク該行兇人ノ橋本重吉ニ相違ナキノ微憑歷々明確ナリトス然而シテ前記ノ狀況ニ依レハ重吉モ亦被殺者ニ對シ宿怨ヲ抱ク者ニアラス亦決シテ盜心ヨリ起リタル者ト爲ス可カラズ然ラハ重吉ハ何故ニ此暴惡ナル兇害ヲ逞フシタル歟今其犯罪企圖ノ原因ヲ推測スルハ甚タ容易ニシテ且最モ確實ナリトス

抑モ橋本重吉ハ曾テ該家雇女小林「ヨネ」ト私通シ其事被殺者ノ認知スル所ト爲リ終ニ其出入ヲ謝絶セラレ種々其罪ヲ詫ヒテ稍舊ニ復シタル等ノ事アルヲ以テ之ヲ觀レハ平素決シテ品行方正ナル者ニ非ラス而シテ當夜被殺者ハ臥床ニ就クノ前通常ヨリ些シク過飲シ彈絃歌謠ノ際重吉ニ對シ酒ヲ侑メ歌ヲ命シ其頻リニ己レヲ愛遇スルノ狀アルヲ見テ重吉ハ此時ヲ以テ好機ト爲シ夫仙藏ノ不在ニ乘シ夜半必ズ姦通ヲ以テ被殺者ニ迫リタル者トス然ルニ被殺者ノ爲メ痛ク譴責拒絶セラレ其情慾ヲ果シ得スシテ空シク自己ノ寢房ニ立歸リタル後已ニ有夫ノ婦ニ對シ姦通ヲ挑ミ拒絶セラレタル而已ナラス痛ク譴責ヲ受ケタル上ハ翌日ハ必ズ直ニ其出入ヲ禁絶セラレ面目ヲ失フハ勿論後害ノ測ル可ラサルヲ慮リ且ハ其拒絶ヲ憤怒スルノ餘リ遂ニ殺意ヲ決シ更ニ其熟眠ヲ待テ兇殺ヲ逞フシタル者ト認定スルモ万其誤謬ナキヲ信スルナリ

橋本重吉犯罪ノ原因前記ノ如シ而シテ其金錢等ヲ盜取セシハ所謂毒ヲ喰ハハ皿マテノ類ニシテ全ク殺後ノ造意ニ係リ初ヨリ盜心ヲ挾ンテ此兇害ヲ行フタルニ非ラサルハ其熟眠

ニ乗シタルト盗品ノ甚ク微少ニシテ重吉如何ニ兇暴ナリト雖モ此等些少ノ財物ノ爲メニ  
貴重ナル人命ヲ賊ラテ快シトスルニ至ラサル可キヲ以テ認知シ得ヘキナリ  
又夫ノ兩戸ヲ開僅シ張板ヲ除去シ又ハ前掛女禪ヲ庭中ニ遺棄セルカ如キハ是レ重吉カ其  
外賊ノ所爲ニ係ルノ形跡ヲ偽裝シ以テ己ノ罪ヲ掩蔽セントスルノ手段ニ外ナラサル者ト  
大  
以上ニ記列セルカ如ク犯罪ノ徵憑充分明確ナルヲ以テ橋本重吉ハ人命律謀殺條ニ依リ斬  
ニ處ス可キ者トス然ルニ東京裁判所ニ於テ犯罪ノ證據充分ナラストシテ無罪ノ宣告ヲ爲  
シタルハ不當ノ裁判ナリトス

辨明

橋本重吉カ被告事件ノ簿冊ヲ涉獵アルニ安達仙藏妻トミニ絞殺シタルハ外賊ノ所爲ニ  
ハ非ラサルモノ、如シト雖モ上告官カ逐條以テ重吉ノ所爲ト云モ總テ其模様ニ因リ推測  
セシモノニシテ果シテ重吉カ行兇人ナリト認ムヘキ證據之レナク因テ東京裁判所カ該公  
訴ニ對シ犯罪ノ證據充分ナラサルヲ以テ無罪ト判決シタルハ不法ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年二月十六日東京裁判所ニ於テ橋本重吉ニ言渡シタル裁判ハ  
破毀スヘキ理由ナキモノトス

第三百六十八號

○判文(不應爲ノ件)明治十四年三月三日上告  
明治十四年三月卅日判決

大分縣豊後國大分郡木上村  
平民

漆 間

新 吾

明治十四年六月

三十年五月

右新吾カ所爲ニ對シ明治十四年二月廿六日熊本裁判所大分支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタ

リ  
其方儀審問ヲ遂ル處明治十三年七月中曾テ北海道郡丹生村平民工藤村治カ池邊田村ヘノ  
借米證書ニ受人ニ相立チナカラ其受人ノ義務ヲ免ヌカレンカ爲メ同郡市村平民當時戸長  
山村澄三ニ相謀リ村次長男工藤岩吉ニ下按チ差示シ不實ノ證書ヲ認メサセタル覺ヘ無之  
旨申立ツルト雖モ其方於テ工藤岩吉ヨリ領収セシ證書ハ後日決シテ警察署等ヘハ差出サ  
ハル云ダトノ反證ヲ工藤岩吉ヘ差入レタリト自白スル而已ナラズ明治十三年七月三十日  
其方及ヒ山村澄三カ連署シテ工藤岩吉ヘ差入レアル證書ニ(明治十二年一月四日工藤村  
治ヨリ池邊田村ニ差入レタル米借用證書ニ拙者辨濟受人ニ相立候處相違無之然ル云々吟  
味願等之事條差起リ候節ハ拙者ヨリ直ニ願下テ可致候也)トアリ然ルチ其方ハ該證書ニ  
實印捺捺アルモ決シテ知得セサルト供出スレモ果シテ其方カ他人ニ印影ヲ盗用セラレタ  
ルノ證據ハ勿論又猥リニ之ヲ盗用セラル可キノ理由モナク况ンヤ池邊田村並工藤村治同  
岩吉等ノ供述ニ照ラシテ之レカ事實ヲ推測スルモ固ヨリ其方於テ山村澄三ヘ相謀リ工藤  
岩吉ヲシテ無實ナル證書ヲ認メサセ以テ其方ハ受人ノ義務ヲ免ヌカレントセシヤ明白ナ

リト判定ス因テ右科雜犯律不應爲條不應爲重キニ問ヒ懲役七十日申付ル

漆間新吾ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年二月三日大審院ニ上告ノ要越左ノ如

シ

過ル明治十二年二月四日工藤村治ヨリ池邊田村ニ米借用證書ノ成立タルヤ負債主工藤村治ト貸主池邊田村トノ間ニ契約成立タル者ノミニテ池邊田村工藤村治ハ口ヲ揃テ自分受人ニ立タルト陳述スト雖モ決シテ受人ニ立タルト無之然リ而シテ元來工藤村治ニハ親戚ニモ無之加之百有余圓ノ金額ニ容易ニ受人ニ立ツアラシヤ而ルニ工藤村治ニ於テハ調印云々ヲ申立ツルト雖モ抑モ該證書ニ押シアル自分カ實印ハ工藤村治カ長男工藤岩吉カ自分ノ留主ヲ見立テ實母ヲ欺キ盜捺シタルコトハ明治十二年八月十二日付ヲ以テ右岩吉カ自筆ニテ自分始メ山村澄三池邊捨松目前ニテ自分名宛ニ差入タル書面ノ確タル證據アリ自分ハ其節直チニ告訴セント思考セシモ岩吉ハ悔悟スルヲ看々告訴スルモ本意ナラス依テ本人ノ歎談ニ任セ置キタル者ナリ決シテ工藤村治ヨリ池邊田村ニ米借用證書ニ拙者辨濟受人ニ相立候處相違無之云々ノ證書差入タル覺無之最モ明治十三年八月十二日證書取換セシト工藤岩吉ヨリ山村澄三ト拙子ニ返書云々ニ付此界紙ニ押印致吳ル様申述セシヲ以テ情實尤ト相考何氣ナク押印致セリ即チ明治十三年七月三十日付ノ證書ニ明治十二年一月四日工藤村治ヨリ池邊田村ニ差入タル米借用證書ニ拙子辨濟受人ニ相立候處相違無之云々證書認メ見セ候ニ付夫ニテハ惡敷段申聞ケシニ岩吉ハ直チニ目前ニテ押捺ニ候故別段證書認メ直シ取換シ置候其後明治十三年十月七日大分警察署ニ出頭候上始メテ岩吉カ

押捺ニ隱匿シ居タルヲ覺知セリ今ヤ該證書ヲ見ルニ證書中七月三十日付ニテ書面ヲ賞ヒ受タル云々記載アルト雖モ自分ニ於テ曾テ七月三十日ニハ證書賞受ケタルコト無之亦明治十二年二月四日工藤村治ヨリ池邊田村ニ差入レタル米借用證書ニ押印致シタト云フ覺モナク然ルチ熊本裁判所大分支廳ニ於テ自分ヲ犯罪人トシ却テ岩吉ヲ無罪人トス此レ承服シ難キ所ロナリ亦宣告中山村澄三ト相謀リ工藤岩吉ヲシテ不實ノ證書ヲ認メサセ以テ其方ハ受人ノ義務ヲ免ントセシヤ明白ナリ云々然レモ自分ハ全ク眞實ノ證書ヲ認メサセ不辜ノ冤枉ヲ免レントスルノ所爲ナレハ何ソ眞ニ立タル受人ノ義務ヲ免ル、如キ不條理ヲ爲スアラシヤ加之宣告中況ヤ池邊田村工藤村治工藤岩吉供述ニ照シ云々トアリト雖モ證書取替ノ節ハ池邊田村工藤村治ハ居ラス其場ニ居ラサル者ノ其ノ原由ヲ知ルノ理アラシヤ故ニ知ラサル者ノ供述ニ照スハ尤モ不條理ノ甚キ者ナリ此レ裁判其當ヲ失ヒ且ツ無辜ノ人民ヲシテ憾ヲ吞ミ冤ヲ含マシムルニ至ルモノト思慮ス依テ奉告候ニ付何卒相當ニ御裁判奉仰候也

辨明

上告人漆間新吾ニ於テハ前記ノ如ク申立ツルト雖モ工藤岩吉ノ自首狀ニ據レハ明治十三年七月二十八日新吾ニ宛テ岩吉カ差入タル證書ハ新吾等カ下書ヲ示シ請求セシニ就キ實母「カタ」殿ヨリ自分借出シ私ニ貼印シタルトノ文言ヲ記載シタル旨ノ證書ヲ起草シテ之ヲ交附シタルト云ヒ又明治十三年七月三十日附新吾外一名カ押印シテ工藤岩吉ニ差入レタル證書ニモ工藤村治ヨリ池邊田村ニ差入レタル米借用證書ニ辨濟受人ニ相立タルハ相

違之レナキ旨ヲ記載シ且ツ其他ノ書類ニ據リ參照スレハ新吾ハ該米借用證書上ニ受人ニ立チナカシ其義務ヲ免レント謀リシ犯述明白ナリトス因テ原裁判所ニ於テ雜犯律不應爲條不應爲重キニ問ヒ懲役七十日ニ處斷シタルハ不法ノ裁判ニアラス

判決

右ノ如クナルヲ以テ熊本裁判所大分支廳ニ於テ明治十四年二月二十六日漆間新吾ニ云渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スル者也  
第三百六十九號

○判文(盜田野穀麥ノ件)明治十四年三月十四日上告  
明治十四年三月三十日判決

群馬縣上野國西群馬郡澁川  
驛平民

小林兼吉

明治十四年二月  
五十六年七月

右兼吉カ所爲ニ對シ明治十四年三月四日熊谷裁判所前橋支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡タリ其方儀外丸甚三郎ヨリ借受ケル畑地ニ植付有之入澤藤作ノ所有ニ係ル里芋ハ既ニ自己ノ所有ニ歸シタルヲ以テ堀取リタルニテ決シテ竊取セシニ非サル旨申立ルト雖モ第一星野藤作第二事主入澤藤作第三外丸甚三郎等ノ仲供ニ據テ之ヲ觀レハ入澤藤作ノ所有ナル判然タルニ因リ故サテニ盜取リタルモノト認定シ其估計金二圓右科賊盜律盜田野穀麥條ニ照シ懲役六十日申付ル

小林兼吉ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年三月十四日日本院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

此段明治十三年四月中群馬縣上野國西群馬郡澁川驛平民入澤藤作ナル者同縣同國同郡同驛平民外丸甚三郎畑地五反四畝步賣渡シタル處同縣同國同郡同所寄留新瀉縣平民星野藤作ナル者買主外丸甚三郎ニ對シ該地ノ田三反九畝步借受ケ度趣申入レタルニ付右甚三郎ニ於テハ遠國ノ人ニ貸渡シ難ク旨ヲ申尤當地(即チ澁川驛)ノ者加判ヲ爲サハ貸渡シ可申ト申シタルニ付星野藤作自分方ニ參リ加判致シ吳侯様兩三回依頼爲スニ付自分甚三郎方ニ參リ借地ノ談判致シタル處甚三郎ノ申スニハ小林兼吉(即チ自分)小作人トナリ借リ吳侯様申候間自分はレヲ承諾シ即チ自分小作人ニ相立テ借受ケタリ然ル故ニ同縣同國同郡同驛平民都丸多十郎ヲ以テ證人ト爲シ小作證不相認メ連署ノ上甚三郎方ニ持參仕候處如何ノ事故アリシニヤ唯今小作證ヲ受取リテハ不都合ノ廉有之故暫ク控吳侯様申之ニ付其時ハ一ト先歸參其翌月(即チ六月)證書差入正ニ其節自分ノ借地ト相成リタルヲ以テ星野藤作ニ自分ヨリ貸シ渡シヨリ依テ星野藤作方ニ該地ニ到リテ見ルニ未タ麥ハ生立居ル故時付(俚言作入)ヲ致サントセシニ該畑ニ何種子カ時付有之候故同人自分方ニ來リ如何ナル譯カ先般借受ケタル畑ニ種子ノ時テアル哉相尋テラレ候處自分モ毫モ心得居テサルヲ故不思議ニ存シ同人同道ニテ行キ見レハ果シテ(里芋大豆唐キミ小)時付アル故自分ヨリ先地主(即チ賣主入澤藤作)方ニ罷越シ里芋其他ノ種ヲ時付アルハ如何ナル理由ナル哉ト承合シタルニ入澤藤作ノ曰ク右ハ先頃母間違ニテ時付ケタル芋其他種々ノモノナレハ

成熟ニ至ル迄貸與候様申就テハ何レニカ示談可致ト其節ハ立別レ歸參シタルニ入澤藤作  
 ハ一ト度モ自分方へ參ラサルニ依リ自分ヨリモ屢督促シタルニ入澤藤作及ヒ外丸甚三郎  
 來リ折角植付タル種子ナレハ成熟ニ至ル迄是非貸與候様申スニ付右ハ事實星野藤作ニ貸  
 渡ス約ナレト折角植付ケタル者ナレハ其儘ニ貸渡ス可ケレト小作證書ヲ自分ヨリ甚三郎  
 ニ差入アルモノ故小作證書ヲ自分へ受取タキ旨ヲ申シタルニ書付杯ハ職人ニテ加判ニ相立  
 可キ人モ無之且當今之兩續キニテ金圓モ無之故證書ナシニテ借受度キ趣キ申金圓モ亦タ  
 證書ヲモ差出ス事ヲ諾セサルニ依リ自分ノ申スニハ最早七月ニモナリ小作金ヲ納ム可キ  
 際ニ當リ小作金モナク證書モナクテハ難貸渡旨申シタル處入澤藤作ハ憤懣ノ狀ヲ露ハシ  
 高聲ヲ發シ然ラハ諸時物ヲ刈リ切り捨ツル趣キ申スニ付自分ヨリ其義ハ勝手ニ可致併シ  
 無法ニ刈取ルニ於テハ其筋へ訴出ツル旨申シタルニ地主外丸甚三郎モ居合セテ共一言  
 モ口ヲ出ス事出來カタクニ付歸參致スト申立出テントナルニ際シ入澤藤作ノ曰ク然ラハ  
 唯今時付アル種子物ハ其儘ニテ種代丈ケ候様申スニ付其示談社至當ナレハ實地熟視ノ  
 上相當ノ價格ヲ定メ取引可致事ニ示談行届外丸甚三郎並ニ入澤藤作自分ノ三人ニテ該畑  
 ニ到リ熟視シ入澤藤作方へ罷越シ種代ノ談判ニ及ヒ候處藤作ノ答フルニ金壹圓貫ヒ度ク  
 趣申スニ付篤ト星野藤作ト相談ノ上挨拶可致旨相答歸參シ右ノ趣キヲ星野藤作ニ  
 藤作ハ外丸甚三郎所有ノ中聞候處同人モ承諾致シ右星野藤作其節金圓ノ持合モ無之ケレ  
 ノ田ニ草取リシテ居  
 共外丸甚三郎ヨリ日雇賃ノ不受取モノアル由ニテ同人方へ受取ニ罷越シタル處甚三郎ノ  
 申スニハ入澤藤作ヨリ金拾五圓程可受取金有之故差引ニ致シ差遣ス趣キ申シタリ依テ之

レヨリ自分該畑ハ進退致ス趣キ二日程經テ星野藤作ヨリ承知致シ居候且星野藤作モ該畑  
 ニ入澤藤作カ刈取リシ麥ノ根(俚言カツハ)ヲ拔キ且ハ草刈リ等致シ居リタルニ星野藤作  
 ハ事故アリテ原籍新潟縣下へ是非歸ルニ付テハ跡ヲ引受ケ耕作致シ吳候様達テ申スニ付  
 以前星野藤作ヨリ種代トシテ外丸甚三郎ヲ經テ入澤藤作へ相渡シ置キタル金壹圓ヲ自分  
 ヨリ星野藤作ニ渡シ自分引受ケ耕作致シ同年即チ明治十三年八月中有畑麥成小作金ノ中  
 外壹圓ヲ地主甚三郎へ相渡シ受取證自分名宛ニテ受領致置候故轍頭轍尾自分所持ノ權利  
 アルモノナルカ故該作物ハ悉旨自分収獲シ芋ハ同年九月十七日堀取同縣同郡伊香保  
 村ニ嚮キ同日澁川驛へ參リタル處豈ニ圖ラン官ノ命令ナリトテ拘引セラレ澁川警察署ニ  
 テ御糾彈ヲ蒙リタル處芋ヲ堀取リ嚮キタルハ不良ノ由詰問ヲ受ケタレ共元來前條ノ理由  
 ナルヲ以テ我カ所有ノ財産ヲ嚮シニ何ソ不良ノ理由萬々アラサル旨申立候ニ付熊谷裁判  
 所前橋支廳へ御差廻シニ相成リ今回懲役六十日ノ御處刑ヲ蒙リタレ共此ノ宣告最モ當チ  
 失シ居ル者ト信スルナリ如何トナレハ同文中第一星野藤作第二事主入澤藤作第三外丸甚  
 三郎等ノ仲供ニ據テ之ヲ觀レハ入澤藤作ノ所有ナル判然タルニ因リ故サヲニ盜取リタル  
 モノト認定シ云々トアリ夫レ前々陳述スル如ク芋種代ハ星野藤作ヨリ外丸甚三郎ノ手ヲ  
 經テ入澤藤作ニ相渡シ既ニ星野藤作ノ所有ニ歸シ居タルヲ同人カ歸國スルニ付自分引受  
 同人へ種代相渡シタルヲ以テ轍頭轍尾自分ノ所有ナリ且曰ク里芋ナルモノハ春ニ種ヲ下  
 タル秋ニ至リ始メテ成熟スルモノナリ其前時付アリタル麥ヲ入澤藤作カ刈取リタル跡ニ  
 テ其根ヲ堀リ又草ヲ刈リテ勞カスル事ヲ事實入澤藤作ノ所有ニ係ルモノナレハ黙止シ居

ルノ理由萬々アル可カラス且自分ヨリ夏成小作金ヲ外丸甚三郎ニ渡ス可キ理由モアル可  
カラス且三反九畝歩ノ畑ヲ十三ニ區劃シ入澤藤作カ種子ヲ下タシタル(末尾圖面ノ如ク)  
七ヶ所ニ耕シ其收穫スルノ秋ニ際シテハ悉皆自分カ所得セリ然ルチ單リ里芋ノミ入澤藤  
作ノ所有ト爲シ罪ヲ斷スルハ如何ノ理由ナルヤ自分ノ了解シ能ハサル所ナリ故ニ御院ニ  
向ツテ裁斷ノ破毀ヲ需メ公明ノ御處分ヲ蒙リ度上告仕候以上

辨明

小林兼吉ニ於テ堀取リタル里芋ハ已ニ所有權ニ歸シタル者ナリト辨護スト雖モ初メ該地  
所ヲ入澤藤作ヨリ外丸甚三郎ニ賣渡ノ際已ニ植付アル蕎麥及里芋ハ成熟ノ後チ藤作於テ  
收入スヘキ契約アリ然リ而テ兼吉カ所有ニ歸シタリト稱スヘキ者ハ該地賣買ノ後入澤  
「トシ」カ過誤ヲ以テ特附タル大小豆粟ノ三種ニ止ルハ藤作甚三郎及外丸嘉市等カ申立ニ  
ニ依リ明瞭ナリ故ニ原裁判所ニ於テ故ラニ盜取リタルモノト認定シ盜田野藪麥條ニ照シ  
處斷シタルハ不當ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルニ依リ明治十四年三月四日熊谷裁判所前橋支廳ニ於テ小林兼吉ニ言渡タル裁  
判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スル者也  
第三百七十號

○判文(詐欺取財ノ件)明治十四年三月十日上告  
明治十四年三月三十日判決

愛媛縣讚岐國香川郡北龜井

や

町平民

溝淵千代三

明治十四年二月

二十九年十一月

一月

明治十四年二月二十八日松山裁判所高松支廳ニ於テ右千代三ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀明治十一年十一月中小國藤吉ヨリ椎茸經節二品領受セシハ通常ノ賣買ニ過キサル  
旨辨護スト雖モ信シ難キヲ以テ之ヲ論述スルコト左ノ如シ

第一最初片山松次郎買主トシテ其方及河野八百次同伴事主小國藤吉方ニ到リ物品調査等  
爲セシハ各口供ノ符合スル所ナリ依テ松次郎ノ本意如何ヲ審スルニ同人ハ從來該品賣買  
セシト無ケレハ相場ヲ不知調金ノ目的モ亦殆ト無キカ如シ然レハ真正ノ買取者ニ非ラサ  
ルヤ明ナリ而シテ當時其方及八百次ハ其情ヲ知ルヤ否判然ナラスト雖モ其方カ明治十二  
年六月四日及明治十二年九月九日爲シタル口供ニハ松次郎カ飯リシ後ニ手付金五拾錢ヲ  
渡ストアリテ明治十二年十月廿日ノ口供ニハ手付金五拾錢ヲ松次郎ヨリ借用シテ藤吉へ  
渡タリト申立夫レ如此前後ノ口供矛盾スルハ眞實ヲ吐露セサルノ證ト見認メタリ  
第二小西親城宅へ物品送付スルヤ直ニ代金付與ス可キ契約ナリ而シテ其目的タル即チ松  
次郎ト賣買ヲ結了セシムヘキノ趣意ニシテ實ニ明治十一年十一月十三日ノ事ナレハ當時  
松次郎カ金調如何ハ更ニ掛念無キ筈ナルニ喜多辰藏カ明治十二年九月十日ニ爲シタル口  
供ニハ明治十一年十一月十二日ニ於テ既ニ藤吉ヨリ該品買取ノ件ニ當リ千代三八百次ヨ  
リ金貳拾五圓借用致度旨申入アリニ趣キ申立左レハ該品調査セシ一日前ニ在テ金策セシ



者ノ如シ之レ即チ疑ヘキノ一點ナリトス而テ松次郎ノ違約ハ觀城方ニテ發シリト申供スルニ松次郎ハ既ニ最初藤吉方於テ拒絕シタレハ該品觀城方へ送付セシハ意外ニ出シカ如ク供述セリ又松次郎ノ破談ニ依テ藤吉へ現品返戻セント欲スルモ諾セサルヲ以テ無據内金拂ヲ爲シテ斷リタル趣果テ此事眞實クラハ假令藤吉ヨリ謝儀ヲ請ルモ同人ヲ饜應スヘキ道理無シトス然ルニ却テ藤吉ヲ吾妻亭へ招待セシトハ是亦疑可クシテ信ス可カラズ因テ其事理ヲ案スルニ藤吉等ヲ他所ニ誘引シ其隙ニ乘シテ物品ヲ掠ントノ策略ニ外ナラサル者ト見認メタリ

第三小西觀城宅於テ藤吉カ内金拂ヲ承諾シ物品引渡タル證ト爲シ明治十一年十一月十三日付手附金五拾錢請取證及百九拾四圓借用證券ヲ請取トノ明文アル證書共藤吉ノ自筆云々申立ト雖モ凡金員借用證書ナル者ハ後日返濟スヘキノ契約ヲ表スルニ過サレハ負債主之ヲ債主へ交付シタリトテ尙又前顯ノ如キ證ヲ交換スヘキ道理アラザリヤ因テ藤吉ヲ糾スニ手付金ノ請取ヲ出シタルハ此書面ニアラス其他更ニ覺無シト陳述スルヲ以テ同人ノ筆跡及店判實印ニ至ル迄悉ク調査スルニ該證ハ藤吉ノ自筆ニアラス及店判實印ニモ符合セズ又ハ拇印ニテ判然ナラザル者アリ旁以テ詐爲ノ證ト見認タリ加之明治十一年十一月廿五日片山松次郎カ高松警察署へ呈シタル手續書ヲ閱スルニ明治十一年十一月十三日小西觀城方於テ千代三該品買取シタル趣ヲ以テ代金借用ノ頼談受タレ共斷リ及フ處此場ニテ破談ハ難相濟ニ付吾妻亭へ同伴致度云々申シタリトノ旨趣ナルヲ以テ内金拂等ノ事ハ總テ空言ナリト認定セリ

第四抑其方等眞正ノ商業ヲ以テ該品買取セシ者タラハ其賣先ヲ包藏ス可キ道理無シ然ルニ一旦之ヲ阿波ノ國辨吉へ賣却セリト偽リ審問上掩蔽シ難キ場合ニ至リ始テ香川富藏へ賣與セシヲ白狀スルニ付其賣買代金ヲ比照スルニ其方等ノ口供ヲ假信スルモ貳百圓以上ノ代金未タ貳拾圓ノ外拂入スシテ其品物ヲ莫太ノ低價ニ賣却シ求テ損毛ヲ爲ス者ノ如シ故ニ内金拂ヲ爲タル者ニ非スト信認ス而シテ目前ニハ賣主藤吉ト談判シ蔭ニ廻テ他ニ賣却爲ス等事急迫ニ涉ル情狀詐欺ノ證據ト見認タリ

前顯列舉スル如クニシテ事主藤吉ノ申立ニ於ケル事理明白更ニ一點ノ疑所無キニ依リ松次郎ヲ初メ無金ニ買取ノ約定ヲ爲シ及藤吉等ヲ吾妻亭へ誘引シ又ハ香川富藏へ低價賣却スル等ノ事跡ヲ詐欺ノ明證ト見認メ呈供スル所ノ證書ハ犯跡ヲ掩ハントスルノ所爲ナリト信認シ其方等ハ藤吉ヲ欺キ椎茸經節二品ヲ詐取セシ者ト斷定セリ而テ椎茸二箱經節二匹ハ小西觀城カ拐帶セシ如ク陳述スルモ見ルヘキ證據無キヲ以テ既ニ藤吉カ取戻シタル椎茸九箱ヲ除外經節九匹椎茸二箱ハ悉皆得財ト見認メ之ヲ評價セシムルニ估計金九拾七圓六拾錢ナリ手付金五拾錢ヲ扣除シ賍金九拾圓以上右科賊盜律詐欺取財條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ懲役三年申付ル

但資力限リ賠償セシム

千代三ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年三月十日付ヲ以テ大審院ニ差出シタル上告狀ノ要領ハ左ノ如シ

裁判言渡書ニ論述スル所ハ一モ其意ヲ解スル能ハス其物品ヲ他へ低價ニ轉賣シ或ハ小國

藤吉ヲ酒亭ニ招待シタルカ如キ形狀アルヲ以テ真正ノ賣買ニアラスト認定シ小西觀城カ  
拐帶ニ係ルモノ亦之レニ計贓セラレタルハ不法ナルヲ以テ原裁判ノ破毀ヲ求ム

辨明

上告人溝淵千代三カ片山松次郎等ト通謀シ名ヲ賣買ニ假リ小國藤吉ヨリ鯉節椎茸若干估  
計金九拾七圓余ノ物品ヲ詐取シタルハ原裁判ニ論述ニル所ヲ以テ明白ナリ而シテ其裁  
判ヲ不法トナスヘキモノナク上告ノ趣意ハ到底無證據ノ辨解ニ過キヌシテ採用スルヲ得  
サルモノトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年二月廿八日松山裁判所高松支廳ニ於テ溝淵千代三ニ言渡シ  
タル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スルモノナリ

第三百七十一號

○判文(盜田野穀麥ノ件) 明治十四年三月十日上告  
明治十四年三月卅日判決

長崎縣肥前國西彼杵郡西浦

上村平民

若 杉 俊 作

明治十四年二月  
二十六年八月

右俊作カ所爲ニ對シ明治十四年二月廿八日長崎裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
其方儀明治八九年頃西彼杵郡字障子山林壹反七畝歩ヲ北高來郡古賀村森九平ニ賣渡ス

節其方田地ニ沿フタル丈ケハ殘シ置キ賣拂ハサル所存ナリト申立レモ果シテ殘シ置タル  
モノナレハ右畝歩ヲ切り山林帳ニ記載シ地租ヲ可納管ナルニ其儀ナキハ盡ク賣拂ヒタル  
證據ナリ然ルヲ其方於テ右樹木ヲ笠山由太郎ニ賣拂ヒ切取ラセタルハ其方於テ右木ヲ盜  
ミ賣拂ヒタルモノトス依テ右科賊盜律盜田野穀麥條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ贓金拾圓五  
拾錢ナルヲ以テ懲役七十日情ヲ量リ二等ヲ減シ懲役五十日申付ル

若杉俊作於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年三月十日本院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

第一條

長崎裁判所ノ判文ニハ森九平エ山林ヲ賣渡ス節其方田地ニ沿フタル丈ケハ殘シ置キ賣拂  
ハサル所存ナリト申立レモ果シテ殘シ置タルモノナレハ右畝歩ヲ切り山林帳ニ記載シ地  
租ヲ可納管ナルニ其儀ナキハ盡ク賣拂ヒタルノ證據ナリ然ルヲ其方於テ右樹木ヲ笠山由  
太郎ニ賣拂ヒ切取ラセタルハ云々トアリテ其文意タル太タ了解シカダシ如何トナレハ  
判文ニ(盡ク賣拂ヒタルノ證據ナク)トアルヲ觀レハ「俊作」カ申立ル如ク果シテ田地ニ沿  
フタル丈ケハ殘シ置タルヲ明瞭ナレハ之レヲ賣却スルモ之レヲ伐採スルモ皆「俊作」カ權  
内ニ在テ敢テ他人ノ喙ヲ容ル、所ニ非ス然ルヲ長崎裁判所ニ於テ笠山由太郎ニ賣拂ヒ切  
取ラセタルハ其方ニ於テ右木ヲ盜ミ賣拂ヒタルモノトシテ賊盜律盜田野穀麥條ニ依リ處  
分セラレタルハ畢竟裁判ノ精密ナラサルヨリ如斯曖昧タル判決ヲ下サレタリ是「俊作」カ  
本條ニ於ル頗ル疑團ヲ來シ不服タル所以ニシテ取消ヲ求ルノ一ナリ

第二條

判文ニ贓金拾圓五拾錢ナルヲ以テ懲役七十日云々トアレ其拾圓五拾錢タルヤ山林ノ地所及ヒ其地ノ樹木ヲ合セ計算シタル見積リ代價ニシテ「俊作」カ「笠山由太郎」へ賣拂ヒタルハ該地ニアル立木ノミニシテ即チ金三圓ノ評價ヲ以テ賣却シ内金貳圓ヲ請取而シテ「由太郎」ハ右立木ノ内四分ノ一ヲ伐採スルニ際シ「森文造」カ告訴ニ係リタレハ未ダ其四分ノ三ハ該地ニ存立セシノミナラス假令不殘之ヲ伐採スルモ公價ヲ以テ論スレハ則チ僅ニ金三圓ヲ出テス然ルヲ長崎裁判所ニ於テハ地所ト樹木トヲ合セ計算シタル代價ヲ以テ判決セラレタルハ是レ不服タル所以ニシテ取消ヲ求ムルノ二ナリ

辨明

若杉俊作ニ於テ前記ノ如ク申立ルト雖モ西浦上村木場郷ノ内字障子山三百五拾九番地壹反貳畝歩ノ地所戸長役場帳簿取調候處森九平ノ所有地ニ相違無之旨該戸長中村淺太カ證明スルノミナラス俊作カ長崎警察署ニ於テ爲シタル口供ニ自分儀所有ノ字障子山林ヲ森九平ナルモノへ賣渡シ云々現今森九平倅森文造ノ所有ニ相成居候儀相違無之然ルヲ自分儀笠山由太郎へ賣渡候儀奉恐入候事ト有之因是觀之ハ該山林ハ森文造カ所有ナルヲ明知シナカラ該山ニ生立シタル雜木ヲ笠山由太郎ニ賣渡シタル所爲ハ即チ盜賣ナリトス而テ右由太郎カ既ニ伐採シタル雜木四百貳拾本ヲ評價シテ金拾圓五拾錢ト相成タルハ俊作カ口供ニ明記アリテ自ラ詳知スル所ナリ故ニ原裁判所カ盜田野藪麥條ニ依リ贓金拾圓以上懲役七十日情法ヲ酌減シ懲役五十日ト言渡シタルハ不適當ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年二月廿八日長崎裁判所ニ於テ若杉俊作ニ申渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スルモノナリ

第三百七十二號

○判文(讒毀ノ件)明治十四年三月十一日上告  
明治十四年三月卅一日判決

山形縣羽前國南置賜郡割出  
町士族奥羽新報編輯長

登坂政純

明治十四年三月  
二十四年五月

明治十四年三月二日福島裁判所米澤支廳ニ於テ右政純ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀明治十三年十二月十一日奥羽新報魔王ノ鏡欄内ニ米澤郵便局ノ不埒ト題シ該局取扱役星野儀八郎ノ職務ニ關シ讒毀シタル科讒謗律第四條ニ依リ罰金三十圓申付トノ御裁判御申渡候儀ハ字書ニ謂也傷真曰讒ト有テ無罪ノ良人ヲ謂傷スルヲ讒毀ト云フ郵便局ハ政府ノ立寄カル、所ニシテ官民緊要ノ通信ヲ取扱フ者ナレハ職務上壹錢ノ私ヲ爲スヘカラサルハ固ヨリ論ヲ待タス候然リニ該郵便局ニ於テ一昨年

本年本月二日於福島裁判所米澤支廳明治十三年十二月十一日奥羽新報魔王ノ鏡欄内ニ米澤郵便局ノ不埒ト題シ該局取扱役星野儀八郎ノ職務ニ關シ讒毀シタル科讒謗律第四條ニ依リ罰金三十圓申付トノ御裁判御申渡候儀ハ字書ニ謂也傷真曰讒ト有テ無罪ノ良人ヲ謂傷スルヲ讒毀ト云フ郵便局ハ政府ノ立寄カル、所ニシテ官民緊要ノ通信ヲ取扱フ者ナレハ職務上壹錢ノ私ヲ爲スヘカラサルハ固ヨリ論ヲ待タス候然リニ該郵便局ニ於テ一昨年九月中當新報社員目賀多信順ヨリ東置賜郡宮崎村小林新次右衛門へ送ル郵書ノ目方ヲ改

メ貳匁分アルトテ四錢ヲ徴収シテ貳錢切手一枚ヲ貼付シ遞送シタリ該時ハ星野儀八郎ヨリ懇々ノ申託ニ付紙上ヘ記載延引致候得共尙又重テ米澤新聞社員窪島良輔ヘ關シ壹錢ノ私ヲ爲シタリ新聞新報ハ事實ヲ直筆シテ世人ノ公益ヲナシ大政ノ一助ヲモナスヘキ者ナレハ該郵便局兩度ノ私ハ有罪ノ者ト認メ爾後不体裁改良爲致度爲メ米澤郵便局ノ不埒ト題シ記載致候事ニテ聊カ無罪ノ良人ヲ讒毀シタル事ニハ無之候此レ御裁判ノ趣不服ノ第一也

米澤新聞社員窪島良輔ヨリ米澤警察署ヘ差出シタル始末書寫左ニ記載ス此レ米澤郵便局ノ不埒タル證ナリ

始末書

山形縣南置賜郡膳仲町十九番地士族

窪島良輔

二十四年

明治十三年十一月十五日大坂仕留窪島勇藏ヘ書留書狀並南置賜郡下奥田村齋藤勘兵衛ヘ送ル書狀都合二通ヲ差出サント郵便局ニ至リ書留書狀ヘハ貳錢切手四枚ヲ購求貼付シテ差出シ勘兵衛ヘハ壹錢端書一枚ヲ購求シ用文ヲ認メシカ下奥田村ニハ郵便局ノ設置アラサルヲ以テ持込稅壹錢切手一枚ヲ購求シタキ旨陳シ處掛員林梅次ハ掛員ノ姓名問開取申候ニハ有合フ處ノ壹錢切手先刻奥羽新報社ヘ悉皆相拂ヒ只今賣切レ一枚モ

無之且ツ又掛員安部孝太郎退局ノ節切手等ヲ入レ置候筆筒ノ鍵持參候處同人本日不參ニ付直ニ帳場ヨリ受取貼付ノ上遞送スヘキニ付切手代價ヲ可差出旨申スニヨリ端書並ニ切手代共取合ニ貳錢ノ銅貨ヲ相渡シ遞送方不都合無之様依頼仕候處該掛員右代價ヲ受取机上ニアル箱中ヨリ一枚ノ端書ヲ差出シ過刻モ受取置シ通壹錢切手賣切レ候爲前同斷ノ計ヲ以テ受取候趣懇々教示シタルノ後私差出シノ端書モ一同ニ箱中ニ相入候迄儘ニ見認候ヘハ決テ間違等ハ有之間敷儀ト存シ歸宅仕候然ルニ其後齋藤勘兵衛私方ヘ入來致候節過日差出候端書ヘ切手貼用ニ不相成其爲メ貳錢ノ持込稅ヲ相拂ヒ候趣キ申聞候ニ付決テ左様ノ儀ハ無之筈ト存シ能ク取調候處持込稅相拂候事實際無相違候ヘハ私郵便局ヘ參リ掛員安部孝太郎ヘ前條ノ次第ヲ直談仕候處同人辨明候様ニハ必定郵便局ノ疎漏ニ候半ト被存候ヘハ至急ニ歩ミ直シテ致シ先方ノ損失ニ相懸ケ申間敷候ヘハ右様可心得旨相話シ候ニ付打捨テナク其儀ヲ取計ヒ吳候様私ヨリモ相話シ候處尙又同人申六様ニハ同局ニ於テ日々數多ノ書留取扱候事故精細ニ相調候トモ問々如此間違出來候ヘハ爾來尙又精密ニ取扱可申ニ付新聞紙上等ヘハ掲載不致吳候様懇頼有之候然ルニ此度郵便局ニ於テ切手代價不受取旨告訴仕リ御尋ニ付右端書相副ヘ此段申上候右之通相違不申上候以上

右

明治十四年二月十七日

窪島良輔

右始末書確證ニ不相成由扱々迷惑千萬ナル事ナリ書留書狀ニアラサルヨリ外ハ人民ヨ

リ郵便局ニ對シ捺印ノ確證可取様無之者ニ候ヘハ郵便局ニ於テ如何ナル不体裁有之ト雖モ人民ハ權利ヲ伸ヘキ様無之蹂躪致サレ次第ニ唯伏スルヨリ外無之事ナリ當郵便局ハ兼テ不体裁ノ儀聞及候内前件ノ次第ヲ聞キ後來ノ戒ニ掲載シタルヲ却テ讒謗律ニ觸レタリトテ罰金ヲ科セラレタルハ不服ノ第二也

明治十三年十二月十一日米澤郵便局ノ不埒ト題シタル原稿ヲ印刷課ヘ相廻ハシ歸宅仕リ不在ノ處ヘ該郵便局詰安部孝太郎來社印刷長大野薫ニ談判シタル云々米澤警察署ヘ上申仕候處大野薫御召喚ノ上御尋問ニ相成リ同人ヨリ差出シタル始末書左ニ  
始末書

山形縣南置賜郡元細工町三

番地奥羽新報印刷長

大野 薫

二十二年

明治十三年十二月十一日發行ノ奥羽新報ヘ米澤郵便局ノ不埒ト題シタル原稿ヲ掲載スヘク編輯長登坂政純ヨリ印刷課ヘ相廻シタルニ付印刷ニ取掛リ已ニ出來候處該郵便局詰安部孝太郎姓名存スレバ姓名ハ知ラサル處此間開取申候來社申スニハ十一月十五日ニハ不在局ナレハ必ス代理人ノ疎漏ヨリ此ノ如キ間違ハ生シタルニ相違ナキニ付掲載方見合セヘキ旨懇々依頼ニ預候得共未タ印刷セサル内ナレハ御依頼ニ應スレハ已ニ印刷出來シタルコナレハ只今ハ如何トモ致方無之ニ付次號ノ新報ニ於テ取消スヘキ旨返答仕候處安部孝太郎

ニ於テモ必ス取消スヘキ旨依頼シテ歸局仕候故即チ第九號ノ新報ニ於テ取消仕候前陳ノ通相違無御座候仍テ始末書進呈仕候也

右

大野 薫

明治十四年二月十七日

右始末書ノ通り米澤郵便局ヨリ記載見合セヘキ旨懇々依頼ニ來リタレハ已ニ印刷出來シタルニ依リ其ノ依頼ニ應セサル爲メ該郵便局ヨリ讒毀セラレタルト上訴シタルニ相違ナキモノナリ若シ私セサルコトナレハ頭ヲ低レテ當社ヘ態々來リ依頼スルノ理由ナシ惡事ヲ爲シテ隱スハ人間ノ常ナレハ能事實ノ眞偽ヲ御認辨被下度候郵便局ハ私シタルノ證據ナキヲ以テ無罪拙者ヨリ差出シタル證據何故ニ無効トナシ罰金ヲ科セラレタルヤ此レ不服ノ第三也

辨明

登坂政純ニ於テハ明治十三年十二月十一日奥羽新報魔王ノ鏡欄内ニ米澤郵便局ノ不埒ト題シタル一編ヲ掲ケタルモ有罪ノ者ト認メ記載シタルモノニテ無罪ノ良人ヲ讒毀シタルニ非ラサル旨申立ルト雖モ抑公判ニ於テハ檢事ノ公訴ニ對シ被告人カ罪ノ有無ヲ判決スルモノニシテ郵便局役員ヲ犯罪者ト爲シ檢事ノ公訴ナキノミナラス讒毀者純ヨリ告發シタルニモ非ラサルニ因リ原裁判所カ該公訴ニ對シ讒謗律第四條ニ依リ罰金三拾圓言渡シタルハ不法ノ裁判ニ非ララストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年三月二日福島裁判所米澤支廳ニ於テ登坂政純ニ言渡シタル  
裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スルモノナリ  
第三百七十三號

○判文(他人所有地ノ桐木擅賣セシ件)明治十四年三月三日上告  
明治十四年三月三十一日判決

長崎縣肥前國東松浦郡白木

村平民

牟田要七

明治十四年二月  
三十一年一ヶ月

同縣同國同郡同村平民

中村源一

明治十四年二月  
四十四年二ヶ月

明治十四年二月二十六日長崎裁判所管内唐津區裁判所ニ於テ右要七外一名ニ對シ左ノ裁判  
ヲ言渡シタリ

其方共儀明治十三年陰曆七月中同村進藤佐太郎カ所有地ニ立タル桐木擅賣セシト當警察  
官ヨリ賊盜律盜田野穀麥條ニ依リ處斷ス可キ者トノ公訴ニ因リ訊問遂ル處其地所ハ原ト  
庄屋役地ニシテ會テ其役廢セラレタレハ其方等村中共有ニナル可キ者ト自認スル央佐太  
郎カ所有ニナリシト云フヨリ爭論ヲ生シ該地ノ内村中ノ小作ニ係ル小作米ハ村中ニ集收  
シ佐太郎ニ納メスシテ終ニ明治十一年中長崎上等裁判所ニ於テ村中共有地タル終審ノ判

決受ケタルヲ以テ該地悉皆村中ニテ耕耘スル旨佐太郎方ニ通示之ヲ各自ニ分配小作シタ  
ル後又佐太郎カ上告ニ依リ明治十二年大審院ニ於テ地券下付前ニアリテハ該地ヲ爭フ可  
キモノニアラス云々ノ裁決ヲ受ケ其後又明治十二年中地方官ニ於テ右地所佐太郎カ所有  
ナリトノ違アリシト聞之ヲ不當トシ當縣令ヲ相手取り出訴中ニテ其作ハ尙ホ故ノ如クナ  
レハ其地ニ生スルモノハ皆所德シ來リシニヨリ桐木モ亦然リト思料シ賣却セシ旨陳述ス  
且佐太郎カ申立ニヨルモ其爭訟ト小作米等授受セサルトハ概テ右ニ同シ加之其小作米ハ  
方今其村中ヲ相手取り佐賀支廳ヘ出訴中トアリ殊ニ故意ヲ以テ賣却シタル證據ナシ又  
其地所々有權當時佐太郎ニ確定シタルニセヨ未タ其執行ヲナシタルニアラス右等ノ條々  
ニ因テ觀レハ其桐木賣却ハ全ク前陳述ノ如ク自己ノ所德ス可キモノト思料シタルニ由  
而已ナラス其思料ハ正當ノ理由アリト認定ス茲ヲ以テ罪ノ問可キナシ

長崎縣八等警部川浪莊一於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年三月三日付ヲ以司法卿  
ヲ經由シ明治十四年三月十八日本院檢事ヨリ送致シタル上告ノ要旨左ノ如シ

牟田要七中村源一ノ兩名東松浦郡進藤佐太郎ノ樹木ヲ擅賣シ鐘田孫四郎ニテ買取リタル  
一件別紙甲號書類ヲ以テ長崎裁判所管内唐津區裁判所ヘ公訴セシニ別紙乙號ノ通り裁判  
宣告相成ル處其裁判ニ意見有之上告スル趣意左ノ如シ

一抑當縣管内東松浦郡舊庄屋人民間ニ生スル訴訟地ノ義ハ其成立ノ原因ハ本條ニ必要廢  
藩置縣ノ際唐津縣ニ於テ舊庄屋ノ私有地ト處分有シニ各村ノ内何人ニ教唆セラレシヤ村  
民ノ共有ナリトシ訴訟ヲ起スノ勢有テ各村ニ波及セントス依テ當長崎縣廳ニ於テ右者舊



モノト爲ス

判決

右ノ理由ナルヲ以明治十四年二月二十六日長崎裁判所管内唐津區裁判所ニ於テ牟田要七中  
村源一へ言渡シタル裁判ヲ破毀シ熊本裁判所ニ於テ審判スヘキ旨ヲ達シタルニ付長崎縣八  
等警部川浪莊一ニ於テハ相當ノ處分ヲナスヘシ

第三百七十四號

○判文(他人所有地ノ桐木擅賣セシ件)明治十四年三月三日上告  
明治十四年三月三十一日判決

長崎縣肥前國東松浦郡淵ノ

上村平民

鐘田孫四郎

明治十四年二月  
三十四年一ヶ月

明治十四年二月二十六日長崎裁判所管内唐津區裁判所ニ於テ右孫四郎ニ對シ左ノ裁判ヲ言  
渡シタル

其方儀明治十三年陰曆七月中牟田要七外一名ヨリ桐木買受ケ伐木シタル際進藤佐太郎ヨ  
リ右ハ佐太郎カ所有ナレハ持運フ事相ナラスト答メテラレタル後擅ニ之ヲ下駄ニ作リタル  
ヲ以テ當警察官ヨリ賊盜律窩主條第三項故買スル者ニ擬シ處斷ス可キ者トノ公訴ニ因リ  
訊問スル處其木生シタル地所ハ明治七年以來要七等ノ村中ト佐太郎ト互ニ所有權ヲ爭ヒ  
タル末既ニ要七等カ共有地タル終審ノ判決ヲ受ケ現ニ所有シ居ルニ當時佐太郎カ所有ニ

中

確定シタルコト未タ其執行ヲ爲シタルニアラサレハ要七等ハ之ヲ賣却スルノ權利アリ

テ佐太郎ハ之ヲ答ム可キ權利ナキモノト認定ス殊ニ其賣買ハ原ト故意ニ出シ情狀ナキ等  
ヲ以テ前顯ノ如ク其桐木ヲ佐太郎へ斷リ無ク下駄ニ使用セシト雖モ罪ノ問可キナシ

長崎縣八等警部川浪莊一於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年三月三日付ヲ以司法卿  
ヲ經由シ明治十四年三月十八日本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ要旨左ノ如シ

牟田要七中村源一ノ兩名東松浦郡進藤佐太郎ノ樹木ヲ擅賣シ鐘田孫四郎ニテ買取りタル  
一件別紙甲號書類ヲ以テ長崎裁判所管内唐津區裁判所へ公訴セシニ別紙乙號ノ通り裁判  
宣告相成ル處其裁判ニ意見有之上告スル趣意左ノ如シ

一抑當縣管内東松浦郡舊庄屋人民間ニ生スル訴訟地ノ義ハ其成立ノ原因ハ木條ニ必要廢  
藩置縣ノ際唐津縣ニ於テ舊庄屋ノ私有地ト處分アリシニ各村ノ内何人ニ教唆セラレシヤ

村民ノ共有ナリトシ訴訟ヲ起スノ勢アリテ各村ニ波及セントス依當長崎縣廳ニ於テ右者  
舊唐津縣ニ於テ舊庄屋ノ所有ト定メシ通り既ニ處分濟ニ付心得違ノ者無之樣論達可致區  
戸長迄相達スト雖竟ニ明治十年三月中東松浦郡白木村人民ヨリ當時ノ戸主進藤源次郎ヲ

相手取り長崎裁判所佐賀支廳へ共有地取戻ノ訴ヲ起セシニ村民共敗訴ト成テ以テ不服ヲ  
唱ヘ長崎上等裁判所へ控訴ニ及ヒタルニ被告進藤源次郎敗訴ニ及ヒタル

上告ノ爲メ上京中人民共衆多ノ進藤源次郎ニ於テハ又不服ヲ唱ヘ大審院へ上告セシニ明  
治十二年十一月長崎上等裁判所ノ裁判ヲ破毀セラレタリ其判決ノ概意ハ該地ノ如キハ

行政官ノ處分ヲ受ク可キ者ニテ裁判上論定ス可ラサル者トノ義ナリ其後明治十三年九月



ニ至リ長崎縣廳ニ於テ地券ヲ進藤佐太郎ニ下付シテ同人ノ所有地タル事ヲ確定スト雖モ村民共衆多ノ勢ヲ以テ依然返却セサル趣キナリ然ルニ明治十三年中牟田要七外壹名該地耕作セシヨリ該地ニ生スル樹木モ亦所徳ス可キ者ト強認シ擅ニ鐘田孫四郎へ賣渡シ孫四郎ハ買取ノ後進藤佐太郎ニ差咎ヲテ擅賣ニ係ルヲ承知シナカラ費用シタルヲ以テ進藤佐太郎訴出ノ通リ當署ニ於テモ進藤佐太郎へ地券迄下付シアリテ同人ノ所有地ト確定シタル場所ニ立チタル樹木ヲ勝手ニ賣却シタルハ擅賣タル事相違ナク又擅賣ニ掛リタル樹木ヲ承知ノ上費用シタルハ盜賊故買ト同様ナリト認定セシニ長崎裁判所管内唐津區裁判所ニ於テ何レモ罪ノ問フヘキナシトシ右宣告文中其地所々有權當時佐太郎ニ確定シタルニセヨ未ダ執行ナシタルニアラズトアリ其執行トハ何ヲ指シタル者カ行政官ニ於テハ地券ヲ發行シ地所々有之權ヲ定ムルノ外民事裁判上執行届チナズ如キ例規有ル可カラズ乃漫然タル見解ニテ憑依スル所ナシト謂可シ抑地所々有權ノ如キハ地券發行以前ト雖モ假リノ所有主アラサルナリ其時ト雖モ他人之ヲ勝手ニスルヲ得スノ假リノ所有主ハ賣買讓渡等ノ權ヲ有シ行政官ハ租稅ヲ徵收スルヲ得可シ然ルニ況ヤ地券發行ノ後確定セシニ於テチヤ然ルニ宣告文中自己ノ所徳ス可キ者ト思料シタルニ由ル而已ナラス其思料ハ正當ノ理由アリト認定ストアリ何等ノ言シヤ本犯共ハ愚蒙ノ一人民誤見ヨリ出テ所徳ス可キ者ト思料スルニセヨ前陳ノ如シ進藤佐太郎ノ所有地ニ確定セル樹木ヲ擅賣シタルニ正當ノ理由アリトハ條理顛倒ノ見解ナリトス又鐘田孫四郎宣告文中要七等ハ之レヲ賣却スルノ權利アリテ佐太郎ハ之レヲ答ム可キ權利ナキ者ト認定ストアリ所有權ナキ要七等ハ

賣却スルノ權利アリテ所有權ノ確定シタル地主ハ賣却セラル、モ之レヲ答ムルノ權利ナシトハ條理顛倒亦甚シト謂可シ如斯唐津區裁判所カ條理顛倒ノ見解ヲ下シテ牟田要七外二名ヲ罪ノ問フ可キナシトセシハ不當ノ裁判ニ非スヤ即牟田要七中村源一所犯ハ賊盜律盜田野穀麥條ニ依リ鐘田孫四郎ハ盜賊窩主條第二項故買スル者ニ擬シ處斷スルヲ至當ナリト認定ス

辨明

被告鐘田孫四郎カ明治十二年陰曆七月中牟田要七中村源一ヨリ買得シタル桐木ハ出訴中ニ係ル論地ノ樹木ナレトモ其情ヲ知テ之レヲ買得シタルニ非ス進藤佐太郎カ云々中聞タルモ既ニ剪伐後ナルノミナラス佐太郎於テ直接ニ差留ヘキモノニ非ス故ニ原裁判所カ罪ノ問ヘキナシト斷定シタルハ不法ニ非スト爲ス

判決

右ノ如クナルヲ以明治十四年二月二十六日長崎裁判所管内唐津區裁判所ニ於テ鐘田孫四郎ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナシト爲ス

第二百七十五號

○判文(妻テ刃傷セシ件)明治十四年三月五日上告  
明治十四年三月卅一日判決

愛知縣尾張國海東郡今宿村  
七十七番地平民爲吉父隱居

服部惣九郎

明治十四年三月  
三十一年一月

右惣九郎カ妻「クリ」ハ刃傷シタル所爲ニ對シ明治十四年二月二十三日名古屋裁判所ニ於テ  
左ノ裁判ヲ言渡シタリ

其方儀明治十四年一月廿一日憤怒ノ余短刀ヲ以妻「クリ」ノ頭上ニ傷ヲ負シタル始末遂吟  
味處折傷ニ非ラサルノミナラス妻ノ自ラ告ケサルヲ以テ其罪ヲ論セス候事

愛知縣六等警部高島正載ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年二月五日附キ以テ大  
審院ニ上告スル爲メ司法卿ヲ經由シ大審院檢事ヨリ送付シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

該犯ノ妻ヲ傷セシハ刃傷ナリ闘毆律ニ刃傷スル者ハ徒二年トアリ折傷以上タル論ヲ俟タ  
ス然ルチ折傷ニ非ストシ不論罪ニ處シタリ

該犯起訴ノ手續タルヤ「ムラ」並「クリ」ノ兩人當署ニ於テ取調ヘタルニ別紙乙號口供ノ如  
ク「ムラ」ニ於テ「クリ」ハ今ヨリ官ニ訴ニ參ルト申聞タレハ同人ハ夫レナラ頼ムト申候

ニ付直チニ訴出「云々又「クリ」ニ於テハ「自分」ハ取込居候處母「ムラ」儀官ニ御届ニ參ルト  
申候ニ付然ラハ頼ムト申同人ヨリ訴ヘ出テ賃ヒ候尤モ「ムラ」ヨリ右様中吳レストモ自分

ハ捨置氣ニハ無之ト雖モ何分ニモ取込中母ヨリ御届スルト申吳タル故不取敢相頼ミタル  
次第「云々ト有之右口供ニ依レハ固ヨリ妻ノ自ラ告ルト同視ス可キモノナルニヨリ茲ニ

公訴ニ及ヒタルナリ  
辨明  
服部惣九郎カ妻「クリ」ニ負傷シタルハ折傷以上ナリ然ルチ名古屋裁判所ニ於テ折傷ニ非

ストナシタルハ不當ト謂ハサルヲ得ス如何トナレハ惣九郎カ「クリ」ヲ傷セシハ刃傷ナリ  
闘毆律ニ刃傷スル者徒二年トアリ折傷以上タル論ヲ俟スト雖モ同律凡夫妻ヲ毆ハ折傷ニ  
非ルハ論スル「勿レ折傷以上ハ凡人ニ二等ヲ減ス妻ノ親ヲ告ルヲ待テ乃坐ストアルニ照  
シ「クリ」ノ親ヲ告ケサルヲ以テ其罪ヲ論セスト言渡シタルハ到底不適當ノ裁判ニアラス  
ト爲ス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年二月二十三日名古屋裁判所ニ於テ服部惣九郎ハ言渡シタル  
裁判ハ破毀スヘキ理由ナシトス

第二百七十六號

○判文(不應爲ノ件) 明治十四年三月十五日上告  
明治十四年三月三十一日判決

岐阜縣美濃國惠那郡付知村

八番地平民

牧野 丈右衛門

明治十四年三月  
六十二年二月

右丈右衛門カ明治十四年三月四日名古屋裁判所岐阜支廳ニ於テ審問ヲ受ケ爲タル口供左ノ  
如シ

明治十一年二月二十七日名古屋裁判所御嵩區裁判所於テ召喚ニ應セサル科ニ依リ罰金  
壹圓ニ處セラル

明治十三年一月三十一日同裁判所岐阜支廳ニ於テ制ニ違フ科ニ依リ懲役一百日ニ處セラル

一自分儀明治十三年十月十四日附テ以自村舊正副戸長地券ヲ詐リ受候處當戸長右ニ荷擔引戻方差拒ノ事件ト題シ水野忠鼎ヲ相手取り岐阜警察本署へ吟味願出候事

一右願ニ付自村四百余戸ヨリ委任ヲ受タレモ一々委任狀受取ル儀ハ繁雜ナルヲ以テ止テ六拾名限リノ委任狀ヲ受取置キ右委任狀ヲ添へ願上ケ候事

一右委任狀ハ自分責付中明治十三年五月廿日ヨリ同六月八日迄ノ間ニ宗頓寺隱居家ニ在テ委任者中ノ拾人ノモノヨリ渡吳レタル儀ニ有之何ノ某アリシコハ更ニ覺無之候事

一然ルニ山本一件ハ警察署又ハ内務省出張山林局等何レへ願立テ然ルヘキヤモ計リ難キニ付委任狀ト題シタル紙本一葉並ニ年號月日自分宛名ハ先ツ省置キ只山論一件東京上等裁判所へ控訴御審理中相手方ニ於テ該山伐木致タルニ付右差留方出願云々委任ノ前文ノ

ニ有之タル儀ニ候事

一然ル處明治十三年十月中自分御處刑濟御解放相成リタルニ付前顯受取置タル委任狀前文一葉ヲ取捨テ更ニ自分自筆ニテ委任狀第一葉ヲ認メ相加へ印紙貼川消印致シ明治十三年十月二日ノ日付ヲ記載シ及ヒ右委任狀末葉ニ牧野丈右衛門殿ト自書ヲ加へ自分實印ヲ

押捺シテ繼印致シタルニ相違無之候事

一然ルニ右委任狀第二葉第一野ニ單ニ同二番願主トアル願主ノ二字ハ改竄致タル痕相見へ至ク同斷トアリタルニ字ヲ切抜キ更ニ願主ノ二字ヲ書顯ハシタルモノニ有之候事

一而ノ同番トアルハ原來自村四百余戸ノ委任ヲ受ケタル末次第ニ委任者モ相減シタルニ付右減シタル者共ハ總テ之ヲ省キタルニ付單ニ同二番ノ字相見候次第有之候事

一右委任狀ヲ自分取直タルハ唯人名ヲ省タル迄ノコトニ止マリ候事

右ノ通相違不中上候事

一委任者中小南勇吉外數名ヨリ自分へ歎願ノ一條美濃界紙ヲ以テ委任狀ニ捺印致タル處相違ノ廉有之尙又七厘界紙ニ取直シ調印云々申立候趣御申聞ナレモ右七厘界紙ノ委任狀ハ山林ニ付出願方ノ委任狀ニテ警察本署へ差出タル委任狀ハ即チ美濃界紙ノ委任狀ニテ廢紙ニ致タルモノニハ無之候事

右ノ口供ニ依リ明治十四年三月四日名古屋裁判所岐阜支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ言渡タリ

其方儀明治十三年十月十四日附岐阜警察本署へ吟味願出ツル書面ニ添へ差出ス居村數名ヨリ依頼ヲ受ケタル委任狀第一葉紙本ハ私擅ニ取換タルノミナラス年號月日自己ノ宛名共自筆記入チナシ作爲セシ科例第二百四十六條不應爲重ニ問ヒ懲役七十日一等ヲ量減シ

懲役六十日申付候事

牧野丈右衛門ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年三月十五日本院ニ上告ノ要領左ノ如シ

牧野丈右衛門於テハ居村人民ノ委任ヲ受ケ水野忠鼎ヲ相手取り警察官ニ吟味出願シタルニ該件ニ付被告ノ曲直ヲ糾サス却テ原裁判所ニ於テ突然不應爲重ニ問ヒ一等ヲ酌減シ懲役六十日ニ處セラレタルハ不服ナリトノ事

辨明

牧野丈右衛門於テ村民等ヨリ取受シタル委任狀ノ第一葉紙ヲ取換ヘ私擅ニ委任ノ條件ヲ記載シ及ヒ年號月日自己ノ宛名ヲ記入シ之ヲ警察官ニ差出タルハ私ノ文書ヲ詐爲シタルモノナリトス然リ而テ本案丈右衛門カ被告事件タル水野忠鼎ニ係リ警察官ニ吟味出願シタルノ件ニアラス故ニ原裁判所於テ私ノ文書ヲ詐爲シタルモノナリトシ改定律例第二百四十六條ニ照シ處斷シタルハ不法ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年三月四日名古屋裁判所岐阜支廳ニ於テ牧野丈右衛門ニ言渡タル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スル者ナリ

第三百七十七號

○判文(賭博ノ件)明治十四年三月九日上告  
明治十四年三月卅一日判決

愛知縣三河國額田郡六地藏

町四十九番地平民

杉田秋太郎

明治十四年三月

同縣同國同郡同町三十番地

平民源十三男

鈴木源吉

明治十四年三月

同縣同國同郡祐金町百三番

地平民

藤田萬次郎

明治十四年三月

同縣同國同郡兩町八番地平

民粟津良助長男當今同郡拾

金町寄留

粟津候吉

明治十四年三月

同縣同國同郡上六ツ名村四

拾三番地平民

畔柳國三郎

明治十四年三月

同縣同國同郡明文寺村二百

五番地平民

野本辰次郎

明治十四年三月

同縣同國同郡明文寺村二百

五番地平民

野本辰次郎

明治十四年三月

同縣同國同郡明文寺村二百

五番地平民

野本辰次郎

明治十四年三月

同縣同國同郡傳馬町平民

鈴木彦吉

明治十四年三月  
二十三年四月

右秋太郎外六名カ所爲ニ對シ明治十四年三月二日名古屋裁判所岡崎支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ  
言渡シタリ

杉田秋太郎

其方儀明治十四年二月十二日ノ夜同郡島町山田悦太郎宅ニ於テ藤田萬次郎其外數名ト金  
錢ヲ賭シ博戯ヲ爲ス科賭博律ニ依リ杖八十再犯ニ付一等ヲ加ヘ杖九十ノ處捕吏カ逮捕ヲ  
受ルニ臨ミ現場ヲ逃走スルモ后自首スルノ情ヲ量リ一等ヲ輕減シ杖八十申付候事

鈴木源吉

藤田萬次郎

栗津候吉

畔柳國三郎

野本辰次郎

其方共儀明治十四年二月十二日ノ夜同郡島町山田悦太郎宅ニ於テ杉田秋太郎其外數名ト  
金錢ヲ賭シ博戯ヲ爲ス科賭博律ニ依リ杖八十捕吏ノ逮捕ヲ受ルニ臨ミ現場ヲ逃走スルモ  
后自首スルノ情ヲ量リ一等ヲ輕減シ各杖七十申付候事

鈴木彦吉

其方儀明治十三年一月十二日ノ夜同郡島町山田悦太郎宅ニ於テ杉田秋太郎其外數名ト金  
錢ヲ賭シ博戯ヲ爲スト雖モ現行犯ニ非ラサルヲ以テ無罪

愛知縣警部代理二等巡查赤尾行廣ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年三月九日附  
ヲ以テ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

抑該被告等ノ内鈴木彦吉ヲ除ク外杉田秋太郎外五名ハ金ヲ賭ケ博戯シ其現場ニ巡查突入  
共犯數名捕ニ就クノ際逃走シ官ノ追捕ヲ知り到底其罪ノ道レ難キヲ覺リ首出シタルモノ  
ニシテ悔懼ノ心尤薄キモノト雖モ官之レテ追跡逮捕スシノ勞ヲ減省セシム而已ナラス賭  
博ノ犯罪者ニ限り自首スルモ減免ヲ與ヘサルノ正條アルヲ見ス故ニ賭博律ニ依リ仍ホ例  
第五十九條凡罪ヲ犯シ云々官ノ捕獲セント欲スル事ヲ聞テ自首スル者ハ本罪ニ一等ヲ減  
スト云ニ照擬處斷ス可キモノナルニ法官ハ其例第五十九條ニ因ラスシテ斷罪無正條々例  
増加律ニ照シ自首減輕ノ裁判セリ鈴木彦吉ハ前書杉田秋太郎外數人ト共ニ同日金ヲ賭ケ  
骰子ヲ以テ丁半ト唱フヘ博戯ヲ爲シタル末共犯者ヨリ一步先キニ歸宅スルヤ間モナク巡  
査出張彼レカ犯セシ賭博現場ニ於テ彼レカ共犯者五名ヲ捕獲シ及ヒ博具財物ヲ得タルモ  
ノニテ被告ハ其共犯數名捕ニ就キタルヲ聞知シ到底捕ノ道レ難キト悟リ自ラ岡崎警察署  
ニ首出セリ然ラハ司法警察假規則ニ依リ觀ルモ彼レカ如キハ現行犯ノ域ニ在ルモノトセ  
サルヲ得ス加フルニ共犯者皆則チ十壹名ノ供述ト相符合シ毫モ疑チ容ル、廉ナクシテ決  
シテ誣指ノ恐レアルモノニアラス然ルチ法官ハ非現行犯ト看做シ無罪ノ裁判セリ  
前條ノ理由ナルニ依リ雜犯律賭博條及名例律犯罪自首條ニ照シ處斷ス可キモノナルニ名

古屋裁判所岡崎支廳ニ於テ鈴木彦吉ノ犯罪ヲ非現行ト看做シ無罪トシ外六人モ捕ノ遁レ難キヲ聞知シ首出シタル藤明瞭ナルモ犯罪自首條ニ因ラス單ニ斷罪無正條々例增加律ニ依リ情法ヲ酌量シ輕減シタルニ止メテ尙ホ自首ノ輕減ヲ與ヘサルハ其當ヲ得サル裁判ト考量スルヲ以テ原裁判破毀ヲ要求スル如斯

辨明

杉田秋太郎外五名カ賭博ヲ爲シ巡查ニ見認メラレ現場捕縛ノ際逃走シ後チ首出セシハ雜犯律賭博條及ヒ改定律例第五十九條ニ依リ聞捕自首ヲ以テ論シ本罪ニ一等ヲ減シ處斷スヘキモノトス又鈴木彦吉カ賭博ヲ爲シ現場立去リタル後チ其現場ニ於テ黨類ノ者捕縛セラレタルヲ聞知シ到底遁ルヘカラサルヲ悟リ自首スルハ現場巡查ニ見認メラレシ共犯者ト同ク現行犯ヲ以テ論シ雜犯律賭博條及ヒ改定律例第五十九條ニ依リ聞捕自首ヲ以テ論シ本罪ニ一等ヲ減シ處斷スヘキモノナリ然ルニ原裁判所ノ裁判茲ニ出サリシハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十四年三月二日名古屋裁判所岡崎支廳ニ於テ杉田秋太郎外六名ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

杉田 秋太郎

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ雜犯律賭博條ニ照シ懲役八十日再犯ナルヲ以テ一等ヲ加ヘ懲役九十日聞捕自首ニ係ルヲ以テ一等ヲ減シ

懲役八十日

- 藤田 萬次郎
- 鈴木 源吉
- 栗津 候吉
- 畔柳 國三郎
- 野本 辰五郎
- 鈴木 彦吉

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ雜犯律賭博條ニ照シ懲役八十日聞捕自首ニ係ルヲ以テ一等ヲ減シ

各懲役七十日

第三百七十八號

○判文(賭博自首ノ件)明治十四年三月八日上告  
明治十四年三月卅一日判決

山形縣羽前國西村山郡清助

新田村平民

佐

藤 勇

明治十四年三月  
三十七年七ヶ月

明治十四年三月四日福島裁判所山形支廳於テ右勇ニ左ノ裁判ヲ言渡シタリ  
其方儀谷澤村相原佐五郎外壹名ト俱々財物ヲ賭シ博戲中捕吏ノ來ルヲ見テ逃走シ追テ自

首セシニ不實ナルヲ以テ減免ヲ與ヘス右科雜犯律賭博條ニ依リ懲役八十日申付ル

但博戯ニ用ヒタル骨牌外貳品取上ル

山形縣四等警部矢部潔ニ於テ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十四年三月八日司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ送致シタル上告狀ノ要領左ノ如シ

佐藤 勇

右之者明治十四年二月廿一日居宅ニ於テ左澤村櫻井友太外壹名ト金錢賭ケノ博奕ヲ爲シ居ルニ付巡查出張捕獲セントスル際逃走シタルヲ詐テ賭博ヲ犯サントヒシ處ニ巡查出張シタルニ付一時其場ヲ逃走セシ極本縣警察本署ニ自首狀差出シタルモ審亂ノ末實情吐露シタルヲ以テ福島裁判所山形支廳ニ公判ヲ求メタル處同廳ニ於テ明治十四年三月四日左ノ宣告ヲ爲シタリ

宣告文略ス

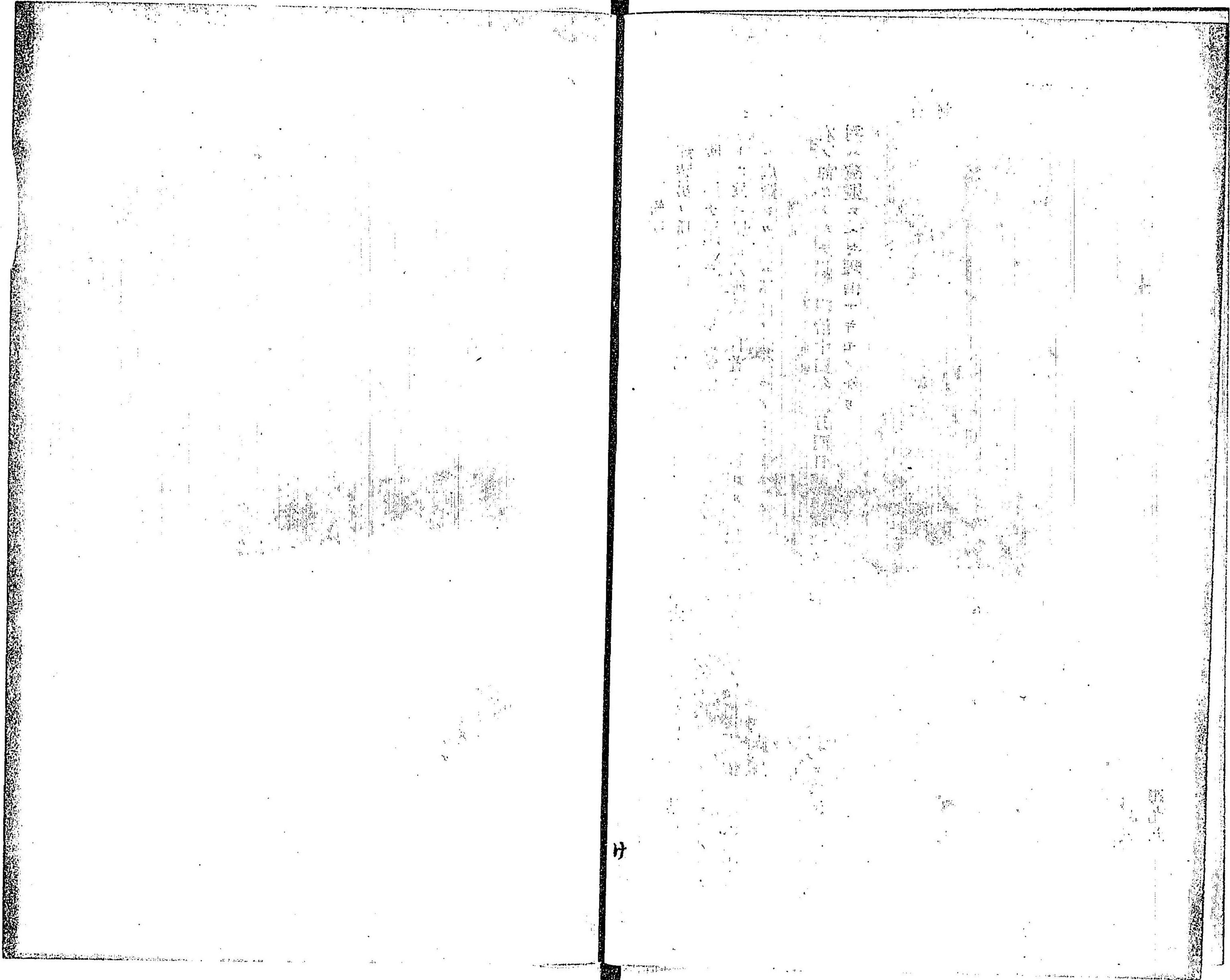
右裁判ノ破毀ヲ求ムル所以ハ其賭博ヲ犯シタルヲ詐テ犯サントシタル趣ニ首出セシハ不實ナルヲ以テ名例律犯罪自首條若シ自首シテ不實不盡ナル者ハ不實不盡ノ罪ヲ以テ之ヲ罪ストアルニ依リ首免ヲ與ヘス本罪懲役八十日ヲ科シ然カシテ巡查ノ捕ヘントスル際逃走セシト首出シタルハ眞實ノコナルヲ以テ例第五十九條官ノ捕獲セント欲スルコトヲ聞テ自首スル者ハ本罪ニ一等ヲ減ストアルニ依據シ本罪ニ一等ヲ減シ懲役七十日ニ處スヘキモノナラン然ルヲ今本罪ノ自首不實ナルヨリ其實ナル聞捕自首ヲ聽サ、ルハ不法ノ裁判ト思考セリ仍テ一件書類相添ヘ此段及上告候也

辨明

佐藤勇カ所爲ハ賭博罪ヲ犯シ巡查ノ捕獲ニ際シ其場逃走追テ首出セシト雖モ其首告スル所ハ即チ不實ニシテ眞心悔懼ニ出テタルモノニアラサレハ減免ヲ與フヘキモノニアフストス故ニ原裁判所於テ自首スルモ不實ナルヲ以テ減免ヲ與ヘス賭博條ニ依リ懲役八十日ニ處斷シタルハ不法ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十四年三月四日福島裁判所山形支廳ニ於テ佐藤勇ニ言渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノナリ



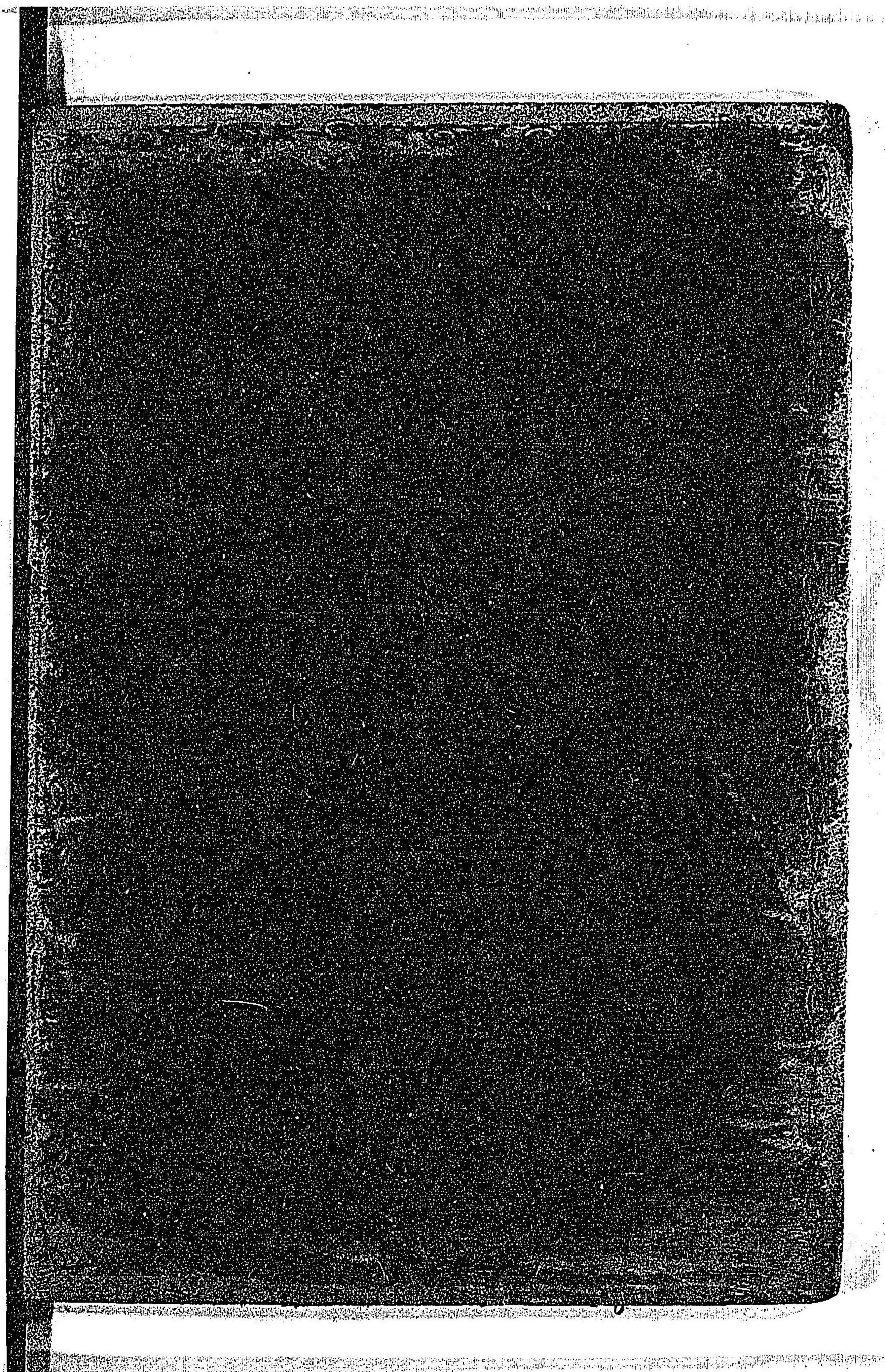
分

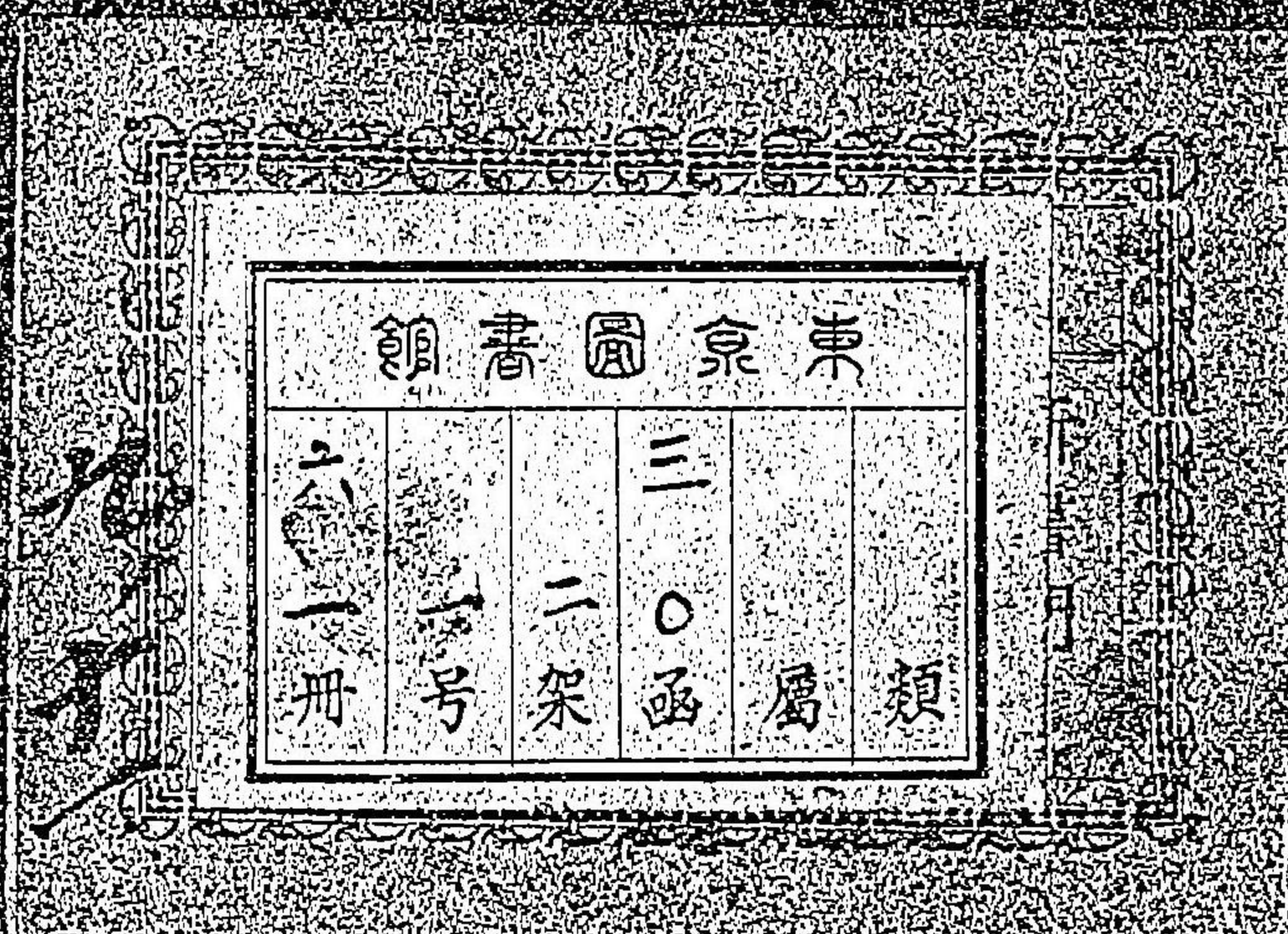


147  
1

明治十四年二月八日 版權屆

定價金貳圓





036550-030-5

CZ-2711-7

大審院刑事判決錄

明8. 6-17. 11, 19-20年  
司法省

M11-24

BBR-0345



